山梨県環境影響評価等技術審議会資料

（仮称）韮崎（にらさき）都市計画道路　1・4・1号
双葉（ふたば）・韮崎（にらさき）・清里（きよさと）幹線
（仮称）佐久（さく）都市計画道路　1・4・1号
南牧佐久（みなみまきさく）線
―委員意見に対する補足説明資料―

環境影響評価 【山梨編】

令和8年10月6日

関東地方整備局
甲府河川国道事務所

目次

補足説明資料1（意見No.4）・・・・・・・・・・・・・・・1

補足説明資料2（意見No.7）・・・・・・・・・・・・・・・2

補足説明資料3（意見No.8）・・・・・・・・・・・・・17

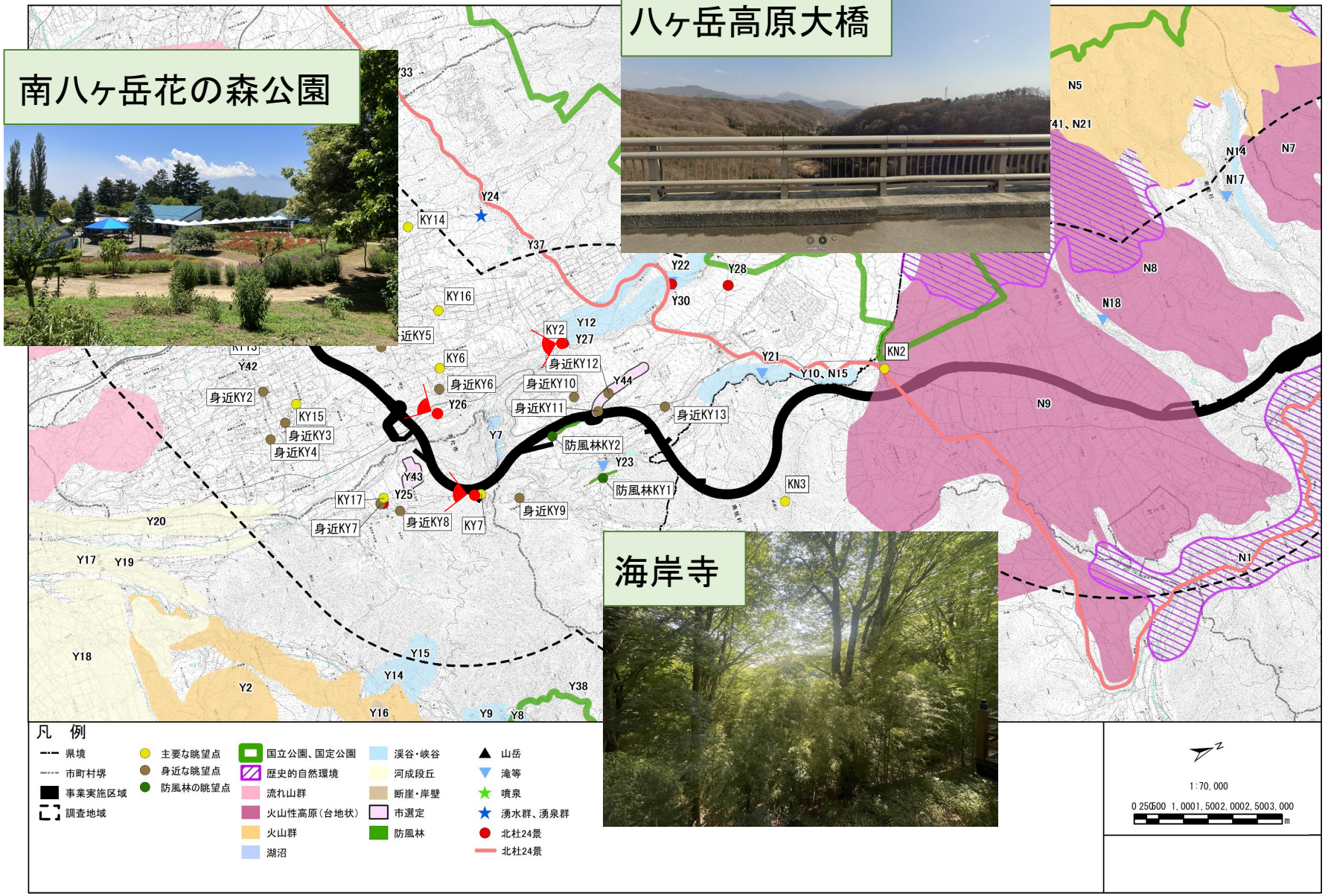
補足説明資料4（意見No.11,12,13）・・・・・・・41

補足説明資料5（意見No.20）・・・・・・・・・・・・49

補足説明資料6（意見No.27）・・・・・・・・・・・・56

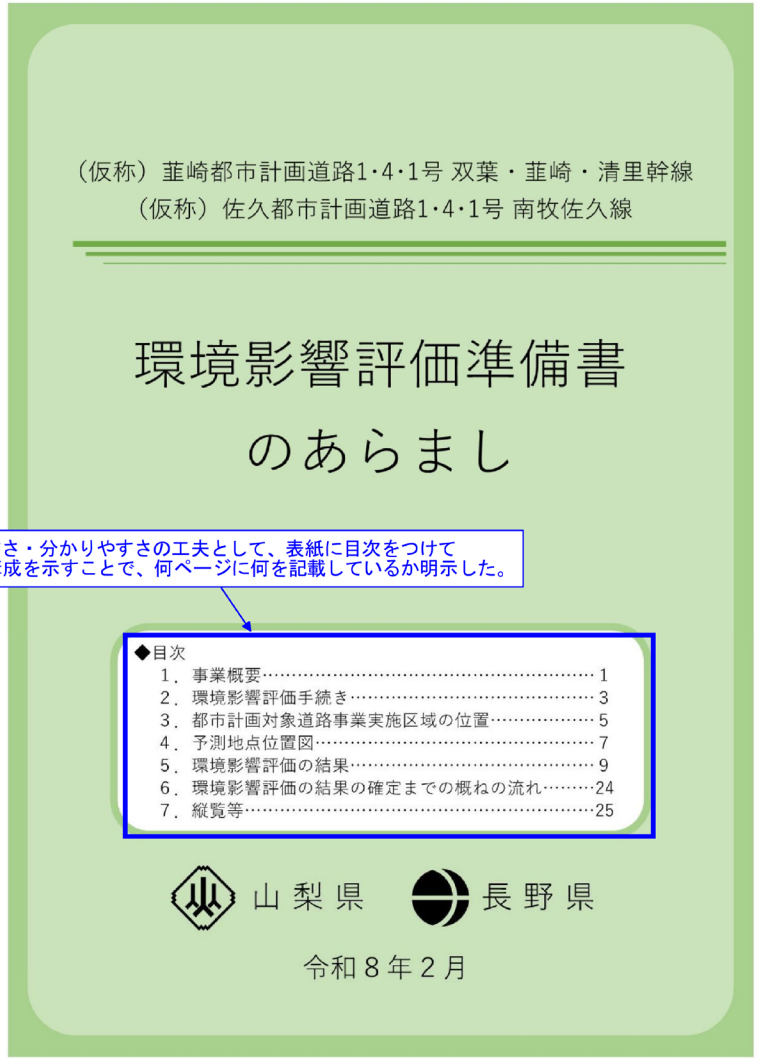
補足説明資料7（意見No.29）・・・・・・・・・・・・57

補足説明資料1（意見No.4、:眺望点からの見え方について）



補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）



（仮称）韮崎都市計画道路1･4･1号 双葉・韮崎・清里幹線
（仮称）佐久都市計画道路1･4･1号 南牧佐久線

環境影響評価準備書
のあらまし

見やすさ・分かりやすさの工夫として、表紙に目次をつけて
資料構成を示すことで、何ページに何を記載しているか明示した。

◆目次

1．事業概要……1
2．環境影響評価手続き……3
3．都市計画対象道路事業実施区域の位置……5
4．予測地点位置図……7
5．環境影響評価の結果……9
6．環境影響評価の結果の確定までの概ねの流れ……24
7．縦覧等……25

山梨県　長野県

令和８年２月

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

見やすさ・分かりやすさの工夫として、本事業の目的や概要をパンフレット見開き1枚でまとめた。

1．事業概要

はじめに

（仮称）韮崎都市計画道路1･4･1号双葉・韮崎・清里幹線及び（仮称）佐久都市計画道路1･4･1号南牧佐久線は、高速自動車国道である中部横断自動車道（長坂～八千穂）を形成するものです。当該路線の整備にあたっては、広域的な交通基盤にあたることから、円滑な都市活動を確保し良好な都市環境を保持するために必要な都市施設として都市計画に位置づけ、長期的な視点から計画的な整備を展開するとともに、インターチェンジ周辺の土地利用や各都市施設相互の計画の調整を図ることができます。

環境影響評価法では、規模が大きく環境に大きな影響を及ぼすおそれがある事業を「第一種事業」として環境アセスメントを実施することとしています。なお、高速自動車国道の新設は事業の規模にかかわらず全てが第一種事業に該当することから、本事業も環境アセスメントの対象となります。

このあらましは、当該都市計画道路における「環境影響評価準備書」の概要を取りまとめたものです。

事業の目的

当該地域では、国道141号の代替路が無いため、地域を結ぶ幹線道路の大雨や積雪による通行止めが発生し地域孤立の懸念があり、また災害で中央自動車道が通行止めとなった場合には東京圏からの広域支援が分断される可能性があります。さらに、国道141号には死傷事故率が平均以上である区間が点在し、走行性にも劣ることから救急搬送時にも課題があります。一方で、観光業や農作物の速達性向上のためにも道路ネットワークのアクセス向上が求められています。

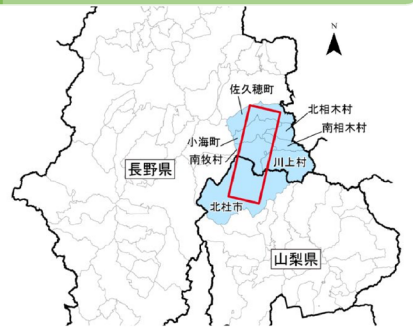
以上の課題と当該路線に求められる機能から、政策目標は以下に示すとおりとします。

○高速道路までの移動時間短縮	○地域の生活交通の円滑化	○企業誘致・雇用の促進
○救急医療施設への移動時間短縮	○災害時の代替路確保	○公共交通の利便性の向上
○主要な観光地等の連携向上	○現道の走行性・安全性の向上	○環境・景観の保全

事業の概要

都市計画対象道路事業の名称	(仮称)韮崎都市計画道路 1・4・1号 双葉・韮崎・清里幹線［山梨県区間］ (仮称)佐久都市計画道路 1・4・1号 南牧佐久線［長野県区間］
都市計画決定権者の名称	■山梨県区間 都市計画決定権者の名称：山梨県 代表者の氏名：山梨県知事　長崎　幸太郎 住所：山梨県甲府市丸の内1丁目6番1号 ■長野県区間 都市計画決定権者の名称：長野県 代表者の氏名：長野県知事　阿部　守一 住所：長野県長野市大字南長野字幅下692番2号
事業予定者の名称	事業予定者の名称：国土交通省関東地方整備局 代表者の氏名：関東地方整備局長　橋本　雅道 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心２番地１
都市計画対象道路事業の種類	高速自動車国道の新設
道路延長	約40.4km（山梨県区間約12.2km、長野県区間約28.2km）
起点、終点	山梨県北杜市長坂町、長野県南佐久郡佐久穂町
車線数	４車線
設計速度	80km／h
道路区分（種級）	第１種第３級
計画交通量	約16,700～21,100台
道路構造の概要	地表式（低い盛土構造、切土構造）、 嵩上式（高い盛土構造、高架・橋梁構造）、 地下式（トンネル構造）

都市計画対象道路事業の位置





1

2

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

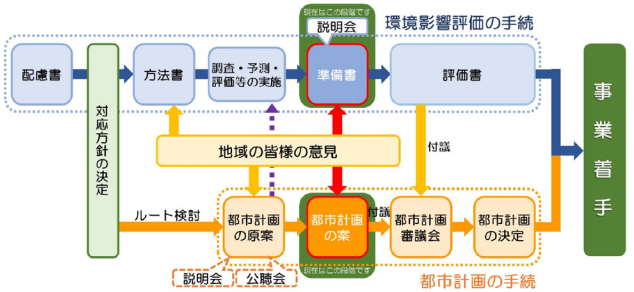
見やすさ・分かりやすさの工夫として、環境影響評価手続きにおけるこれまでの経緯や今後の手続き、調査・予測・評価の手法について、パンフレット見開き1枚でまとめた。

2．環境影響評価手続き

準備書について／これまでの経緯と今後の手続き

「環境影響評価準備書（準備書）」は、「環境影響評価方法書（方法書）」の手続きを経て実施した環境調査の結果や、大気質、騒音、水質、水象、動物、植物などの環境に与える影響の予測の結果、環境への影響を踏まえ講じようとする環境保全措置、これらの結果を踏まえた環境影響評価の結果等について取りまとめたものです。

今後は、準備書に対し頂いた意見の内容を検討し、必要に応じて準備書の内容を見直した上で、最終的に評価書を確定し、都市計画決定の告示と同時に公告・縦覧します。評価書の公告及び都市計画決定の告示をもって、事業着手にあたっての環境影響評価及び都市計画決定の手続きは終了します。



環境影響評価の項目

環境影響評価を行う項目は、事業や地域の特性から、環境に影響を及ぼすおそれのある要素を抽出し、専門家等による技術的助言及び環境影響評価方法書の手続き結果を考慮して選定しました。

影響要因の区分 ＼ 環境要素の区分		①大気質 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質	①大気質 粉じん等	②騒音	③低周波音	④振動	⑤水質	⑥水象	⑦地形及び地質	⑧日照阻害	⑨電波障害	⑩動物	⑪植物	⑫生態系	⑬景観	⑭人と自然との触れ合いの活動の場	⑮文化財	⑯廃棄物等
工事の実施		●	●	●		●	●	●	●			●	●	●			●	●
土地又は工作物の存在及び供用	道路の存在								●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	自動車の走行	●		●	●	●										●		

●：環境影響評価項目

調査・予測・評価の手法

調査・予測・評価の手法は、以下に示すとおりです。

環境要素の区分		調査の手法	予測の手法	評価の手法
①大気質	二酸化窒素、浮遊粒子状物質	二酸化窒素、窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の濃度の状況、気象（風向及び風速、日射量、雲量、気温、湿度）の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	プルーム式及びパフ式による計算	環境保全についての配慮が適正になされているかについて、見解を明らかにすることにより評価 環境基準等との整合が図られているかどうかについて評価
	粉じん等	気象（風向及び風速、日射量、雲量、気温、湿度）の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	季節別降下ばいじん量を予測	
②騒音	騒音	騒音の状況、地表面の状況、沿道の状況について、現地調査を行う。	音の伝搬理論に基づく予測式による計算	
③低周波音	低周波音	住居等の位置について、既存資料調査及び現地調査を行う。	既存調査結果より導かれた予測式による計算	
④振動	振動	振動の状況、地盤の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	振動の伝搬理論に基づく予測式による計算、振動レベルの80％レンジの上端値を予測するための式による計算	
⑤水質	水の濁り	水質（浮遊物質量等）の状況、水象（流量等）の状況、水底の土砂の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	事例の引用又は解析による予測	
	水の汚れ	水質（水素イオン濃度）の状況、水象（流量）の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	事例の引用又は解析による予測	
⑥水象	河川及び湖沼	流量、流況、透査・堆砂の状況、水道水源の状況、ため池の状況（山梨県）について、既存資料調査及び現地調査を行う。	事例の引用又は解析による予測	
	地下水	地下水の状況、帯水層の地質・水理の状況、湧水の状況、温泉の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	事例等の引用による定性的な手法、又は必要に応じて理論モデルによる計算あるいは数値シミュレーション	
⑦地形及び地質	重要な地形及び地質	地形及び地質の概況、重要な地形・地質の分布、状態及び特性、重要な湧泉（温泉、湧水等）の分布、状態及び特性について、既存資料調査、現地調査及び聞き取り調査を行う。	重要な地形及び地質の改変の程度を予測、掘削結果、科学的な知見や類似事例を参考に予測	
⑧⑨その他の環境要素	日照阻害	土地利用の状況、地形の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	等時間の日影線を描いた日影図により予測する方法	
	電波障害	テレビ電波（地上デジタル波を含む）の受信状況、テレビ電波の送信状況、高層建築物及び住居等の分布状況、地形の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	「建造物障害予測の手引き（地上デジタル放送）」（平成17年3月、（一社）日本CATV技術協会）等に示される方法	
⑩動物	重要な種及び注目すべき生息地	動物相の状況、重要な種等の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	科学的な知見や類似事例を参考に予測	
⑪植物	重要な種及び群落	植物相及び植生の状況、重要な種及び群落の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	科学的な知見や類似事例を参考に予測	
⑫生態系	地域を特徴づける生態系	動植物種その他の自然環境に関わる概況、地域を特徴づける生態系の注目種・群集の状況について、既存資料調査及び現地調査を行う。	科学的な知見や類似事例を参考に予測	
⑬景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	主要な眺望点の状況、景観資源の状況、主要な眺望景観の状況について、既存資料調査、ヒアリング及び現地調査を行う。	図上解析、フォトモンタージュ法等による視覚的な表現方法による予測	
⑭人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	触れ合いの活動の場の概況、主要な触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況について、既存資料調査、ヒアリング及び現地調査を行う。	図上解析、触れ合いの活動の場の位置関係から定性的に予測	
⑮文化財	有形文化財・埋蔵文化財	文化財の状況（文化財の種類・位置及びその概要）について、既存資料調査及び現地調査を行う。	類似事例の引用又は解析による予測	
⑯廃棄物等	建設工事に伴う副産物	廃棄物等の種類ごとの発生・処分の状況について、既存資料調査を行う。	事業特性及び地域特性の情報を基に、建設工事に伴う廃棄物等の種類ごとの発生量、事業実施区域での再利用量及び事業実施区域外への搬出量を予測	

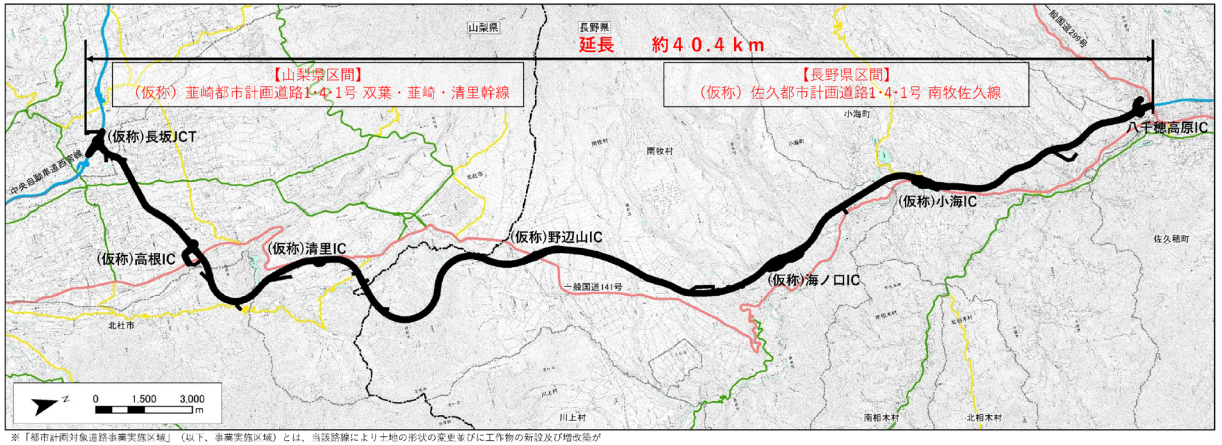
補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

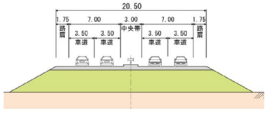
見やすさ・分かりやすさの工夫として、都市計画対象道路事業実施区域の位置や道路構造について、パンフレット見開き1枚でまとめた。

3．都市計画対象道路事業実施　区域の位置

都市計画対象道路事業実施区域の位置



※「都市計画対象道路事業実施区域」（以下、事業実施区域）とは、当該路線により土地の形状の変更並びに工作物の新設及び増改築が想定される概ねの範囲とし、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置が想定される概ねの範囲も含むものとします。
なお、事業実施区域は、準備書の作成の時点において、既に変更の余地のないものとして決定されている区域という趣旨ではなく、その時点において対象事業の実施が見込まれる区域をいいます。



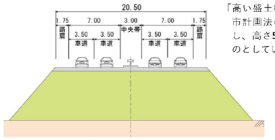
【地表式】（低い盛土構造）



【地表式】（切土構造）

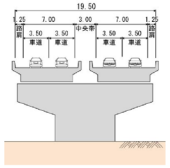


【地下式】（トンネル構造）



【嵩上式】（高い盛土構造）

「高い盛土構造」は、都市計画法の規定を準用し、高さ5mを超えるものとしています。



【嵩上式】（高架・橋梁構造）

凡例
- 都市計画対象道路事業実施区域
- 県境
- 市町村界
- 高速自動車国道
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道

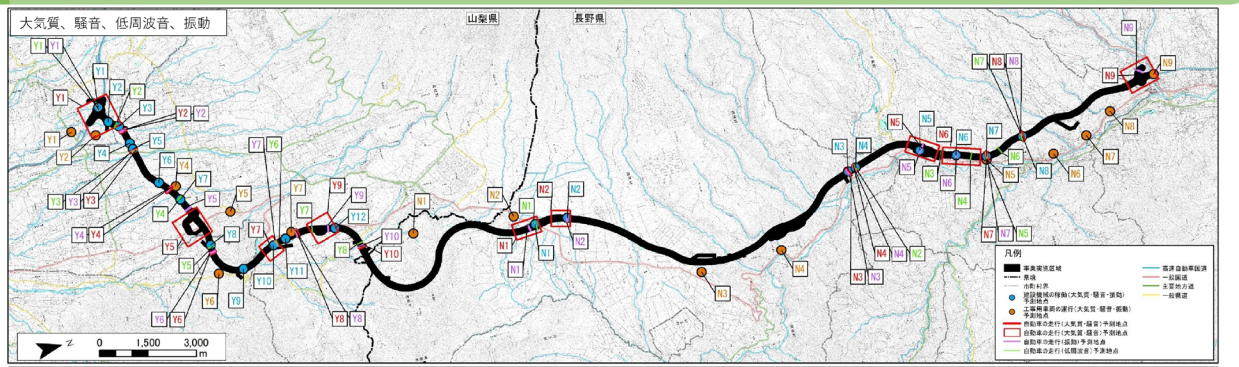
5　6

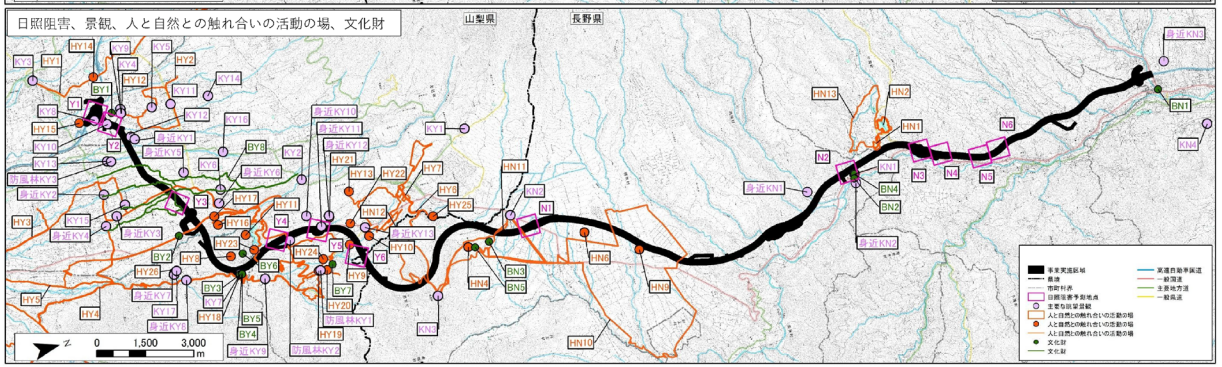
補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

見やすさ・分かりやすさの工夫として、各項目（大気質、騒音、低周波音、振動、日照阻害、景観、人と自然との触れ合いの活動の場、文化財）の予測地点位置図についてパンフレット見開き1枚でまとめた。

4．予測地点位置図





【主要な眺望景観】(山梨県区間)

KY1	南ヶ条展望台	KY12	大泉町西井出
KY2	八ヶ岳高原大橋	KY13	高根町五町田
KY3	長坂ニュータウンステーション	KY14	ニテレイエ場前交差点
KY4	甲斐清掃	KY15	真羽原地
KY5	甲斐総合	KY16	レインボーライン
KY6	駒形神社	KY17	白いい学校跡地
KY7	梅寺寺	身近KY1	梅寺寺
KY8	長坂町大八田（長坂インター南側）	身近KY2	八ヶ岳ハイランド高原（高原町高原）
KY9	大泉町谷戸（長坂インター北側）	身近KY3	長坂（高原町村山北別）
KY10	長坂町大八田	身近KY4	北杜市立高根東小学校
KY11	大泉部原島	身近KY5	長坂（高原町東井出）
身近KY6	旧北杜市立高根北小学校		
身近KY7	白いい学校		
身近KY8	駒形神社		
身近KY9	玉川神社		
身近KY10	真羽原地		
身近KY11	旧長坂町立長坂小学校		
防風林KY1	防風林（高根町五町田）		
防風林KY2	防風林（高根町五町田）		

【人と自然との触れ合いの活動の場】（山梨県区間）

HY1	甲斐駒ヶ岳ロープウェイ	HY14	長坂総合スポーツ公園
HY2	八ヶ岳オートキャンプ場	HY15	清里高原自然休養林
HY3	清里の森	HY16	清泉寮
HY4	清泉寮	HY17	八ヶ岳高原ライン
HY5	清泉寮	HY18	八ヶ岳高原ライン
HY6	清泉寮	HY19	八ヶ岳高原ライン
HY7	清泉寮	HY20	八ヶ岳高原ライン
HY8	清泉寮	HY21	八ヶ岳高原ライン
HY9	清泉寮	HY22	八ヶ岳高原ライン
HY10	清泉寮	HY23	八ヶ岳高原ライン
HY11	清泉寮	HY24	八ヶ岳高原ライン
HY12	清泉寮	HY25	八ヶ岳高原ライン
HY13	清泉寮	HY26	八ヶ岳高原ライン

【文化財】(山梨県区間)

BY1	諏訪神社
BY2	甲斐駒ヶ岳神社
BY3	甲斐駒ヶ岳神社
BY4	甲斐駒ヶ岳神社
BY5	甲斐駒ヶ岳神社
BY6	諏訪神社
BY7	八ヶ岳高原ライン
BY8	諏訪神社

【主要な眺望景観】(長野県区間)

KN1	諏訪湖
KN2	JR諏訪駅
KN3	諏訪湖
KN4	諏訪湖
身近KN1	八ヶ岳高原ライン
身近KN2	JR諏訪駅付近
身近KN3	千ケ日向灰音グラウンド付近

【人と自然との触れ合いの活動の場】(長野県区間)

HN1	諏訪湖
HN2	松原湖
HN4	千沢神
HN5	湖沢牧場
HN9	八ヶ岳ふれあい公園
HN10	野辺山高原サイクリング（ロングコース）
HN11	野辺山高原サイクリング（ショートコース）
HN12	増富山バイキングコース
HN13	松原湖周遊コース

【文化財】(長野県区間)

BN1	上原城の塁
BN2	諏訪の神小松
BN3	さかき稲
BN4	諏訪城跡
BN5	甲陸軍の演習

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

メリハリの工夫として、予測結果が環境基準や参考値を超過した地点については、上段に「環境保全措置実施後」、下段（括弧書き）に「実施前」の予測結果を併記した。
これにより、措置が必要な地点とそうでない地点を明確にし、視認性を高めた。

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

メリハリの工夫として、影響が小さいと予測された項目については、記載を簡略化した。

5．環境影響評価の結果

①　大気質（二酸化窒素・浮遊粒子状物質・粉じん等）

工事の実施

■建設機械の稼働
（予測地点 Y1～Y12、N1～N8）

環境保全措置として、「排出ガス対策型建設機械の採用」、「仮囲いの設置」、「散水」を実施することにより、すべての予測地点において、環境基準及び参考値以下になると予測されました。

さらに、「作業方法の改善」を実施することにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

環境保全措置
◎排出ガス対策型建設機械の採用
◎仮囲いの設置
◎散水
◎作業方法の改善

番号	予測地点	二酸化窒素（ppm） 予測結果※（日平均値の年間98%値）	二酸化窒素（ppm） 環境基準	浮遊粒子状物質（mg/m³） 予測結果※（日平均値の年間2%除外値）	浮遊粒子状物質（mg/m³） 環境基準	粉じん（t/km²/月） 予測結果※（季節別降下ばいじん量）	参考値
【山梨県区間】							
Y1	長坂町大八田1	0.015	0.04～0.06までのゾーン内又はそれ以下	0.027	0.10以下	1.4	10
Y2	長坂町大八田2	0.014		0.027		0.7	
Y3	大泉町西井出1	0.015		0.027		0.7	
Y4	大泉町西井出2	0.016		0.027		0.7	
Y5	大泉町西井出3	0.016 [0.020]		0.027 [0.027]		1.2～4.4 [4.5～15.9]	
Y6	高根町村山北割	0.012		0.029		1.4	
Y7	高根町堤	0.015 [0.019]		0.029 [0.029]		5.1～9.6 [18.6～35.3]	
Y8	須玉町上津金1	0.015		0.029		3.3～7.2	
Y9	須玉町上津金2	0.014 [0.019]		0.029 [0.029]		7.2～9.8 [26.4～35.8]	
Y10	高根町清里1	0.015 [0.018]		0.027 [0.027]		6.2～8.0	
Y11	高根町清里2	0.013		0.027		1.4	
Y12	高根町清里3	0.015 [0.019]		0.027 [0.027]		4.1～6.2	
【長野県区間】							
N1	南牧村野辺山1	0.014	0.04～0.06までのゾーン内又はそれ以下	0.035	0.10以下	0.6～2.3	10
N2	南牧村野辺山2	0.015		0.035		4.5～7.2 [16.5～26.8]	
N3	南牧村海尻1	0.015		0.031		1.4	
N4	南牧村海尻2	0.016 [0.020]		0.018 [0.031]		5.6～9.9 [20.6～36.7]	
N5	小海町豊里1	0.014		0.031		1.4	
N6	小海町豊里縦掛1	0.015		0.033		1.4	
N7	小海町豊里縦掛2	0.018 [0.023]		0.033 [0.034]		5.4～9.2	
N8	小海町豊里2	0.018 [0.026]		0.033 [0.034]		2.4～2.9 [9.0～10.6]	

※予測結果は、準備書に記載している評価値を示しています。また、予測結果の[ ]は、二酸化窒素の建設機械寄与濃度の参考値、粉じんの参考値を超過した地点の、環境保全措置実施前の予測結果を示しています。粉じんについては、季節別の予測値の最小～最大を示し、値がひとつのものは値の季節変動がないものとなります。

■工事用車両の運行
（予測地点 Y1～Y7、N1～N9）

環境保全措置として、「工事用車両の洗車」を実施することにより、すべての予測地点において、環境基準及び参考値以下になると予測されました。

さらに、「工事用車両の分散」を実施することにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

環境保全措置
◎工事用車両の洗車（長野県区間のみ）
◎工事用車両の分散

番号	予測地点	二酸化窒素（ppm） 予測結果※（日平均値の年間98%値）	二酸化窒素（ppm） 環境基準	浮遊粒子状物質（mg/m³） 予測結果※（日平均値の年間2%除外値）	浮遊粒子状物質（mg/m³） 環境基準	粉じん等（t/km²/月） 予測結果※（季節別降下ばいじん量）	参考値
【山梨県区間】							
Y1	長坂町大八田1	0.014	0.04～0.06までのゾーン内又はそれ以下	0.026	0.10以下	1.5～2.2	10
Y2	長坂町大八田2	0.013		0.026		0.5～1.3	
Y3	高根町玉町田	0.013		0.026		3.6～7.9	
Y4	高根町村山北割	0.011		0.029		1.4～2.3	
Y5	高根町長澤	0.012		0.029		0.8～1.8	
Y6	須玉町上津金	0.011		0.029		0.1～0.2	
Y7	高根町清里1	0.013		0.026		0.5～0.8	
【長野県区間】							
N1	南牧村平沢1	0.012	0.04～0.06までのゾーン内又はそれ以下	0.031	0.10以下	5.7～7.0	10
N2	南牧村野辺山1	0.013		0.035		0.5～0.9 [9.8～16.9]	
N3	南牧村野辺山2	0.013		0.035		5.8～8.5	
N4	南牧村海ノ口1	0.014		0.031		2.1～3.7 [41.7～73.8]	
N5	小海町豊里縦掛	0.014		0.033		1.9～3.3	
N6	小海町西馬流	0.015		0.033		0.5～0.8 [11.0～15.1]	
N7	小海町千代里1	0.015		0.033		1.0～1.6 [20.3～32.9]	
N8	小海町千代里2	0.014		0.033		1.6～2.3	
N9	八千穂高原IC付近	0.014		0.035		0.5～0.8 [9.5～15.2]	

※予測結果は、準備書に記載している評価値を示しています。また、予測結果の[ ]は、粉じん等の参考値を超過した地点の、環境保全措置実施前の予測結果を示しています。粉じんについては、季節別の予測値の最小～最大を示しています。

9

土地又は工作物の存在及び供用

■自動車の走行
（予測地点 Y1～Y10、N1～N9）

すべての予測地点において、環境基準以下になると予測されました。

番号	予測地点		二酸化窒素（ppm） 予測結果※（日平均値の年間98%値）	二酸化窒素（ppm） 環境基準	浮遊粒子状物質（mg/m³） 予測結果※（日平均値の年間2%除外値）	浮遊粒子状物質（mg/m³） 環境基準
【山梨県区間】						
平面-Y1	長坂町大八田	下り	0.014	0.04～0.06までのゾーン内又はそれ以下	0.026	0.10以下
断面-Y2	大泉町西井出1	上り	0.014		0.026	
		下り	0.015		0.027	
断面-Y3	大泉町西井出2	上り	0.013		0.026	
		下り	0.013		0.026	
断面-Y4	高根町村山北割	上り	0.014		0.029	
		下り	0.014		0.029	
平面-Y5	高根町堤	上り	0.011		0.029	
		下り	0.011		0.029	
断面-Y6	須玉町上津金	上り	0.011		0.029	
		下り	0.011		0.029	
平面-Y7	高根町清里1	上り	0.013		0.026	
		下り	0.013		0.026	
断面-Y8	高根町清里2	上り	0.014		0.026	
		下り	0.015		0.027	
平面-Y9	高根町清里3	上り	0.014		0.027	
		下り	0.015		0.027	
断面-Y10	高根町清里4	上り	0.016		0.027	
		下り	0.017		0.027	
【長野県区間】						
平面-N1	南牧村野辺山1	最大	0.014	0.04～0.06までのゾーン内又はそれ以下	0.035	0.10以下
平面-N2	南牧村野辺山2	最大	0.030		0.036	
断面-N3	南牧村海尻1	上り	0.013		0.031	
		下り	0.013		0.031	
断面-N4	南牧村海尻2	上り	0.013		0.031	
		下り	0.013		0.031	
平面-N5	小海町豊里1	最大	0.018		0.031	
平面-N6	小海町豊里縦掛1	最大	0.023		0.033	
断面-N7	小海町豊里縦掛2	上り	0.014		0.033	
		下り	0.014		0.033	
断面-N8	小海町豊里2	上り	0.015		0.033	
		下り	0.014		0.033	
平面-N9	佐久穂町千代里	最大	0.020		0.035	

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。

用語の解説
・ppm：1m³の空気中に1cm³の物質が存在する場合の濃度が1ppmとなります。
・日平均値の年間98%値：1年間の測定により得られた1日平均値のうち、低い方から98%に相当する値です。
・日平均値の年間2%除外値：1年間の測定により得られた1日平均値のうち、高い方から2%の範囲内にあるものを除外した後の最高値です。
・浮遊粒子状物質（SPM）：大気中に浮遊する粒子状の物質（浮遊粉じん、エアロゾルなど）のうち、粒径が10マイクロメートル以下のものをいいます。
・粉じん：大気環境中に浮遊する微細な粒子状の物質のことです。
・降下ばいじん：大気中に排出されたり、舞により地表から舞い上がった粒子状物質のうち、粒子が比較的に大きいために、自重で地上に落下（降下）するものや、雨や雪に取り込まれて地上に落下するものです。
・粉じん等の参考値：降下ばいじんにおいては、国が実施する環境保全に関する施策による基準又は目標は示されていません。なお、回避又は低減に係る評価については、建設機械の稼働による降下ばいじんにおける参考値として、10t/km²/月が考えられます。これは、次のようにして設定されたものとなります。環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標を参考とした20t/km²/月が目安と考えられます。一方、降下ばいじん量の比較的高い地域の値は、10t/km²/月となっています。評価においては、建設機械の稼働・工事用車両の運行による寄与を対象としていることから、これらの差である10t/km²/月を参考値としています。

10

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

メリハリの工夫として、予測結果が環境基準や参考値を超過した地点については、左側に「環境保全措置実施後」、右側（括弧書き）に「実施前」の予測結果を併記した。
これにより、措置が必要な地点とそうでない地点を明確にし、視認性を高めた。

5．環境影響評価の結果

②　騒音

工事の実施

■建設機械の稼働（予測地点 Y1～Y12、N1～N8）

環境保全措置として、「仮囲い等の設置」を実施することなどにより、すべての予測地点において、規制基準以下になると予測されました。

さらに、「低騒音型建設機械の採用」、「作業方法の改善」を実施することにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

【山梨県区間】　単位：dB

番号	予測地点	地上高さ	予測結果（L_{A5}）※	規制基準
Y1	長坂町大八田1	1.2m	79	85
		4.2m	78	
Y2	長坂町大八田2	1.2m	72	
		4.2m	72	
Y3	大泉町西井出1	1.2m	74	
		4.2m	74	
Y4	大泉町西井出2	1.2m	71	
		4.2m	71	
Y5	大泉町西井出3	1.2m	79 [86]	
		4.2m	80 [86]	
Y6	高根町村山北割	1.2m	77	
		4.2m	77	
Y7	高根町堤	1.2m	76 [91]	
		4.2m	85 [91]	
Y8	須玉町上津金1	1.2m	79	
		4.2m	79	
Y9	須玉町上津金2	1.2m	85	
		4.2m	85	
Y10	高根町清里1	1.2m	82	
		4.2m	82	
Y11	高根町清里2	1.2m	77	
		4.2m	77	
Y12	高根町清里3	1.2m	80	
		4.2m	79	

【長野県区間】　単位：dB

番号	予測地点	地上高さ	予測結果（L_{A5}）※	規制基準
N1	南牧村野辺山1	1.2m	77	85
		4.2m	77	
N2	南牧村野辺山2	1.2m	78 [88]	
		4.2m	80 [88]	
N3	南牧村海尻1	1.2m	82 [91]	
		4.2m	82 [91]	
N4	南牧村海尻2	1.2m	78 [87]	
		4.2m	79 [87]	
N5	小海町豊里1	1.2m	81 [91]	
		4.2m	81 [90]	
N6	小海町豊里緑揚1	1.2m	82 [91]	
		4.2m	82 [91]	
N7	小海町豊里緑揚2	1.2m	77 [86]	
		4.2m	78 [86]	
N8	小海町豊里2	1.2m	81 [91]	
		4.2m	82 [91]	

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。また、予測結果の［ ］は、規制基準を超過した地点の、環境保全措置実施前の予測結果を示します。

環境保全措置
◎低騒音型建設機械の採用
◎仮囲い等の設置
◎作業方法の改善

■工事用車両の運行（予測地点 Y1～Y7、N1～N9）

すべての予測地点において、環境基準以下になると予測されました。

さらに、「工事用車両の点検及び整備による性能維持」、「工事用車両の分散」、「環境負荷低減を意識した運転の徹底」を実施することにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

【山梨県区間】　単位：dB

番号	予測地点	車両の通行ルート	地上高さ	予測結果※（L_{A5}）	環境基準	要請限度
Y1	長坂町大八田1	県道長坂高根線	1.2m	65	70	75
			4.2m	63		
Y2	長坂町大八田2	市道大八田・西井出線	1.2m	63	65	
			4.2m	62		
Y3	高根町五町目	県道北杜八ヶ岳公園線	1.2m	67	70	
			4.2m	66		
Y4	高根町村山北割	市道村山東割・東井出線	1.2m	65	65	
			4.2m	63		
Y5	高根町長澤	一般国道141号	1.2m	70	70	
			4.2m	66		
Y6	須玉町上津金	県道清里須玉線	1.2m	55		
			4.2m	53		
Y7	高根町清里	一般国道141号	1.2m	69		
			4.2m	69		

【長野県区間】　単位：dB

番号	予測地点	車両の通行ルート	地上高さ	予測結果※（L_{A5}）	環境基準	要請限度
N1	南牧村平沢1	村道	1.2m	64	65	65
			4.2m	62		
N2	南牧村野辺山1	村道袖先三沢線	1.2m	64		
			4.2m	62		
N3	南牧村野辺山2	村道	1.2m	61	65	75
			4.2m	59		
N4	南牧村海ノ口1	村道高見沢線	1.2m	60		
			4.2m	60		
N5	小海町豊里鍵掛	町道鍵掛五重線	1.2m	58	65	65
			4.2m	58		
N6	小海町西馬流	町道馬流五重線	1.2m	64		
			4.2m	63		
N7	小海町千代里1	町道川久保八那池線	1.2m	65		
			4.2m	63		
N8	小海町千代里2	町道本間三山窪線	1.2m	59		
			4.2m	56		
N9	八千穂高原IC付近	一般国道299号	1.2m	70	70	75
			4.2m	69		

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。

環境保全措置
◎工事用車両の点検及び整備による性能維持
◎工事用車両の分散
◎環境負荷低減を意識した運転の徹底

土地又は工作物の存在及び供用

■自動車の走行（予測地点 Y1～Y10、N1～N9）

環境保全措置として、「遮音壁の設置」、「トンネル吸収板の設置」を実施することなどにより、すべての予測地点において、環境基準以下になると予測されました。

メリハリの工夫として、影響が小さいと予測された項目については、記載を簡略化した。

【山梨県区間】　単位：dB

番号	予測地点			予測高さ	予測結果※（L_{Aeq}） 昼間	予測結果※（L_{Aeq}） 夜間	環境基準 昼間	環境基準 夜間
平面-Y1	長坂町大八田	下り	近接空間	1.2m	60	60	70	65
				4.2m	60	60		
			背後地	1.2m	59	58	65	60
				4.2m	59	58		
断面-Y2	大泉町西井出1	上り	近接空間	1.2m	57[61]	55[60]	70	65
				4.2m	58[64]	56[62]		
			背後地	1.2m	57[62]	55[60]	65	60
				4.2m	57[63]	56[61]		
		下り	近接空間	1.2m	56[61]	54[59]	70	65
				4.2m	59[66]	57[64]		
			背後地	1.2m	59[65]	57[63]	65	60
				4.2m	60[68]	59[66]		
断面-Y3	大泉町西井出2	上り	近接空間	1.2m	57	56	70	65
				4.2m	57	56		
			背後地	1.2m	57	55	65	60
				4.2m	57	56		
		下り	近接空間	1.2m	57	56	70	65
				4.2m	58	57		
			背後地	1.2m	59	57	65	60
				4.2m	59	58		
断面-Y4	高根町村山北割	上り	近接空間	1.2m	59	57	70	65
				4.2m	60	58		
			背後地	1.2m	59	57	65	60
				4.2m	60	58		
		下り	近接空間	1.2m	56[61]	54[59]	70	65
				4.2m	58[64]	56[62]		
			背後地	1.2m	58[63]	56[61]	65	60
				4.2m	59[64]	57[63]		
平面-Y5	高根町堤	上り	近接空間	1.2m	55	54	70	65
				4.2m	56	54		
			背後地	1.2m	53	52	65	60
				4.2m	53	52		
		下り	近接空間	1.2m	59	58	70	65
				4.2m	60	59		
			背後地	1.2m	60	58	65	60
				4.2m	60	59		

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。また、予測結果の［ ］は、環境基準を超過した地点の、環境保全措置実施前の予測結果を示します。

【山梨県区間】　単位：dB

番号	予測地点			予測高さ	予測結果※（L_{Aeq}） 昼間	予測結果※（L_{Aeq}） 夜間	環境基準 昼間	環境基準 夜間
断面-Y6	須玉町上津金	上り	近接空間	1.2m	48	47	70	65
				4.2m	48	47		
			背後地	1.2m	48	47	65	60
				4.2m	48	47		
		下り	近接空間	1.2m	48	47	70	65
				4.2m	48	47		
			背後地	1.2m	49	48	65	60
				4.2m	49	48		
平面-Y7	高根町清里1	上り	近接空間	1.2m	53	51	70	65
				4.2m	53	51		
			背後地	1.2m	53	51	65	60
				4.2m	53	51		
		下り	近接空間	1.2m	55	53	70	65
				4.2m	55	53		
			背後地	1.2m	58	56	65	60
				4.2m	58	56		
断面-Y8	高根町清里2	上り	近接空間	1.2m	58	56	70	65
				4.2m	59	57		
			背後地	1.2m	56	54	65	60
				4.2m	57	55		
		下り	近接空間	1.2m	59[67]	57[65]	70	65
				4.2m	65[73]	63[71]		
			背後地	1.2m	59[66]	57[64]	65	60
				4.2m	60[69]	58[67]		
平面-Y9	高根町清里3	上り	近接空間	1.2m	67[67]	65[65]	70	65
				4.2m	67[68]	65[66]		
			背後地	1.2m	53[54]	51[52]	65	60
				4.2m	55[56]	53[54]		
		下り	近接空間	1.2m	66	62	70	65
				4.2m	65	61		
			背後地	1.2m	55	51	65	60
				4.2m	57	53		
断面-Y10	高根町清里4	上り	近接空間	1.2m	46[71]	45[69]	70	65
				4.2m	60[71]	58[69]		
			背後地	1.2m	52[67]	50[65]	65	60
				4.2m	52[67]	50[65]		
		下り	近接空間	1.2m	66[69]	64[68]	70	65
				4.2m	66[69]	64[67]		
			背後地	1.2m	57[62]	55[61]	65	60
				4.2m	60[67]	58[65]		

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。また、予測結果の［ ］は、環境基準を超過した地点の、環境保全措置実施前の予測結果を示します。

用語の解説
・要請限度：騒音規制法に基づき、市町村長が自動車騒音や道路交通振動が生活環境を著しく損なうと認めた際に、公安委員会へ交通規制などを要請するための環境省令で定められた基準値を指します。

11　12

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

メリハリの工夫として、予測結果が環境基準や参考値を超過した地点については、左側に「環境保全措置実施後」、右側（括弧書き）に「実施前」の予測結果を併記した。
これにより、措置が必要な地点とそうでない地点を明確にし、視認性を高めた。

メリハリの工夫として、
影響が小さいと予測された項目については、
記載を簡略化した。

5．環境影響評価の結果

② 騒音

土地又は工作物の存在及び供用

【長野県区間】 単位：dB

番号	予測地点			予測高さ	予測結果※（L_{A5}） 昼間	予測結果※（L_{A5}） 夜間	環境基準 昼間	環境基準 夜間
平面-N1	南牧村野辺山1	最大地点	近接空間	1.2m	68[68]	64[64]	70	65
				4.2m	68[68]	64[64]		
			背後地	1.2m	62[64]	59[62]	65	60
				4.2m	64[65]	60[62]		
平面-N2	南牧村野辺山2	最大地点	近接空間	1.2m	66[75]	64[74]	70	65
				4.2m	67[75]	65[74]		
			背後地	1.2m	59[63]	58[61]	65	60
				4.2m	61[67]	59[65]		
断面-N3	南牧村海尻1	上り	近接空間	1.2m	55	53	70	65
				4.2m	56	54		
			背後地	1.2m	57	55	65	60
				4.2m	57	55		
		下り	近接空間	1.2m	55	53	70	65
				4.2m	55	53		
			背後地	1.2m	59	57	65	60
				4.2m	59	57		
断面-N4	南牧村海尻2	上り	近接空間	1.2m	57	55	70	65
				4.2m	58	56		
			背後地	1.2m	57	55	65	60
				4.2m	58	56		
		下り	近接空間	1.2m	56	54	70	65
				4.2m	56	55		
			背後地	1.2m	56	54	65	60
				4.2m	56	54		
平面-N5	小海町豊里1	最大地点	近接空間	1.2m	70[79]	65[78]	70	65
				4.2m	69[79]	65[77]		
			背後地	1.2m	63[67]	59[65]	65	60
				4.2m	65[67]	60[65]		
平面-N6	小海町豊里縫掛1	最大地点	近接空間	1.2m	67[80]	65[78]	70	65
				4.2m	67[82]	65[81]		
			背後地	1.2m	60[68]	58[66]	65	60
				4.2m	62[70]	59[68]		
断面-N7	小海町豊里縫掛2	上り	近接空間	1.2m	51	50	70	65
				4.2m	51	50		
			背後地	1.2m	50	49	65	60
				4.2m	50	49		
		下り	近接空間	1.2m	51	50	70	65
				4.2m	51	50		
			背後地	1.2m	59	57	65	60
				4.2m	59	57		

単位：dB

番号	予測地点			予測高さ	予測結果※（L_{A5}） 昼間	予測結果※（L_{A5}） 夜間	環境基準 昼間	環境基準 夜間
断面-N8	小海町豊里2	上り	近接空間	1.2m	53	52	70	65
				4.2m	53	52		
			背後地	1.2m	52	50	65	60
				4.2m	52	51		
		下り	近接空間	1.2m	55[60]	54[58]	70	65
				4.2m	56[62]	55[60]		
			背後地	1.2m	62[65]	60[63]	65	60
				4.2m	62[66]	60[64]		
平面-N9	佐久穂町千代里	最大地点	近接空間	1.2m	70[74]	64[73]	70	65
				4.2m	69[75]	65[73]		
			背後地	1.2m	64[68]	59[66]	65	60
				4.2m	65[69]	60[67]		

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。また、予測結果の[ ]は、環境基準を超過した地点の、環境保全措置実施前の予測結果を示します。
注：予測結果について、騒音に係る環境基準の地域指定がなされていない地点は、現況の土地利用状況等を勘案して「地域の区分B」を想定しました。
A地域（専ら住居の用に供される地域）
B地域（主として住居の用に供される地域）
C地域（相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域）

環境保全措置
◎遮音壁の設置
◎トンネル吸音板の設置

用語の解説
・dB（デシベル）：音や振動の大きさを表す単位です。
・L_{A5}：騒音レベル（A特性）の90%レンジの上端値を示します。90%レンジは、多数個の騒音値を大きい順に並べた場合に、最高値と最低値の個からそれぞれ5%ずつ除外したものです。
・L_{Aeq}：等価騒音レベル（A特性）を示します。L_{Aeq}は変動する騒音レベルのエネルギー量の平均値であり、不規則で大幅に変動する騒音の評価値の一つで、人の感じ方との対応が良いとされています。
・近接空間：敷地境界より20m（2車線以下の既存道路については15m）以内の地域を指します。
・背後地：敷地境界から20m（2車線以下の既存道路については15m）以遠の地域を指します。

③ 低周波音

土地又は工作物の存在及び供用

■自動車の走行（予測地点Y1～Y8、N1～N7）
すべての予測地点において、参考値以下と予測されました。

【山梨県区間】 単位：dB

番号	予測地点		予測結果※ L_{50}	予測結果※ L_{G5}	参考値 L_{50}	参考値 L_{G5}
Y1	長坂町大八田1	下り	54	65	90dB以下	100dB以下
Y2	長坂町大八田2	上り	63	72		
Y3	大泉町西井出	上り	70	79		
Y4	高根町堤	下り	61	70		
Y5	須玉町上津金	上り	64	72		
Y6	高根町清里1	下り	64	72		
Y7	高根町清里2	下り	62	70		
Y8	高根町清里3	下り	57	67		

【長野県区間】 単位：dB

番号	予測地点		予測結果※ L_{50}	予測結果※ L_{G5}	参考値 L_{50}	参考値 L_{G5}
N1	南牧村野辺山	下り	58	68	90dB以下	100dB以下
N2	南牧村海尻	上り	62	72		
N3	小海町豊里1	上り	63	73		
N4	小海町豊里縫掛1	上り	58	68		
N5	小海町豊里縫掛2	上り	65	73		
N6	小海町豊里2	上り	64	72		
N7	小海町豊里3	下り	64	72		

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。

用語の解説
・低周波音：人の耳には感知し難い低い周波数（一般的に100Hz以下）の空気の振動を言います。
・L_{50}：50%時間率音圧レベルを示します。音圧レベルの値を大きい順に並べた場合、ちょうど中央に位置する値を示します。
・L_{G5}：5%時間率音圧レベル（G特性）を示します。G特性とは、一般的に人の耳には聞こえないとされる超低周波音（20Hz以下の低周波音）の人体感覚を評価する指標です。

④ 振動

工事の実施

■建設機械の稼働（予測地点Y1～Y12、N1～N8）
すべての予測地点において、規制基準以下と予測されました。
さらに、「低振動型建設機械の採用」、「作業方法の改善」を実施することにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

【山梨県区間】 単位：dB

番号	予測地点	予測結果（L_{10}）※	規制基準
Y1	長坂町大八田1	66	75
Y2	長坂町大八田2	63	
Y3	大泉町西井出1	63	
Y4	大泉町西井出2	63	
Y5	大泉町西井出3	57	
Y6	高根町村山北割	66	
Y7	高根町堤	59	
Y8	須玉町上津金1	50	
Y9	須玉町上津金2	62	
Y10	高根町清里1	55	
Y11	高根町清里2	63	
Y12	高根町清里3	67	

【長野県区間】 単位：dB

番号	予測地点	予測結果（L_{10}）※	規制基準
N1	南牧村野辺山1	50	75
N2	南牧村野辺山2	56	
N3	南牧村海尻1	64	
N4	南牧村海尻2	62	
N5	小海町豊里1	64	
N6	小海町豊里縫掛1	64	
N7	小海町豊里縫掛2	61	
N8	小海町豊里2	62	

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。

環境保全措置
◎低振動型建設機械の採用　◎作業方法の改善

用語の解説
・L_{10}：振動レベルの80%レンジの上端値を示します。80%レンジとは、多数個の騒音値を大きい順に並べた場合に、最高値と最低値の個からそれぞれ10%ずつ除外したものです。

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

メリハリの工夫として、影響が小さいと予測された項目については、記載を簡略化した。

メリハリの工夫として、影響の可能性があると予測されたものについては、その予測結果を詳細に記載した。
また、事後調査内容を明確に示すことで、影響の程度に応じたメリハリのある対応方針を明示した。

5．環境影響評価の結果

④ 振動

工事の実施

■工事用車両の運行（予測地点Y1～Y7、N1～N9）
すべての予測地点において、要請限度以下と予測されました。
さらに、「工事用車両の分散」を実施することにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

【山梨県区間】 単位：dB

番号	予測地点	車両の通行ルート	予測結果（L_{10}）	要請限度
Y1	長坂町大八田1	県道長坂高根線	39	65
Y2	長坂町大八田2	市道大八田・西井出線	41	
Y3	高根町玉町田	県道北杜八ヶ岳公園線	52	
Y4	高根町村山北割	市道村山東割・東井出幹	40	
Y5	高根町長澤	一般国道141号	51	
Y6	須玉町上津金	県道清里須玉線	26	
Y7	高根町清里	一般国道141号	50	

【長野県区間】 単位：dB

番号	予測地点	車両の通行ルート	予測結果（L_{10}）	要請限度
N1	南牧村平沢1	村道	43	65
N2	南牧村野辺山1	村道袖先三沢線	40	
N3	南牧村野辺山2	村道	43	
N4	南牧村海ノ口1	村道高見沢線	47	
N5	小海町豊里鍵掛	町道鍵掛五箇線	30	
N6	小海町西馬流	町道馬流五箇線	45	
N7	小海町千代里1	町道川久保八那池線	43	
N8	小海町千代里2	町道本間三山窪線	37	
N9	八千穂高原IC付近	一般国道299号	31	

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。

環境保全措置
◎工事用車両の分散

土地又は工作物の存在及び供用

■自動車の走行（予測地点Y1～Y10、N1～N9）
すべての予測地点において、要請限度以下になると予測されました。

【山梨県区間】 単位：dB

番号	予測地点		予測結果（L_{10}）※ 昼間	予測結果（L_{10}）※ 夜間	要請限度 昼間	要請限度 夜間
Y1	長坂町大八田	下り	33	33	65	60
Y2	大泉町西井出1	上り	36	35	70	65
		下り	39	39		
Y3	大泉町西井出2	上り	45	44	70	65
		下り	45	44		
Y4	高根町村山北割	上り	31	30	65	60
		下り	36	35		
Y5	高根町堤	上り	46	45	65	60
		下り	46	45		
Y6	須玉町上津金	上り	45	44	(65)	(60)
		下り	45	44		
Y7	高根町清里1	上り	46	46	65	60
		下り	46	46		
Y8	高根町清里2	上り	33	33	65	60
		下り	50	50		
Y9	高根町清里3	上り	40	40	65	60
		下り	37	36		
Y10	高根町清里4	上り	43	42	65	60
		下り	41	40		

【長野県区間】 単位：dB

番号	予測地点		予測結果（L_{10}）※ 昼間	予測結果（L_{10}）※ 夜間	要請限度 昼間	要請限度 夜間
N1	南牧村野辺山1	上り	33	33	(65)	(60)
		下り	32	32		
N2	南牧村野辺山2	上り	32	32	(65)	(60)
		下り	29	29		
N3	南牧村海尻1	上り	17	17	(65)	(60)
		下り	18	18		
N4	南牧村海尻2	上り	46	46	(65)	(60)
		下り	46	46		
N5	小海町豊里1	上り	24	24	(65)	(60)
		下り	30	30		
N6	小海町豊里縦掛1	上り	37	37	(65)	(60)
		下り	38	38		
N7	小海町豊里縦掛2	上り	43	43	(65)	(60)
		下り	43	43		
N8	小海町豊里2	上り	43	43	(65)	(60)
		下り	43	43		
N9	八千穂高原IC周辺	上り	25	25	(65)	(60)
		下り	25	24		

※予測結果については、準備書に記載している評価値を示しています。
注：振動に係る要請限度の地域指定がなされていない地点については、現況の土地利用状況等を勘案して「第1種区域」を想定し、()で示しました。

⑤ 水質（水の濁り、水の汚れ）

工事の実施

■工事の実施（水の濁り）
工事の実施に伴う水の濁りが発生する可能性があると予測されますが、環境保全措置を講じることにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

環境保全措置
◎濁水処理施設の設置　◎速やかな転圧及び法面整形　◎シートによる被覆等の実施
◎河川への影響に配慮した施工

■水底の掘削等（水の汚れ）
水底の掘削に伴う水の濁り及び水の汚れが発生する可能性があると予測されますが、環境保全措置を講じることにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

環境保全措置
◎河川への影響に配慮した施工

用語の解説
・河川への影響に配慮した施工：河川内における基礎工事等において、濁水処理施設の設置や中和処理による工事排水の適切な処理等を行うことです。

⑥ 水象（河川）

工事の実施

＜計画路線が地上部で渡河する河川＞
・河川の改変を極力抑えるとともに、河川の機能を確保し、河川の流れを阻害しない河川幅を確保します。
橋脚の設置を予定している河川では、低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要以上に橋脚の断面積を大きくしない計画として河川への影響を最小限にしています。よって、河川の流量はほとんど変化しないと予測されます。

＜計画路線がトンネル部で通過する河川＞
・計画路線がトンネル部で通過する河川のうち、河川水と地下水の関連性がない河川、又は河床がコンクリートによる三面張り構造である河川は、河川水の地下への浸透が抑制され、河川の流量はほとんど変化しないと予測されます。
ただし、河床が自然渓流の一部の河川であり、河川水と地下水が連続している可能性がある河川は、河川の流量が変化する可能性があると予測されますが、環境保全措置を講じることにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

環境保全措置
◎観測修正法による最適な構造及び工法の採用

事後調査

項目	調査項目	調査時期	調査地域	調査方法
水象（河川）	地下水の水位 トンネル内の湧水量 河川等の流量	工事前、工事中及び完成後	河川水と地下水が連続し、河床が自然渓流の河川等の周辺	地下水観測孔による地下水の水位の観測、トンネル内で発生する湧水量の観測、河川等の流量の観測

用語の解説
・観測修正法による最適な工法の採用：工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果を基に最適な施工方法を採用することです。

15　16

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

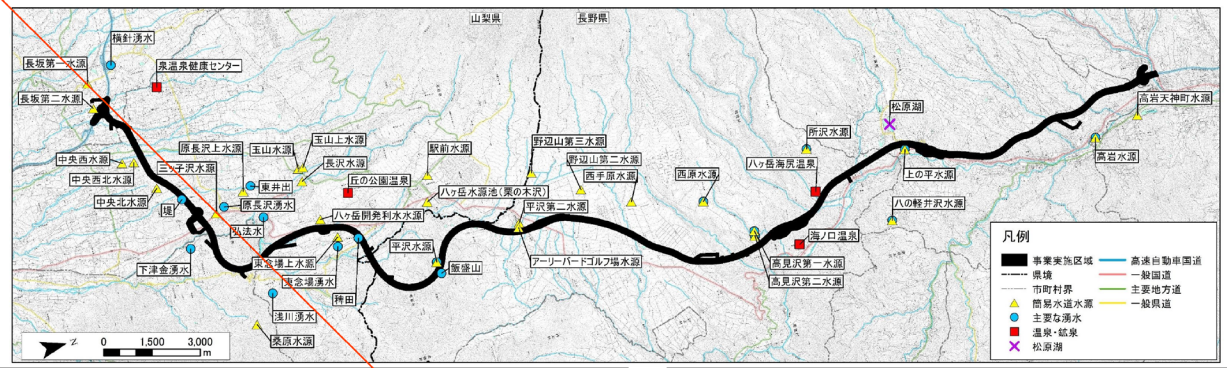
メリハリの工夫として、影響の可能性があると予測されたものについては、その予測結果を詳細に記載した。
また、事後調査内容を明確に示すことで、影響の程度に応じたメリハリのある対応方針を明示した。

メリハリの工夫として、影響が小さいと予測された項目については、記載を簡略化した。

5．環境影響評価の結果

⑥ 水象（地下水）

工事の実施



項目	予測結果	
	山梨県区間	長野県区間
水道の水源	山岳地を通過する事業実施区域においては、地形的に尾根と谷が交互に連続することから、各々のトンネル・切土区間は短く浅く、長い区間にわたって地下水の流動を阻害する道路構造は存在しません。このため、地下水への影響は全体的には小さいと考えられることから、トンネル区間に近接する水源を除けば、水位はほとんど変化しないと予測されます。東念場地区において、トンネル区間に比較的近い位置にある「東念場上水源（深）」は、断面二次元浸透流解析により、水位低下量は10cm 未満と予測され、当該水源への影響は小さいと考えられます。	山岳地を通過する事業実施区域においては、地形的に尾根と谷が交互に連続することから、各々のトンネル・切土区間は短く浅く、長い区間にわたって地下水の流動を阻害する道路構造は存在しません。このため、地下水への影響は全体的には小さいと考えられることから、トンネル区間に近接する水源を除けば、水位はほとんど変化しないと予測されます。野辺山高原の水源について、断面二次元浸透流解析の結果、トンネル工事の実施及びトンネルの存在により、地下浸透量が増加するものの、影響は小さいと考えられます。そのため、浅部での施工等による影響は限定的であり、トンネル工事の実施及びトンネルの存在による地下水位への影響は小さいと考えられます。
主要な湧水	山岳地を通過する事業実施区域においては、地形的に尾根と谷が交互に連続することから、各々のトンネル・切土区間は短く浅く、長い区間にわたって地下水の流動を阻害する道路構造は存在しません。このため、地下水への影響は全体的には小さいと考えられることから、トンネル区間に近接する湧水を除けば、湧水量はほとんど変化しないと予測されます。東念場地区において、トンネル区間に比較的近い位置にある「東念場湧水」は、断面二次元浸透流解析により、10cm程度の水位低下が予測されます。また、トンネル区間に近接する「稗田湧水」は、断面二次元浸透流解析により、10m程度の水位低下が予測されます。よって、湧水量が変化する可能性があると予測されますが、環境保全措置を講じることにより、環境負荷の回避・低減を図ります。	されます。平沢地区において、トンネル直上に位置する「平沢水源」及び「飯盛山」は、断面二次元浸透流解析により、1m～15m程度の水位低下が予測されます。よって、湧水量が変化する可能性があると予測されますが、環境保全措置を講じることにより、環境負荷の回避・低減を図ります。

17

項目	予測結果	
	山梨県区間	長野県区間
温泉源泉	「丘の公園温泉」は、温泉井戸が1400m あり、トンネル計画深度より深部の地下水を取水していると考えられるため、影響はないものと予測されます。「泉温泉健康センター」は、事業実施区域から15km 近く離れているため、影響はないものと予測されます。よって、事業実施により温泉源泉の水位はほとんど変化しないと予測されます。	「海ノ口温泉」は、源泉水の主要イオンおよび水素酸素安定同位体比から表層地下水とは異なる流動系を示す結果であったため、影響は無いものと予測されます。「ハヶ岳海尻温泉」は、計画路線は温泉位置よりも標高の高い位置を通る計画であるため、影響はないものと予測されます。よって、事業実施により温泉源泉の水位はほとんど変化しないと予測されます。
松原湖（大月湖・猪名湖・長湖）	—	断面二次元浸透流解析の結果、トンネル工事の実施及びトンネルの存在により、最も影響が大きいと考えられる長湖からの地下浸透量が増加するものの、渇水期における長湖への流入出量に対して1.65%程度と小さいと予測され、影響は非常に小さいと考えられます。よって、事業実施により松原湖（大月湖・猪名湖・長湖）の水位はほとんど変化しないと予測されます。

環境保全措置
◎観測修正法による最適な構造及び工法の採用

事後調査

項目	調査項目	調査時期	調査地域	調査方法
水象（地下水）	地下水の水位 湧水の湧水量 トンネル内の湧水量 河川等の流量	工事前、工事中及び完成後	東念場地区、平沢地区、野辺山高原における湧水等の周辺、松原湖・長湖及びその周辺	地下水観測孔による地下水の水位の観測、湧水の流量の観測、トンネル内で発生する湧水量の観測、河川等の流量の観測

18

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

メリハリの工夫として、影響が小さいと予測された項目については、記載を簡略化した。

メリハリの工夫として、影響が小さいと予測された項目については、記載を簡略化した。

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

メリハリの工夫として、影響の可能性があると予測されたものについては、種名を略さずに明記した。また、事後調査内容を明確に示すことで、影響の程度に応じたメリハリのある対応方針を明示した。

5．環境影響評価の結果

⑦ 地形及び地質

土地又は工作物の存在及び供用

■道路の存在

項目	予測結果 長野県区間※
地形改変に伴う消失又は縮小	計画路線は、大月川泥流堆積物を通過しますが、トンネル構造となります。また、工事施工ヤードは計画路線上を、工事用道路は既存道路を利用し、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画としており、大月川泥流堆積物の地形改変は生じません。よって、重要な地形の大月川泥流堆積物は保全されると予測されます。
地形及び地質に係る周辺環境条件の変化に伴う影響	計画路線は、大月川泥流堆積物を通過する箇所ではトンネル構造を計画しており、土地の改変を抑えています。また、工事施工ヤードは計画路線上を、工事用道路は既存道路を利用し、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画としています。このことから、道路の存在、工事施工ヤード及び工事用道路の設置による局所的な気象条件の変化や土壌・植生の状態の変化が地形の劣化や不安定化を促進させるおそれはないと考えられます。よって、重要な地形の大月川泥流堆積物は保全されると予測されます。

※ 山梨県区間では、実施区域は重要な地形及び地質を通過しないため、調査、予測及び評価は行わないこととしました。

⑧ 日照阻害

土地又は工作物の存在及び供用

■道路の存在（予測地点 Y1～Y6、N1～N6）

すべての予測地点において参考値以下になると予測されました。

番号	予測地域	予測高さ	地形による日影時間	予測結果 高架構造物設置後の日影時間	参考値
【山梨県区間】					
Y1	長坂町大八田	1.5m	地形の影響なし	3時間以下	1階で4時間
Y2	大泉町西井出	1.5m	地形の影響なし	日影は生じない	
Y3	高根町堤	1.5m	地形の影響なし	4時間以下	
Y4	高根町清里下念場	1.5m	地形の影響なし	1時間以下	
Y5	高根町清里下念場	1.5m	地形の影響なし	日影は生じない	
Y6	高根町清里	1.5m	地形の影響なし	日影は生じない	
【長野県区間】					
N1	南牧村野辺山	1.5m	地形の影響なし	日影は生じない	1階で4時間
N2	南牧村海尻	1.5m	地形の影響なし	1時間以下	
N3	小海町豊里1	1.5m	地形の影響なし	日影は生じない	
N4	小海町豊里2	1.5m	地形の影響なし	1時間以下	
N5	小海町豊里3	1.5m	地形の影響なし	日影は生じない	
N6	小海町豊里4	1.5m	4時間	4時間	

⑨ 電波障害

土地又は工作物の存在及び供用

予測結果 山梨県区間	予測結果 長野県区間
（仮称）長坂JCT～（仮称）高根IC周辺においては、住居等が存在するあるいは将来の立地が見込まれる地域に、道路から北西の方向に最大幅約400m、最大長さ約110mの範囲で電波障害が発生すると予測されます。（仮称）高根IC～（仮称）清里ICにおいては、住居等が存在するあるいは将来の立地が見込まれる地域に、道路から北の方向に最大幅約1200m、最大長さ約70mの範囲で電波障害が発生すると予測されます。（仮称）清里IC～県境付近においては、住居等が存在するあるいは将来の立地が見込まれる地域に、道路から北の方向に最大幅約600m、最大長さ約250mの範囲で電波障害が発生すると予測されます。	甲府局の21～27chの障害予測範囲は計画路線から最大で約300m、穴山中継局の39～52chの障害予測範囲は計画路線から最大で約200m、南牧中継局の23～33chの障害予測範囲は計画路線から最大で約600m、八千穂中継局の13～18chの障害予測範囲は計画路線から最大で約900mとなりますが、障害予測範囲内のほとんどの建物が共同受信施設、またはケーブルテレビに加入しています。また、本事業の実施にあたっては、電波障害の発生に対して、関係者と協議のうえ適切な改善策を講じる等の配慮を行います。このことから、環境保全措置の検討は行わないこととしました。

環境保全措置
◎高架構造物の上下部工の形式・配慮等の工夫(山梨県区間のみ)

⑩ 動物 ⑪ 植物 ⑫ 生態系

工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用

現地調査により、山梨県区間では、重要な動物93種、重要な植物は38種、重要な群落2群落、長野県区間では、重要な動物104種、重要な植物56種、重要な群落4群落が確認されました。また、地域を特徴づける生態系は、現地調査結果を基に、「水田耕作地生態系」、「須玉川里山生態系」、「清里高原生態系」、「飯盛山生態系」、「野辺山高原生態系」、「小海里山生態系」を設定しました。予測結果は下表のとおり、一部の種で生息又は生育環境が保全されない可能性があると予測されますが、環境保全措置を講じることにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

項目	予測結果 山梨県区間	予測結果 長野県区間
動物	・ヤマネ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、フクロウの5種は、工事の実施、道路の存在及び建設機械の稼働に伴う騒音による繁殖活動への影響が生じる可能性があり、生息環境は保全されない可能性があると予測されます。 ・その他の重要な動物については、生息環境に変化は生じない、または生息環境は保全されると予測されます。	・ハチクマ及びハイタカの2種は、工事の実施、道路の存在及び建設機械の稼働に伴う騒音による繁殖活動への影響が生じる可能性が考えられ、生息環境は保全されない可能性があると予測されます。 ・その他の重要な動物については、生息環境に変化は生じない、または生息環境は保全されると予測されます。
植物	・重要な種であるヘラオモダカ、ホソバノアマナ、ハンノキ、サクラソウ、ハナソバの5種は、生育環境は保全されない、または生育環境は保全されない可能性があると予測されます。 ・その他の重要な植物及び重要な群落については、生育環境に変化は生じない、または生育環境は保全されると予測されます。	・重要な種であるエビラシダ、イトトリゲモ、トリゲモ、イトモ、ユウスゲ、ミクリ、ヒロハノハネガヤ、ボタン属、ハナムグラ、ツルカメバソウ、トダイハハコの11種は、生育環境は保全されない、または生育環境は保全されない可能性があると予測されます。 ・その他の重要な植物及び重要な群落については、生育環境に変化は生じない、または保全されると予測されます。
生態系	・上位の注目種のオオタカ及びフクロウについて、生息環境が保全されない可能性があるため、「須玉川里山生態系」及び「清里高原生態系」は、保全されない可能性があると予測されます。 ・その他の生態系については、生息・生育基盤及び生息・生育環境は保全されると予測されます。	

環境保全措置
【動物・生態系】
◎工事施工ヤード及び工事用道路の計画路線区域内利用
◎工事工程の検討及び段階的な工事の実施等（コンディショニング）　◎低騒音型建設機械の採用
◎濁水処理施設の設置　◎河川への影響に配慮した施工　◎観測修正法による最適な工法の採用
◎夜間工事照明の漏れ出しを防止するブラインド、扉の設置及び誘引性の低い照明の採用
◎道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘引性の低い照明の採用　◎移動経路の確保（山梨県区間のみ）
◎代替営巣地の創出
【植物】
◎工事中・供用後の監視　◎重要な植物種の移植又は播種　◎濁水処理施設の設置　◎河川への影響に配慮した施工

事後調査

項目	調査項目	調査時期	調査地域	調査方法
動物	ハチクマ、ハイタカ、ツミ、オオタカ、フクロウの生息状況	工事前～工事中の調査対象の繁殖期	営巣地周辺	直接観察による生息状況の確認
	ヤマネの生息状況	工事中～供用後	アニマルパスウェイ等の設置地点、樹木植栽箇所	目視観察及び自動撮影装置による利用状況の確認
植物	移植又は播種した植物の生育状況	各種の生活史及び生育特性等に応じて設定	移植又は播種を講じた植物の生育地	移植又は播種を講じた植物の生育状況、並びに生育環境の状況確認
生態系	オオタカ及びフクロウの生息状況	工事前～工事中の調査対象の繁殖期	営巣地周辺	直接観察による生息状況の確認

用語の解説
・工事工程の検討及び段階的な工事の実施等（コンディショニング）：建設機械の稼働のピーク時期について、需給期間に配慮すること、及び施工を段階的に実施し、動物に対し建設機械の稼働に伴って発生する騒音に慣れさせることです。

19　20

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

メリハリの工夫として、影響の可能性があると予測されたものについては、その予測結果を詳細に記載した。
また、環境保全措置を講じることで、環境影響をできる限り回避又は低減させることを明示した。

メリハリの工夫として、影響が小さいと予測された項目については、記載を簡略化した。

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

メリハリの工夫として、影響の可能性があると予測されたものについては、その予測結果を詳細に記載した。
また、環境保全措置を講じることで、環境影響をできる限り回避又は低減させることを明示した。

5．環境影響評価の結果

⑬ 景観

土地又は工作物の存在及び供用

山梨県区間の計画路線周辺には、主要な眺望点17地点、身近な眺望点13地点、主要な防風林3地点、景観資源44地点が分布しています。長野県区間の計画路線周辺には、主要な眺望点4地点、身近な眺望点3地点、景観資源21地点が分布しています。予測結果は下表のとおり、一部の景観景観に変化が生じると予測されますが、環境保全措置を講じることにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

項目	予測結果	
	山梨県区間	長野県区間
主要な眺望点の改変	主要な眺望点及び身近な眺望点、防風林については、計画路線による改変はありません。	主要な眺望点及び身近な眺望点については、計画路線による改変はありません。
景観資源の改変	景観資源については、「長坂」、「丘の公園通り」の2箇所、身近な自然景観として「田園風景」、「耕作地」、「山間部の新緑/紅葉」の3箇所において、改変される可能性がありますが、景観資源の価値を大きく損なうものではないと予測されます。	景観資源については「千曲川上流」、「野辺山高原」、「大月川泥流堆積物」の3箇所において、改変される可能性がありますが、景観資源の価値を大きく損なうものではないと予測されます。
主要な眺望景観の変化	「金生遺跡」、「長坂町大八田（長坂インター南側）」、「大泉町谷戸（長坂インター北側）」、「長坂町大八田」、「大泉町西井出」、「高根町五町田」、「共同墓地」、「おいしい学校駐車場」、「観音寺」、「玉川神社」、「丘の公園入口交差点」の計11箇所からの眺望景観に変化が生じることから、これらの地点については主要な景観の特性の変化の程度は大きいと予測します。	八ヶ岳海尻温泉（跡地）の眺望景観に変化が生じますが、構造物・道路付属物の検討にあたっては、周辺景観との調和や、地域住民に配慮します。よって、眺望景観の変化による影響は低減されると予測されます。

＜丘の公園入口交差点＞

現況



供用後



＜八ヶ岳海尻温泉（跡地）＞

現況



供用後



環境保全措置
◎構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討　◎地形改変部（法面含む）の緑化

21

⑭ 人と自然との触れ合いの活動の場

土地又は工作物の存在及び供用

山梨県区間の計画路線周辺には、人と自然との触れ合いの活動の場が26地点分布しています。長野県区間の計画路線周辺には、人と自然との触れ合いの活動の場が13地点分布しています。予測結果は下表のとおり、一部の地点の利用性、快適性に変化が生じると予測されますが、環境保全措置を講じることにより、環境影響をできる限り回避又は低減します。

項目		予測結果	
		山梨県区間	長野県区間
主要な人と自然との触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変		全ての予測地点において、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変はありません。よって、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源は保全されると予測されます。	全ての予測地点において、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変はありません。よって、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源は保全されると予測されます。
利用性の変化	利用性の変化	「清里中央オートキャンプ場」、「金生遺跡」の2箇所で照明施設による星空観察の阻害が生じる可能性があります。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は高いと予測されます。	全ての予測地点において、計画路線による予測地点内の改変はないため、利用に支障は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
	到達時間・距離の変化	全ての予測地点において、アクセスルートは分断されません。よって、到達時間・距離の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。	全ての予測地点において、アクセスルートは分断されません。よって、到達時間・距離の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
快適性の変化		計画路線から250m以内にあるバードウォッチングサイトの「清里湖畔（大門ダム）」については、自動車の走行により生ずる騒音がバードウォッチングに影響を及ぼす可能性があります。よって、快適性の変化による影響が生じる可能性は高いと予測されます。	「野辺山高原サイクリング（ショートコース）」、「甲盛山ハイキングコース」の2箇所計画路線が近傍に視認され、快適性に変化が生じる可能性がありますが、法面は可能な限り緑化を行い、構造物・道路付属物の検討にあたっては、周辺景観との調和や、地域住民に配慮します。よって、快適性の変化による影響は低減されると予測されます。


清里中央オートキャンプ場


大門ダム（清里湖周辺）


飯盛山ハイキングコース


野辺山高原サイクリング（ショートコース）

環境保全措置
◎構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討　◎地形改変部（法面含む）の緑化
◎光害に配慮した道路照明の検討(山梨県区間のみ)　◎植栽等による道路の遮蔽(山梨県区間のみ)

⑮ 文化財

工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用

山梨県区間の計画路線周辺には、文化財が8地点分布しています。長野県区間の計画路線周辺には、文化財が5地点分布しています。

すべての予測地点において、計画路線の明かり部（工事の実施区域）から離れているため、文化財そのものは改変されません。また、周辺環境は改変されないため、文化財及び周辺環境の雰囲気や利用環境の変化は生じないと予測されます。

また、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置により改変が予測される埋蔵文化財包蔵地については、これらの包蔵地における工事に先立ち、文化財保護法に基づき、必要な届出や協議を県教育委員会及び市町村教育委員会に行うなどの適切な措置を講じます。なお、工事の施工中に未居知の埋蔵文化財等が確認された場合は、速やかに教育委員会等関係機関に報告し、関係法令に基づき適切な措置を講じます。

22

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

メリハリの工夫として、影響の可能性があると予測されたものについては、その予測結果を詳細に記載した。
また、環境保全措置を講じることで、環境影響をできる限り回避又は低減させることを明示した。

5．環境影響評価の結果

⑯ 廃棄物等

工事の実施

事業の実施により、建設副産物として建設発生土、建設汚泥、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊及び建設発生木材が発生すると予測されますが、発生した建設副産物は法令等に基づき適正に処理・処分を行います。

【山梨県区間】

工事に伴い発生する建設副産物	発生量(m^3)	事業実施区域内での再利用量(m^3)	事業実施区域外への搬出量(m^3)
建設発生土	約 1,771,000m^3	約 1,761,000m^3	約 10,000m^3
建設汚泥	約 10,500m^3	－	約 10,500m^3
コンクリート塊	約 300m^3	－	約 300m^3
アスファルト・コンクリート塊	約 900m^3	－	約 900m^3
建設発生木材	約 6,000m^3	－	約 6,000m^3

【長野県区間】

工事に伴い発生する建設副産物	発生量(m^3)	事業実施区域内での再利用量(m^3)	事業実施区域外への搬出量(m^3)
建設発生土	約 4,560,000m^3	約 2,190,000m^3	約 2,370,000m^3
建設汚泥	約 140,000m^3	－	約 140,000m^3
コンクリート塊	約 700m^3	－	約 700m^3
アスファルト・コンクリート塊	約 1,500m^3	－	約 1,500m^3
建設発生木材	約 2,700m^3	－	約 2,700m^3

環境保全措置

◎工事間流用の促進　◎再資源化施設への搬入等による他事業等での利用

環境影響の総合的な評価

本環境影響評価では、都市計画対象道路事業について、影響要因の区分である「工事の実施」及び「土地又は工作物の存在及び供用」に関し、環境要素16項目（大気質、騒音、低周波音、振動、水質、水象、地形及び地質、日照阻害、電波障害、動物、植物、生態系、景観、人と自然との触れ合いの活動の場、文化財、廃棄物等）を選定し、調査、予測及び評価を行いました。

本対象事業においては、計画路線のルート位置の検討段階から環境保全に配慮しており、各環境要素について事業予定者が実行可能な範囲内で環境保全措置を講じることにより、計画路線が周辺の環境に及ぼす影響についてできる限り回避又は低減が図られています。

また、水象、動物、植物、生態系については、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、事後調査を実施し、専門家等の指導・助言を得ながら適切な措置を講ずることとします。

このことから、計画路線に係る環境の保全について適正な配慮がなされていると評価します。

今後の詳細な計画検討にあたっては、環境影響評価の結果に基づき環境保全に十分配慮して行うとともに、事業実施段階及び供用後の周囲の生活環境（土地利用の変化）や自然環境の状況変化、規制区域及び環境基準の変更並びに交通量等について、関係機関と協力し、専門家等の意見を踏まえ、必要に応じて適切に把握するものとします。

さらに、本環境影響評価では、環境に及ぼす影響を予測し、必要に応じて環境保全措置を講じることとしていますが、現段階で予測し得なかった著しい影響が見られた場合には、環境に及ぼす影響について調査し、専門家等の意見を踏まえ、必要に応じて適切な措置を講じます。

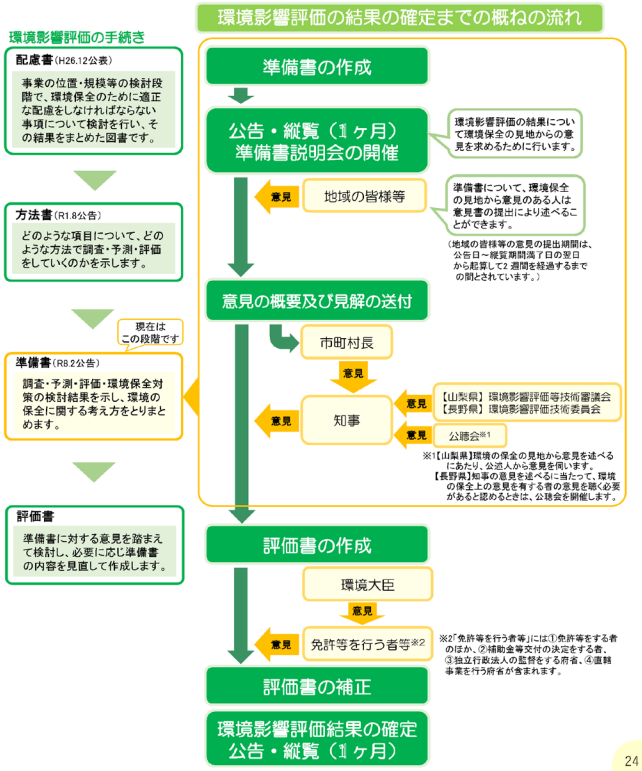
23

見やすさ・分かりやすさの工夫として、環境影響の「総合的な評価」を明示した。

6．環境影響評価の結果の確定までの概ねの流れ

今後は、地域の皆様や知事・市町村長よりいただいた意見を踏まえ、準備書の記載内容に検討を加え、必要に応じて準備書の内容を見直した上で環境影響評価書を作成します。

作成された評価書は、事業の免許等を行う者等と環境大臣に送付されます。環境大臣は必要に応じて事業の免許等を行う者等に意見を述べ、事業の免許等を行う者等はその意見を踏まえて意見を述べます。



24

見やすさ・分かりやすさの工夫として、環境影響評価手続きのこれまでの流れと今後の流れをフロー図で明示した。

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

7．縦覧等

縦覧について

●縦覧場所　山梨県
山梨県 県土整備部都市計画課
山梨県 中北建設事務所都市整備課
韮崎市 建設課
北杜市 建設部まちづくり推進課
甲斐市 まちづくり振興部　都市計画課
国土交通省 関東地方整備局
甲府河川国道事務所 総務課
山梨県 県民情報センター

●縦覧場所　長野県
長野県 建設部都市・まちづくり課
長野県 佐久建設事務所 整備課
佐久市 建設部 道路建設課
小海町 産業建設課
佐久穂町 建設課
川上村 建設課
南牧村 産業建設課
南相木村 振興課
北相木村 経済建設課
国土交通省 関東地方整備局
長野国道事務所 総務課

●縦覧期間
令和８年２月２日（月）～ 令和８年３月２日（月）午前８時30分 ～ 午後５時15分
（土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律第３条に規定する休日を除く）

●インターネットによる公表
山梨県県土整備部都市計画課ホームページ
（https://www.pref.yamanashi.jp/toshikei/index.html）
長野県建設部都市・まちづくり課ホームページ
（https://www.pref.nagano.lg.jp/toshikei/infra/toshi/keikaku/keikaku/minamimakisaku.html）
長野県佐久建設事務所ホームページ
（https://www.pref.nagano.lg.jp/sakuken/）

意見書の提出について

（１）意見書の提出期間及び方法
令和８年２月２日（月）午前８時30分　から　令和８年３月16日（月）午後５時15分まで
次ページ（３）の受付機関に郵送または持参願います。
※以下の受付機関のみ、ファクシミリまたは電子メールでも受け付けます。
山梨県（山梨県県土整備部都市計画課）　　長野県（佐久建設事務所整備課）

（２）意見書の記載事項（以下のア～ウは必ず記載してください。）
ア 意見書を提出しようとする者の氏名及び住所
（法人その他の団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
イ 意見書の提出の対象である準備書の名称
（「（仮称）韮崎都市計画道路1･4･1号 双葉・韮崎・清里幹線
（仮称）佐久都市計画道路1･4･1号 南牧佐久線　環境影響評価準備書」
と記載するものとします。）
ウ 準備書についての環境の保全の見地からの意見
（日本語により、意見の理由を含めて記載するものとします。）
※意見書は任意様式ですが、縦覧場所及びホームページに参考様式を用意します。

25

（３）意見書の提出先

●「（仮称）韮崎都市計画道路1･4･1号 双葉・韮崎・清里幹線」に関する意見

受付機関	提出先
山梨県 県土整備部 都市計画課	〒400-8501　山梨県甲府市丸の内1-6-1 ﾌｧｸｼﾐﾘ　055-223-1724 e-mail　toshikeiass@pref.yamanashi.lg.jp
山梨県 中北建設事務所 都市整備課	〒400-0065　山梨県甲府市貢川2-1-8

●「（仮称）佐久都市計画道路1･4･1号 南牧佐久線」に関する意見

受付機関	提出先
長野県 建設部 都市・まちづくり課	〒380-8570　長野県長野市大字南長野字幅下692-2
長野県 佐久建設事務所 整備課	〒384-0301　長野県佐久市臼田2015 ﾌｧｸｼﾐﾘ　0267-82-7400 e-mail　ikensyo-tce@pref.nagano.lg.jp
佐久市 建設部 道路建設課	〒385-8501　長野県佐久市中込3056 佐久市役所 南棟
小海町 産業建設課	〒384-1192　長野県南佐久郡小海町大字豊里57-1 小海町役場
佐久穂町 建設課	〒384-0697　長野県南佐久郡佐久穂町大字高野町569 佐久穂町役場
川上村 建設課	〒384-1405　長野県南佐久郡川上村大字大深山525 川上村役場
南牧村 産業建設課	〒384-1302　長野県南佐久郡南牧村海ノ口1051 南牧村役場
南相木村 振興課	〒384-1211　長野県南佐久郡南相木村3525-1 南相木村役場
北相木村 経済建設課	〒384-1201　長野県南佐久郡北相木村2744 北相木村役場
国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所 総務課	〒380-0902　長野県長野市鶴賀字中堰145

26

補足説明資料2（意見No.7：準備書のあらましにおける「メリハリ」、「見やすさ・分かりやすさ」に配慮した表現の工夫

【凡例】
青文字：見やすさ・分かりやすさの工夫
赤文字：メリハリの工夫（予測結果が影響大は、詳細に記載）
黒文字：メリハリの工夫（予測結果が影響小は、簡易に記載）

ご意見・お問合せ先

山梨県　県土整備部　都市計画課

〒400-8501　山梨県甲府市丸の内1-6-1
ＴＥＬ　055-223-1715
ﾌｧｸｼﾐﾘ　055-223-1724
e-mail　toshikeiass@pref.yamanashi.lg.jp

長野県　建設部　都市・まちづくり課

〒380-8570　長野県長野市大字南長野字幅下692-2
ＴＥＬ　026-235-7298
ﾌｧｸｼﾐﾘ　026-252-7315
e-mail　ikensyo-tce@pref.nagano.lg.jp

R70
このパンフレットは、古紙配合率70%の再生紙を使用しています。

VEGETABLE OIL INK
このパンフレットの印刷には、植物油インキを使用しています。

①　負の環境影響の種類と程度（1/9）

- 当初想定した環境影響評価項目は、環境要素と環境要因の区分に該当する●○印（前回審議会資料2 p.17～18 ）です。
- うち、影響の程度が**比較的大きかったもの**は、桃着色（　）の環境影響評価項目です。

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

●本事業に係る環境影響評価項目について、国土交通省令、道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）、山梨県環境影響評価等技術指針を参考として、事業特性及び地域特性、専門家等による技術的助言及び方法書についての知事意見を踏

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施							土地又は工作物の存在及び供用				選定理由
			建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	トンネル工事の実施	水底の掘削等	道路（地表式又は掘割式）の存在	道路（高上式）の存在	道路（地上式）の存在	自動車の走行	
大気環境	大気質	二酸化窒素	○	○									●	
		浮遊粒子状物質	○	○									●	調査区域に住居等の保全対象が
		粉じん等	●	●										調査区域に住居等の保全対象が
	騒　音	騒　音	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
	低周波音	低周波音											○	調査区域に住居等の保全対象が
	振　動	振　動	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
水環境	水　質	水の濁り				○			○					都市計画対象道路事業実施区域て、濁水の影響が考えられる
		水の汚れ							○					都市計画対象道路事業実施区域て、アルカリ水の影響が考えられ
	水　象	河川及び湖沼			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、河川の流量等への影響が考
		地下水			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、地下水への影響が考えられる
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				●				●				調査区域に存在する重要な地形れる
	その他の環境要素	日照阻害									●			調査区域に住居等の保全対象が
		電波障害									○			調査区域に住居等の保全対象が

注1）●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目

17

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施							土地又は工作物の存在及び供用				選定理由
			建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	トンネル工事の実施	水底の掘削等	道路（地表式又は掘割式）の存在	道路（高上式）の存在	道路（地上式）の存在	自動車の走行	
動　物	重要な種及び注目すべき生息地					●		○		●		○		調査区域に確認されている重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられる
植　物	重要な種及び群落					●		○		●		○		調査区域に確認されている重要な種及び群落への影響が考えられる
生態系	地域を特徴づける生態系					●		○		●		○		調査区域に確認されている地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
景　観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観									●				調査区域に存在する主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観への影響が考えられる
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場									●			○	調査区域に存在する主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられる
文化財	文化財及び埋蔵文化財包蔵地					○					○			調査区域に確認されている文化財への影響が考えられる
廃棄物等	建設工事に伴う副産物				●									工事に伴い発生し、都市計画対象道路事業実施区域外に搬出される建設副産物による影響が考えられる

注1）●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目
注2）黄色網掛け：環境影響評価方法書から増えた項目

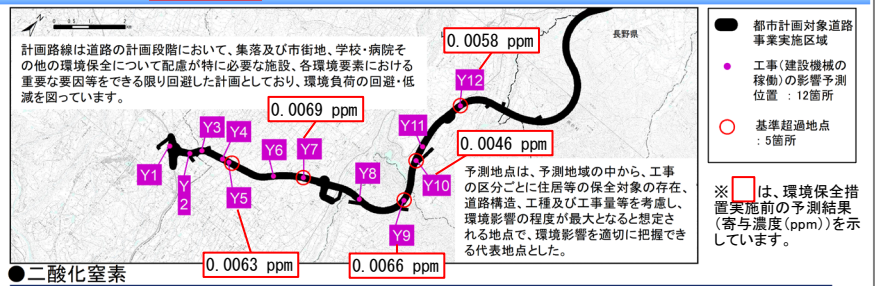
注）■：影響が比較的大きかったもの

①　負の環境影響の種類と程度（2/9）

- 各環境影響評価項目の影響の程度（前回審議会資料2 p.23～78）
- 図中に付記した旗揚げは、基準等を超過した地点の環境保全措置実施前の予測結果（最大値）

【大気質】

4．環境影響評価の結果／（4）大気質　建設機械の稼働に係る
二酸化窒素及び浮遊粒子状物質　①予測、②環境保全措置、③評価



●二酸化窒素

予測手法	予測結果	整合を図るべき基準又は目標	基準又は目標との整合	超過箇所
拡散式（プルーム式及びパフ式）を用いた予測	建設機械の寄与濃度（ppm） 0.0009～0.0069	参考値：0.004ppm以下	×	Y5,Y7,Y9,Y10,Y12(5箇所)
	平均値の年間98%値（ppm） 0.012～0.020	1時間値の1日平均値が0.04ppm～0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下	○	—

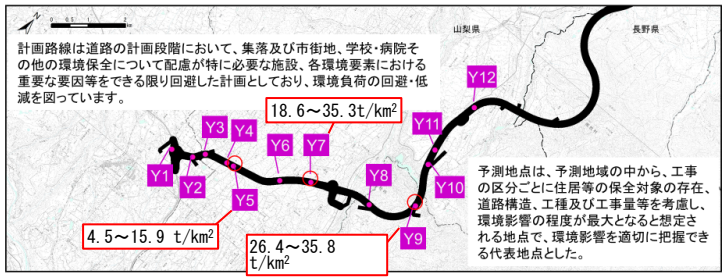
【整合を図るべき基準または目標】整合を図るべき基準は、技術手法に基づき、一般的に道路事業で用いられる法定基準等とした。
建設機械の寄与濃度（ppm）：「技術手法」で示された年平均値の変動が横ばいと見なせる範囲の値（0.004ppm）
平均値の年間98%値（ppm）：「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年7月11日　環境庁告示第38 号の環境基準

■環境保全措置後の予測結果（赤字の措置内容を考慮した予測結果）

環境保全措置の内容	建設機械の寄与濃度（ppm）	整合を図るべき基準又は目標
A：排出ガス対策型建設機械の採用 B：作業方法の改善	0.0009～0.0037	参考値：0.004ppm以下

23

4．環境影響評価の結果／（4）大気質　建設機械の稼働に係る粉じん等
①予測、②環境保全措置、③評価



予測手法	降下ばいじん量（t/km²/月）	参考値（t/km²/月）	参考値との比較	超過箇所
建設機械の組合せ（ユニット）、基準降下ばいじん量より、季節別降下ばいじん量を求める	0.7～35.8	10	×	Y5、Y7、Y9（3箇所）

■環境保全措置の実施後の予測結果（赤字の内容を考慮した予測結果）

環境保全措置の内容	降下ばいじん量（t/km²/月）	参考値（t/km²/月）
A：散水 B：作業方法の改善	0.7～9.8	10

【参考値】道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）（平成25年3月　国土技術政策総合研究所資料No.714、土木研究所資料No.4254）に示されている降下ばいじんの参考となる値

28

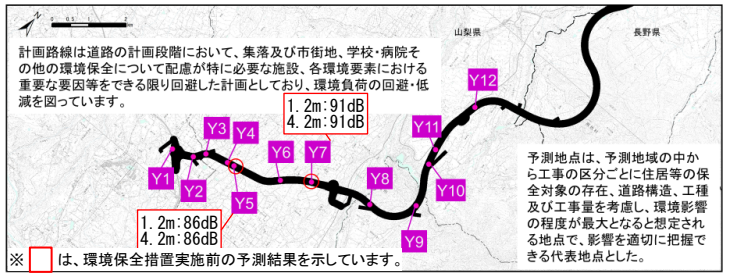
①　負の環境影響の種類と程度（3/9）

- 図中に付記した旗揚げは、基準等を超過した地点の環境保全措置実施前の予測結果（最大値）

【騒音】

4．環境影響評価の結果／（5）騒音　建設機械の稼働に係る騒音

①予測、②環境保全措置、③評価



予測手法	予測結果（dB）	整合を図るべき基準又は目標（dB）	基準又は目標との整合	超過箇所
（社）日本音響学会の建設工事騒音の予測モデル	L_{A5}　：71～91	85	×	Y5、Y7（2箇所）

L_{A5}　：サンプリングした一定個数の変動騒音レベルのうち、高い方から5%に相当する値

■環境保全措置の実施後の予測結果（赤字の内容を考慮した予測結果）

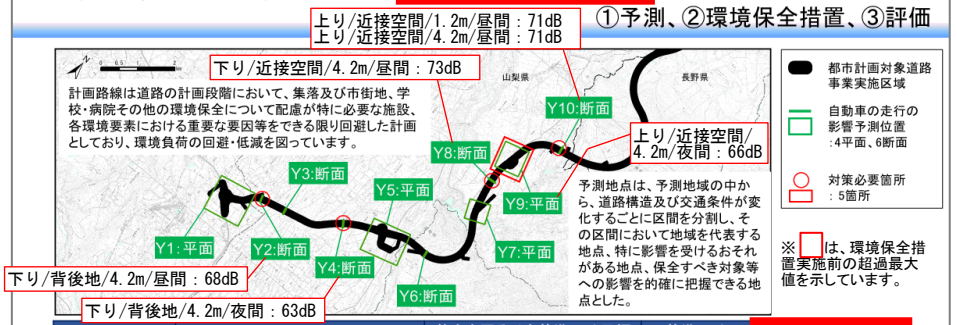
環境保全措置の内容	予測結果（dB）	整合を図るべき基準又は目標（dB）	基準又は目標との整合
A：低騒音型建設機械の採用 B：仮囲い等の設置 C：作業方法の改善	L_{A5}　：71～85	85	○

【整合を図るべき基準又は目標】　整合を図るべき基準は、技術手法に基づき、一般的に道路事業で用いられる法定基準等とした。
「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年11月27日厚生省、建設省告示1号）の特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準

30

4．環境影響評価の結果／（5）騒音　自動車の走行に係る騒音

①予測、②環境保全措置、③評価



予測手法	予測結果 L_{Aeq}（dB）	整合を図るべき基準又は目標（dB）	基準又は目標との整合	超過箇所
（社）日本音響学会の道路交通騒音の予測モデル	【近接空間】 昼間：48～73　夜間：47～71 【背後地】 昼間：48～69　夜間：47～67	【近接空間】 昼間：70　夜間：65 【背後地】 区分B　昼間：65　夜間：60	×	断面-Y2,断面-Y4, 断面-Y8,平面-Y9, 断面-Y10

※予測結果について、騒音に係る環境基準の地域指定がなされていない地点は、現況の土地利用状況等を勘案して「地域の区分B」を想定した。

■環境保全措置の実施後の予測結果（赤字の内容を考慮した予測結果）

環境保全措置の内容	予測結果 L_{Aeq}（dB）	整合を図るべき基準又は目標（dB）	基準又は目標との整合
A：遮音壁の設置 B：トンネル吸音板の設置	【近接空間】 昼間：46～67　夜間：45～65 【背後地】 昼間：48～60　夜間：47～59	【近接空間】 昼間：70　夜間：65 【背後地】 区分B　昼間：65　夜間：60	○

※予測結果について、騒音に係る環境基準の地域指定がなされていない地点は、現況の土地利用状況等を勘案して「地域の区分B」を想定した。
【整合を図るべき基準又は目標】　整合を図るべき基準は、技術手法に基づき、一般的に道路事業で用いられる法定基準等とした。
「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月30日環境省告示第64号）の道路に面する地域の基準

32

①　負の環境影響の種類と程度（4/9）

【水質】

4．環境影響評価の結果／(8)水質　切土工等又は既存の工作物の除去、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置及び水底の掘削等に係る水の濁り　①予測、②環境保全措置の検討、③評価

予測・評価結果：土工事に伴う裸地等の表土から降雨等により濁水が発生する可能性が、トンネル工事による濁水が周辺河川へ直接流出する可能性が、また、水底の掘削等に伴い水の濁りが発生する可能性が考えられ、**水の濁りが発生する可能性があると予測**。
計画路線は道路の計画段階において、工事施工ヤードは計画路線上を、工事用道路は既存道路を極力利用して、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画としており、環境負荷の回避・低減を図っている。
また、環境保全措置として、**「濁水処理施設の設置」、「速やかな転圧及び法面整形」、「シートによる被覆等の実施」、「河川への影響に配慮した施工」**を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り**回避又は低減されているものと評価**。

環境保全措置　：**A. 濁水処理施設の設置**
B. 速やかな転圧及び法面整形
C. シートによる被覆等の実施
D. 河川への影響に配慮した施工

43

4．環境影響評価の結果／(8)水質　水底の掘削等に係る水の汚れ　①予測、②環境保全措置の検討、③評価

予測地点・方法：**水底の掘削等を予定している水域**を対象に、技術手法※に記載のある事例の引用により予測・評価を実施。

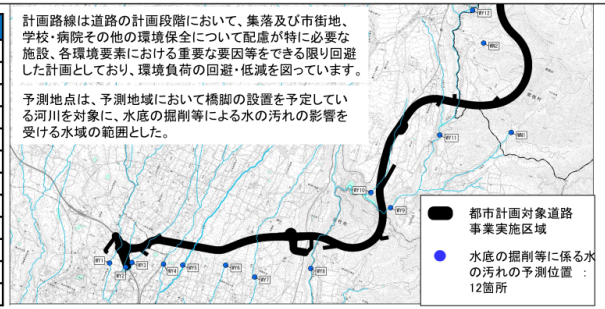
予測・評価結果：工事にあたっては、工事排水の周辺河川への流出が懸念され、水底の掘削等に伴い**水の汚れが発生する可能性があると予測**。
水底の掘削等を予定している水域では、計画路線は道路の計画段階において、河川の改変を極力抑えた計画としている。
また、環境保全措置として**「河川への影響に配慮した施工」**を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り**回避又は低減されているものと評価**。

環境保全措置　：**河川への影響に配慮した施工**
（河川内の基礎工事等において、濁水処理施設の設置や中和処理による工事排水の適切な処理等を行う。）

※：道路環境影響評価の技術手法（国土交通省　国土技術政策総合研究所）

番号	予測地点
WY1	鳩川
WY2	衣川
WY3	泉川
WY4	甲川
WY5	油川
WY6	村山六ヶ村堰疎水
WY7	西川
WY8	須玉川
WY9	大門ダム貯水池(清里湖)流入河川①
WY10	大門ダム貯水池(清里湖)流入河川②
WY11	大門川下流部
WY12	大門川上流部

※WN1、WN2は長野側で予測・評価を実施



44

①　負の環境影響の種類と程度（5/9）

【水象】

4. 環境影響評価の結果／(9)水象　道路の存在、切土工等又は既存の工作物の除去及びトンネル工事の実施に係る河川①予測、②環境保全措置の検討、③評価

予測・評価結果：
＜計画路線が地上部で渡河する河川＞
・河川の改変を極力抑えるとともに、河川の機能を確保し、河川の流れを阻害しない河川幅を確保する。
＜計画路線が橋梁部で渡河する河川＞
・低水路に接しない位置に橋脚を設置するとともに、必要以上に橋脚の断面積を大きくしない計画としており、河川への影響を最小限にしており、**河川の流量はほとんど変化しないと予測**。
＜計画路線がトンネル部で通過する河川＞
・河川水と地下水の関連性がない河川、又は河床がコンクリートによる三面張り構造である河川は、河川水の地下への浸透が抑制され、**河川の流量はほとんど変化しないと予測**。
ただし、河床が自然渓流の河川であり、河川水と地下水が連続している可能性がある河川については**河川の流量が変化する可能性があると予測**。
環境保全措置として、**「観測修正法による最適な工法の採用」**を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り**回避又は低減されているものと評価**。
なお、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、**事後調査を実施**。

環境保全措置：**観測修正法による最適な構造及び工法の採用**
（工事の実施に伴う地下水への影響をできる限り低減するため、工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果を基に最適な施工方法を採用する）

【事後調査の概要】

調査項目	調査内容
○地下水の水位 ○トンネル内の湧水量 ○河川等の流量	○調査期間：工事前、工事中及び完成後 ○調査地域：河川水と地下水が連続し、河床が自然渓流の河川等の周辺 ○調査方法：地下水観測孔による地下水の水位の観測、トンネル内で発生する湧水量観測、河川等の流量の観測

46

4. 環境影響評価の結果／(9)水象　道路の存在、切土工等又は既存の工作物の除去及びトンネル工事の実施に係る地下水①予測、②環境保全措置の検討、③評価

予測・評価結果：
【a.水道の水源】
山岳地を通過する事業実施区域においては、地形的に尾根と谷が交互に連続することから、各々のトンネル・切土区間は短く浅い。このため、地下水への影響は全体的には小さいと考えられることから、トンネル区間に近接する水源を除けば、**水位はほとんど変化しないと予測**。
東急場地区において、トンネル区間に比較的近い位置にある「東急場上水源（深）」は、断面二次元浸透流解析により、水位低下量は10cm未満と予測され、当該水源への影響は小さいと考えられる。そのため、浅部での施工等による影響は限定的であり、**トンネル工事の実施及びトンネルの存在による地下水位への影響は非常に小さいと予測**。
【b.主要な湧水】
山岳地を通過する事業実施区域においては、地形的に尾根と谷が交互に連続することから、各々のトンネル・切土区間は短く浅い。このため、地下水への影響は全体的には小さいと考えられることから、トンネル区間に近接する湧水を除けば、湧水量はほとんど変化しないと予測。
東急場地区において、トンネル区間に比較的近い位置にある「東急場湧水」は、断面二次元浸透流解析により、10cm程度の水位低下が予測される。また、トンネル区間に近接する「稗田湧水」は、「東急場湧水」よりも計画路線に近く影響が大きくなるため、断面二次元浸透流解析により、10m程度の水位低下が予測される。よって、**湧水量が変化する可能性があると予測**。
【c.温泉源泉】
「丘の公園温泉」は、温泉井戸が1400mあり、トンネル計画深度より深部の地下水を取水していると考えられるため、影響はないものと予測。「泉温泉健康センター」は、事業実施区域から1.5km近く離れているため、影響はないものと予測。よって、**事業実施により温泉源泉の水位はほとんど変化しないと予測**。

環境保全措置として、**「観測修正法による最適な構造及び工法の採用」**を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り**回避又は低減されているものと評価**。
なお、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、**事後調査を実施**。

環境保全措置：**観測修正法による最適な構造及び工法の採用**

【事後調査の概要】

調査項目	調査内容
○地下水の水位 ○トンネル内の湧水量 ○河川等の流量	○調査期間：工事前、工事中及び完成後 ○調査地域：河川水と地下水が連続し、河床が自然渓流の河川等の周辺 ○調査方法：地下水観測孔による地下水の水位の観測、トンネル内で発生する湧水量の観測、河川等の流量の観測

48

①　負の環境影響の種類と程度（6/9）

- 電波障害の発生範囲は下記赤枠のとおり予測されている。なお、下記資料の「予測・評価結果」では、適切な環境保全措置の実施により影響を回避・低減できるため、対策後の総合評価として「影響はない」と記載。

【電波障害】

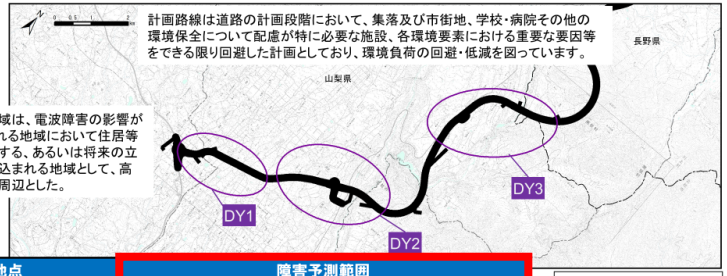
4．環境影響評価の結果／（11）電波障害　道路の存在に係る電波障害
①予測、②環境保全措置、③評価

予測地点・方法：道路構造が高架構造等となる3箇所において、手引き※1に記載の式により、予測・評価を実施。

予測・評価結果：すべての予測地点において影響はないと予測。
環境保全措置として、「高架構造物の上下部工の形式・配置等の工夫」を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価。
なお、本事業に起因する電波障害については、必要に応じて関係通達※2に基づき適切に対処。

環境保全措置　：高架構造物の上下部工の形式・配置等の工夫

※1：「建造物障害予測の手引き（地上デジタル放送 2005.3）」（平成17 年3 月 社団法人日本CATV 技術協会）
※2：「公共施設の設置に起因するテレビジョン電波受信障害により生ずる損害等に係る費用負担について」（昭和54年10月12日建設省計用発第35号）



【予測結果の概要】

番号	予測地点	障害予測範囲
DY1	北杜市長坂町・大泉町・高根町周辺	道路から北西の方向に最大幅約400m、最大長さ約110m
DY2	北杜市高根町・須玉町周辺	道路から北の方向に最大幅約1200m、最大長さ約70m
DY3	北杜市須玉町・高根町清里周辺	道路から北の方向に最大幅約600m、最大長さ約250m

都市計画対象道路事業実施区域
道路の存在に係る電波障害の予測位置：3地域

計画路線の存在により、電波障害の発生した地域においては、速やかに受信状況調査を行い、電波障害を解消するため、関係者と協議のうえ、状況に応じて共聴設備の設置、個別受信施設の設置、受信施設の移設または改良等の改善策や、事業損失に係る個別補償の検討を講じます。

50

【動物】

4．環境影響評価の結果／（12）動物　道路の存在、建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、トンネル工事の実施に係る動物　①予測、②環境保全措置、③評価

予測地点・方法：事業実施区域及びその周辺において、現地調査により確認された動物を対象に、技術手法※1に記載のある方法により予測・評価を実施

予測・評価結果　重要な動物種のうち、ヤマネ（p11. 10. 1-155※2）、ハチクマ（p11. 10. 1-176～186※2）、ツミ（p11. 10. 1-202～204※2）、オオタカ（p11. 10. 1-214～221※2）及びフクロウ（p11. 10. 1-233～234※2）は、生息環境は保全されない可能性があると予測。
その他の重要な種は生息環境の一部が消失・縮小・分断されるが、周辺に同様の環境が広く残されるため、保全されると予測。
環境保全措置として、ヤマネは「移動経路の確保」、ハチクマ、ツミ、オオタカ及びフクロウは「工事工程の検討及び段階的な工事の実施等」、「代替営巣地の創出」を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内で、できる限り回避又は低減されているものと評価。なお、ヤマネ、ハチクマ、ツミ、オオタカ及びフクロウについては、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、事後調査を実施。

環境保全措置　：A：工事施工ヤード及び工事用道路の計画路線区域内利用
B. 工事工程の検討及び段階的な工事の実施等（コンディショニング）
C. 低騒音型建設機械の採用　　D. 濁水処理施設の設置
E. 河川への影響に配慮した施工
（河川内の基礎工事等において、濁水処理施設の設置や中和処理による工事排水の適切な処理等を行う。）
F. 観測修正法による最適な工法の採用
（工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果を施工方法に反映させる。）
G. 夜間工事照明の漏れ出し防止ブラインド、扉の設置及び誘因性の低い照明の採用
H. 道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘因性の低い照明の採用
I：移動経路の確保　J：代替営巣地の創出

※1：道路環境影響評価の技術手法（国土交通省　国土技術政策総合研究所）　※2：予測結果の準備書掲載ページ


ヤマネ


ハチクマ


オオタカ


フクロウ

51

①　負の環境影響の種類と程度（7/9）

【植物】

4．環境影響評価の結果／(13)植物　道路の存在、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、トンネル工事の実施に係る植物　①予測、②環境保全措置、③評価

予測地点・方法：事業実施区域及びその周辺において、現地調査により確認された植物を対象に、技術手法※1に記載のある方法により予測・評価を実施。

予測・評価結果：重要な植物種のうち、**ヘラオモダカ**(p11.11.1-88※2)、**ホソバノアマナ**(p11.11.1-93※2)、**ハンノキ**(p11.11.1-137※2)、**サクラソウ**(p11.11.1-147※2)及び**バアソブ**(p11.11.1-163※2)は**生育環境が保全されない、または保全されない可能性があると予測。その他の重要な種は生育環境の一部が消失・縮小するが、周辺に生育環境が広く残されるため、保全されると予測。**

環境保全措置として、ハンノキ、サクラソウは**「工事中・供用後の監視」**、ヘラオモダカ、ホソバノアマナ、サクラソウ、バアソブは**「重要な植物種の移植又は播種」**を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り**回避又は低減されているものと評価**。

なお、**ヘラオモダカ、ホソバノアマナ、サクラソウ及びバアソブ**については、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、**事後調査を実施**。

環境保全措置：
- A. 工事中・供用後の監視（ハンノキ、サクラソウ）
- B. 重要な植物種の移植又は播種（ヘラオモダカ、ホソバノアマナ、サクラソウ、バアソブ）
- C. 濁水処理施設の設置
- D. 河川への影響に配慮した施工（河川内の基礎工事等において、濁水処理施設の設置や中和処理による工事排水の適切な処理等を行う。）

※1：道路環境影響評価の技術手法　（国土交通省　国土技術政策総合研究所）　※2：予測結果の準備書掲載ページ


ヘラオモダカ


ホソバノアマナ


サクラソウ


バアソブ

53

【生態系】

4．環境影響評価の結果／(14)生態系　道路の存在、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、トンネル工事の実施に係る生態系　①予測、②環境保全措置、③評価

予測地点・方法：事業実施区域及びその周辺において、地域を特徴づける生態系を対象に、技術手法※1に記載のある方法により予測・評価を実施。

予測・評価結果：**「須玉川里山生態系」のオオタカ**(p11.12.1-94～95※2)**及び「清里高原生態系」のフクロウ**(p11.12.1-116～117※2)**について、生息環境が保全されない可能性があると予測。「水田耕作地生態系」、「飯盛山生態系」は生息・生育基盤の一部が消失・縮小・分断されるが、周辺に同様の環境が広く残されるため、保全されると予測。**

環境保全措置として、**「工事工程の検討及び段階的な工事の実施等」、「代替営巣地の創出」**を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り**回避又は低減されているものと評価**。

なお、**オオタカ及びフクロウ**については、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、**事後調査を実施**。

環境保全措置：
- A. 工事施工ヤード及び工事用道路の計画路線区域内利用
- B. 工事工程の検討及び段階的な工事の実施等（コンディショニング）
- C. 低騒音型建設機械の採用
- D. 濁水処理施設の設置
- E. 河川への影響に配慮した施工（河川内の基礎工事等において、濁水処理施設の設置や中和処理による工事排水の適切な処理等を行う。）
- F. 観測修正法による最適な工法の採用（工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果を施工方法に反映させる。）
- G. 夜間工事照明の漏れ出し防止ブラインド、扉の設置及び誘引性の低い照明の採用
- H. 道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘引性の低い照明の採用
- I：代替営巣地の創出

※1：道路環境影響評価の技術手法（国土交通省　国土技術政策総合研究所）　※2：予測結果の準備書掲載ページ

59

①　負の環境影響の種類と程度（8/9）

【景観】

4．環境影響評価の結果／(15)景観　道路の存在に係る景観
①予測、②環境保全措置、③評価

予測・評価結果：主要な眺望点、身近な眺望点、防風林の眺望点は、計画路線による改変はない。
景観資源については「長坂」、「丘の公園通り」の2箇所、身近な自然景観として　「田園風景」、「耕作地」、「山間部の新緑/紅葉」の3箇所において、改変される可能性があるが、改変はごく一部に限られる。
眺望景観の変化について、11箇所からの眺望景観に変化が生じると予測される。
その他の眺望点については、計画路線はほとんど目立たないことから、眺望景観の変化による影響はほとんど生じないと予測。
また、環境負荷を低減する環境保全措置として、「構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討」、「地形改変部（法面含む）の緑化」を実施。
よって、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内で、できる限り回避又は低減されているものと評価

環境保全措置　：A. 構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討
B. 地形改変部（法面含む）の緑化

62

【人と自然との触れ合いの活動の場】

4.環境影響評価の結果／(16)人と自然との触れ合いの活動の場　道路の存在、自動車の走行に係る人と自然との触れ合いの活動の場　①予測、②環境保全措置、③評価

予測・評価結果：
＜触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然環境の改変の程度＞
・計画路線により改変が生じない、もしくは改変が生じても周辺の自然環境のほとんどが残されるため、すべての地点で、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然環境は保全されると予測。

＜利用性の変化＞
・「清里中央オートキャンプ場」「金生遺跡」の2箇所で照明施設による星空観察の阻害が生じると予測。
・その他の地点では、計画路線により改変が生じない、もしくは改変が生じても橋梁やカルバート構造により、計画路線による利用の支障や到達時間・距離については変化が生じないと予測。

○方法書からの追加
・自動車の走行に係る影響を追加

＜快適性の変化＞
・「清里湖畔（大門ダム）」で自動車の走行により生ずる騒音により快適性に変化が生じると予測。
・その他の地点では、計画路線が視認されない、もしくは視認されても計画路線の一部であるため、快適性の変化による影響が生じる可能性は低いもしくは生じないと予測。

環境負荷を低減する環境保全措置として、「構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討」、「地形改変部（法面含む）の緑化」等を実施。

よって、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価。

環境保全措置　：A. 構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討
B. 地形改変部（法面含む）の緑化
C. 光害に配慮した道路照明の検討
D. 植栽等による道路の遮蔽

75

①　負の環境影響の種類と程度（9/9）

【文化財】

4.環境影響評価の結果／(17)文化財　工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路の存在に係る文化財　①予測、②評価

予測地点・方法：**事業実施区域及びその周辺の文化財8箇所**を対象として、文化財及び周辺環境の改変の位置、程度について、予測・評価を実施。

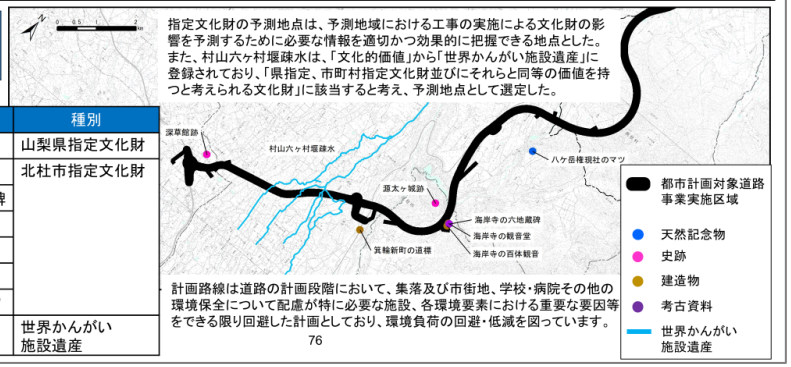
予測・評価結果：**すべての地点で文化財そのものは改変されない**ことから、**雰囲気や利用環境の変化は生じないと予測**。

埋蔵文化財包蔵地に関しては、複数の地点について事業により改変されると予測。

環境保全措置として、計画道路が通過、近接または重複する周知の埋蔵文化財包蔵地における工事に先立ち、文化財保護法に基づき、必要な届出や協議を県教育委員会及び市教育委員会に行うなどの適切な措置を実施。また、工事の施工中に未周知の埋蔵文化財等が確認された場合は、速やかに教育委員会等関係機関に報告し、関係法令に基づき適切な措置を実施。

よって、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り**回避又は低減されているものと評価**。

○方法書からの追加
・文化財の対象に天然記念物及び埋蔵文化財を追加



予測地点	種別
深草館跡	山梨県指定文化財
箕輪新町の道標	北杜市指定文化財
海岸寺の六地蔵板碑	
海岸寺の百体観音	
海岸寺の観音堂	
源太ヶ城跡	
八ケ岳権現社のマツ	
村山六ヶ村堰疎水	世界かんがい施設遺産

指定文化財の予測地点は、予測地域における工事の実施による文化財の影響を予測するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。また、村山六ヶ村堰疎水は、「文化的価値」から「世界かんがい施設遺産」に登録されており、「県指定、市町村指定文化財並びにそれらと同等の価値を持つと考えられる文化財」に該当すると考え、予測地点として選定した。

計画路線は道路の計画段階において、集落及び市街地、学校・病院その他の環境保全について配慮が特に必要な施設、各環境要素における重要な要因等をできる限り回避した計画としており、環境負荷の回避・低減を図っています。

76

【廃棄物等】

4.環境影響評価の結果／(18)廃棄物等　切土工等又は既存の工作物の除去に係る廃棄物等　①予測、②環境保全措置の検討、③評価

予測方法　：**工事の実施により発生する廃棄物等**（建設発生土、建設汚泥、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊及び建設発生木材）を対象として、技術手法※に記載の方法により予測・評価を実施。

予測・評価結果　実施区域外に搬出する建設副産物（廃棄物）は、**建設発生土、建設汚泥、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材が発生すると予測。**

環境保全措置として、**「工事間流用の促進（建設発生土）」、「再資源化施設への搬入等による他事業等での利用」**を実施することで、環境影響は事業予定者の実行可能な範囲内でできる限り**回避又は低減されているものと評価。**

環境保全措置　：**A. 工事間流用の促進（建設発生土）**
B. 再資源化施設への搬入等による他事業等での利用

※：道路環境影響評価の技術手法（国土交通省　国土技術政策総合研究所）

【予測結果の概要】

建設副産物	発生量	事業地内利用量	実施区域外への搬出量	処理方法
建設発生土	約1,771,000m³	約1,761,000m³	約10,000m³	・事業内利用 ・工事間流用の促進
建設汚泥	約10,500m³	－	約10,500m³	・再資源化施設への搬入等による他事業等での利用 ・場内での脱水処理等による減量化
コンクリート塊	約300m³	－	約300m³	・再資源化施設への搬入等による他事業等での利用
アスファルト・コンクリート塊	約900m³	－	約900m³	・再資源化施設への搬入等による他事業等での利用
建設発生木材	約6,000m³	－	約6,000m³	・再資源化施設への搬入等による他事業等での利用

注：建設発生土は、トラック運搬量を想定し、掘削土をほぐした後の膨張量を加算した量である。

78

②　①の中で回避できると判断した悪影響とその方策（1/5）

- 当初想定した環境影響評価項目は、環境要素と環境要因の区分に該当する●○印（前回審議会資料2 p.17～18 ）です。
- うち、**影響を回避できると判断したもの**は、青四角印（□）の環境影響評価項目の一部です。

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

●本事業に係る環境影響評価項目について、国土交通省令、道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）、山梨県環境影響評価等技術指針を参考として、事業特性及び地域特性、専門家等による技術的助言及び方法書についての知事意見を踏

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施：建設機械の稼働	工事の実施：資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	工事の実施：切土工等又は既存の工作物の除去	工事の実施：工事施工ヤードの設置	工事の実施：工事用道路等の設置	工事の実施：トンネル工事の実施	工事の実施：水底の掘削等	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地表式又は掘割式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（高上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：自動車の走行	選定理
大気環境	大気質	二酸化窒素	○	○									●	
		浮遊粒子状物質	○	○									●	調査区域に住居等の保全対象が
		粉じん等	●	●										調査区域に住居等の保全対象が
	騒　音	騒　音	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
	低周波音	低周波音											○	調査区域に住居等の保全対象が
	振　動	振　動	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
水環境	水　質	水の濁り				○			○					都市計画対象道路事業実施区域て、濁水の影響が考えられる
		水の汚れ							○					都市計画対象道路事業実施区域て、アルカリ水の影響が考えられ
	水　象	河川及び湖沼			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、河川の流量等への影響が考
		地下水			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、地下水への影響が考えられる
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				●				●				調査区域に存在する重要な地形れる
	その他の環境要素	日照阻害									●			調査区域に住居等の保全対象が
		電波障害									○			調査区域に住居等の保全対象が

注1）●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目

17

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

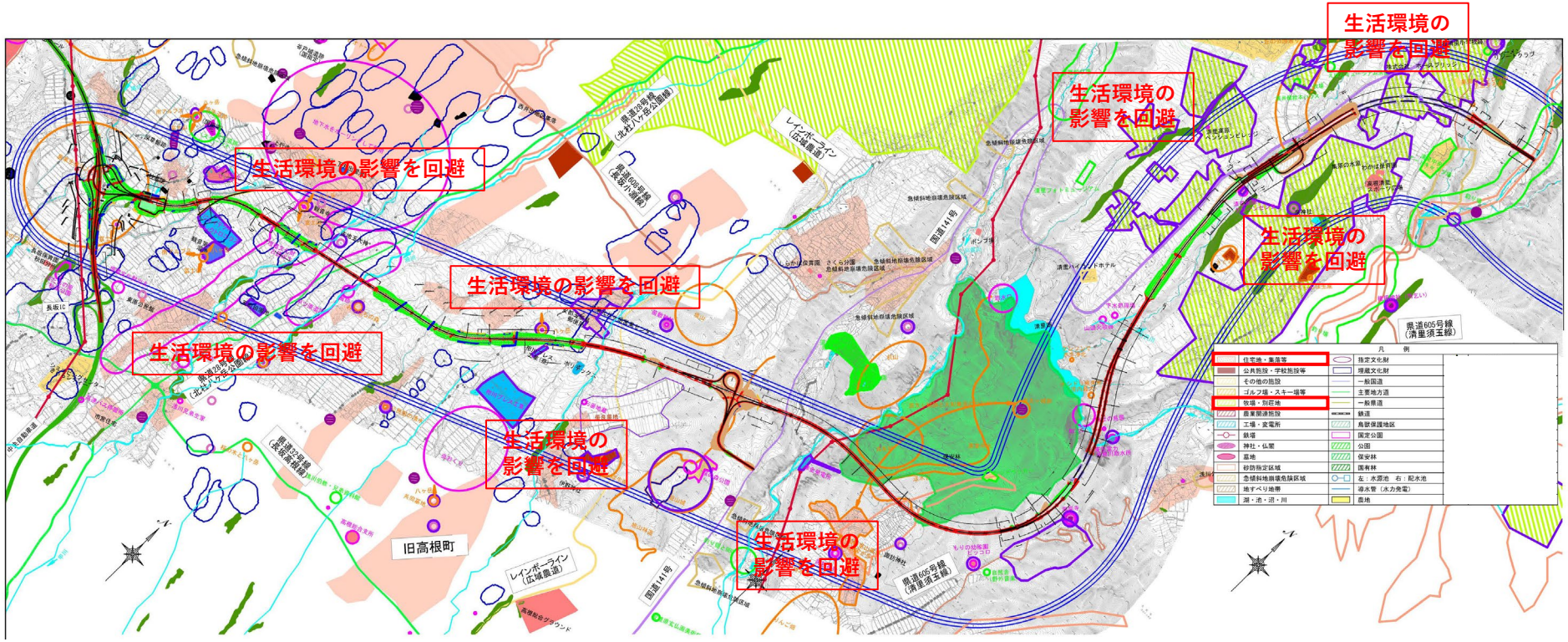
環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施：建設機械の稼働	工事の実施：資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	工事の実施：切土工等又は既存の工作物の除去	工事の実施：工事施工ヤードの設置	工事の実施：工事用道路等の設置	工事の実施：トンネル工事の実施	工事の実施：水底の掘削等	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地表式又は掘割式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（高上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：自動車の走行	選定理由
動　物		重要な種及び注目すべき生息地	○			●		○		●	○			調査区域に確認されている重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられる
植　物		重要な種及び群落				●		○		●	○			調査区域に確認されている重要な種及び群落への影響が考えられる
生態系		地域を特徴づける生態系				●		○		●	○			調査区域に確認されている地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
景　観		主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観								●				調査区域に存在する主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観への影響が考えられる
人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場								●			○	調査区域に存在する主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられる
文化財		文化財及び埋蔵文化財包蔵地				○					○			調査区域に確認されている文化財への影響が考えられる
廃棄物等		建設工事に伴う副産物			●									工事に伴い発生し、都市計画対象道路事業実施区域外に搬出される建設副産物による影響が考えられる

注1）●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目
注2）黄色網掛け：環境影響評価方法書から増えた項目

注）■：影響が比較的大きかったもの、□：影響の**一部を回避できる**と判断したもの

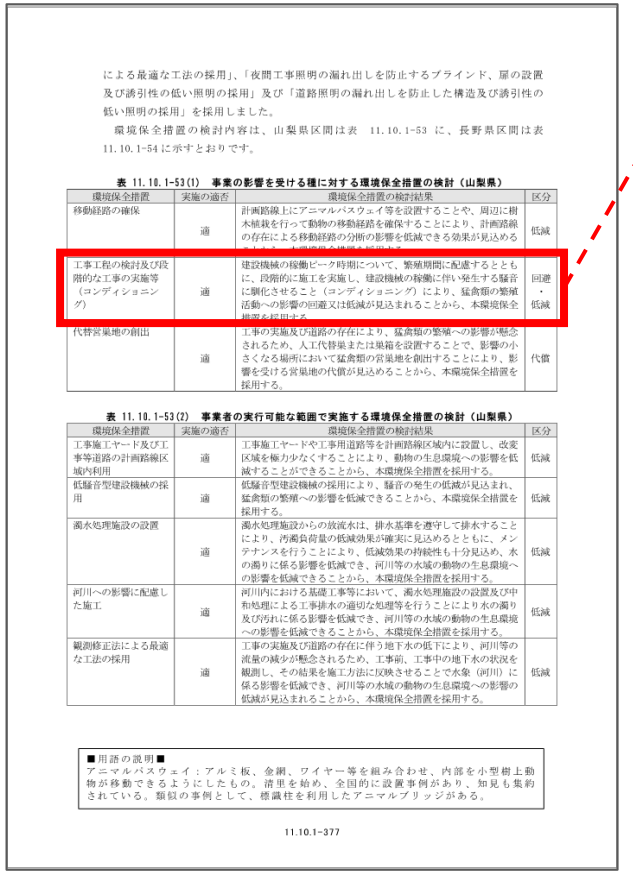
② ①の中で回避できると判断した悪影響とその方策（2/5）

- **建設機械の稼働に係る二酸化窒素・粉じん等・騒音、自動車の走行に係る騒音、道路の存在に係る電波障害への影響**については、**住宅地(■)、別荘地(■)**を極力回避できる位置・構造となるよう検討することにより、**生活環境の影響を一部回避**しています（準備書p.3.4-8参照）。



② ①の中で回避できると判断した悪影響とその方策（3/5）

- **建設機械の稼働に係る動物（猛禽類）への影響**については、「**工事工程の検討及び段階的な工事の実施等（コンディショニング）**」により、環境影響を回避します（準備書p.11.10.1-377、p.11.12.1-194）。



による最適な工法の採用」、「夜間工事照明の漏れ出しを防止するブラインド、扉の設置及び誘引性の低い照明の採用」及び「道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘引性の低い照明の採用」を採用しました。

環境保全措置の検討内容は、山梨県区間は表 11.10.1-53 に、長野県区間は表 11.10.1-54 に示すとおりです。

表 11.10.1-53(1) 事業の影響を受ける種に対する環境保全措置の検討（山梨県）

環境保全措置	実施の適否	環境保全措置の検討結果	区分
移動経路の確保	適	計画路線上にアニマルパスウェイ等を設置することや、周辺に樹木植栽を行って動物の移動経路を確保することにより、計画路線の存在による移動経路の分断の影響を低減できる効果が見込めるため、本環境保全措置を採用する。	低減
工事工程の検討及び段階的な工事の実施等（コンディショニング）	適	建設機械の稼働ピーク時期について、繁殖期間に配慮するとともに、段階的に施工を実施し、建設機械の稼働に伴い発生する騒音に馴化させること（コンディショニング）により、猛禽類の繁殖活動への影響の回避又は低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。	回避・低減
代替営巣地の創出	適	工事の実施及び道路の存在により、猛禽類の繁殖への影響が懸念されるため、人工代替巣または巣箱を設置することで、影響の小さくなる場所において猛禽類の営巣地を創出することにより、影響を受ける営巣地の代償が見込めることから、本環境保全措置を採用する。	代償

表 11.10.1-53(2) 事業者の実行可能な範囲で実施する環境保全措置の検討（山梨県）

環境保全措置	実施の適否	環境保全措置の検討結果	区分
工事施工ヤード及び工事等道路の計画路線区域内利用	適	工事施工ヤードや工事用道路等を計画路線区域内に設置し、改変区域を極力少なくすることにより、動物の生息環境への影響を低減することができることから、本環境保全措置を採用する。	低減
低騒音型建設機械の採用	適	低騒音型建設機械の採用により、騒音の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。	低減
濁水処理施設の設置	適	濁水処理施設からの放流水は、排水基準を遵守して排水することにより、汚濁負荷量の低減効果が確実に見込めるとともに、メンテナンスを行うことにより、低減効果の持続性も十分見込め、水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の動物の生息環境への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。	低減
河川への影響に配慮した施工	適	河川内における基礎工事等において、濁水処理施設の設置及び中和処理による工事排水の適切な処理等を行うことにより水の濁り及び汚れに係る影響を低減でき、河川等の水域の動物の生息環境への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。	低減
観測修正法による最適な工法の採用	適	工事の実施及び道路の存在に伴う地下水の低下により、河川等の流量の減少が懸念されるため、工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果を施工方法に反映させることで水象（河川）に係る影響を低減でき、河川等の水域の動物の生息環境への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。	低減

■用語の説明■
アニマルパスウェイ：アルミ板、金網、ワイヤー等を組み合わせ、内部を小型樹上動物が移動できるようにしたもの。清里を始め、全国的に設置事例があり、知見も集約されている。類似の事例として、標識柱を利用したアニマルブリッジがある。

11.10.1-377

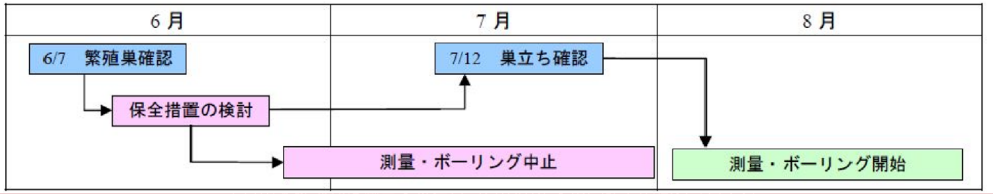
既往事例として、サシバの繁殖期に「測量・ボーリング中止」の措置により、建設機械の稼働に係る猛禽類への影響を回避し、幼鳥の巣立ちを確認した事例等があります。これらを参考に対応を検討します。

◆「工事工程の検討」により建設機械の稼働に係る影響を回避した事例

配慮範囲　「道路環境影響評価の技術手法 2007 年改訂版」（(財)道路環境研究所、2007 年）では、「繁殖期には巣の 200m 以内の工事は避けるべきである。」と、サシバの配慮範囲を示している。このため、繁殖巣（N10）の 200m 圏内を配慮範囲と設定した。

配慮事項　営巣期はサシバの敏感度が高いため、上記の配慮範囲内での作業は中止することとした。

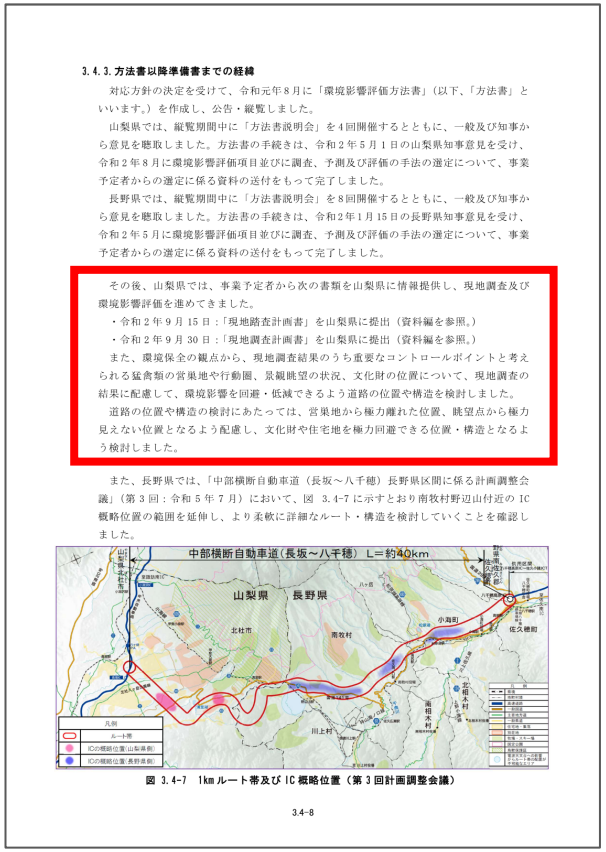
↓営巣木確認から測量・ボーリングの中止・再開までの流れ（H22）



出典）道路環境影響評価の技術手法「13.動物、植物、生態系」における環境保全のための取り組みに関する事例集（令和6年度版）、国土交通省国土技術政策総合研究所、令和7年3月

②　①の中で回避できると判断した悪影響とその方策（4/5）

- **動物（猛禽類の営巣地）の直接的な改変の影響**について、**道路の位置や構造の検討にあたって極力離れた位置となるよう配慮**し、回避しています（準備書p.3.4-8）。



3.4.3. 方法書以降準備書までの経緯

対応方針の決定を受けて、令和元年8月に「環境影響評価方法書」（以下、「方法書」といいます。）を作成し、公告・縦覧しました。

山梨県では、縦覧期間中に「方法書説明会」を4回開催するとともに、一般及び知事から意見を聴取しました。方法書の手続きは、令和2年5月1日の山梨県知事意見を受け、令和2年8月に環境影響評価項目並びに調査、予測及び評価の手法の選定について、事業予定者からの選定に係る資料の送付をもって完了しました。

長野県では、縦覧期間中に「方法書説明会」を8回開催するとともに、一般及び知事から意見を聴取しました。方法書の手続きは、令和2年1月15日の長野県知事意見を受け、令和2年5月に環境影響評価項目並びに調査、予測及び評価の手法の選定について、事業予定者からの選定に係る資料の送付をもって完了しました。

その後、山梨県では、事業予定者から次の書類を山梨県に情報提供し、現地調査及び環境影響評価を進めてきました。

・令和2年9月15日：「現地踏査計画書」を山梨県に提出（資料編を参照。）

・令和2年9月30日：「現地調査計画書」を山梨県に提出（資料編を参照。）

また、環境保全の観点から、現地調査結果のうち重要なコントロールポイントと考えられる猛禽類の営巣地や行動圏、景観眺望の状況、文化財の位置について、現地調査の結果に配慮して、環境影響を回避・低減できるよう道路の位置や構造を検討しました。

道路の位置や構造の検討にあたっては、営巣地から極力離れた位置、眺望点から極力見えない位置となるよう配慮し、文化財や住宅地を極力回避できる位置・構造となるよう検討しました。

また、長野県では、「中部横断自動車道（長坂～八千穂）長野県区間に係る計画調整会議」（第3回：令和5年7月）において、図 3.4-7 に示すとおり南牧村野辺山付近の IC 概略位置の範囲を延伸し、より柔軟に詳細なルート・構造を検討していくことを確認しました。

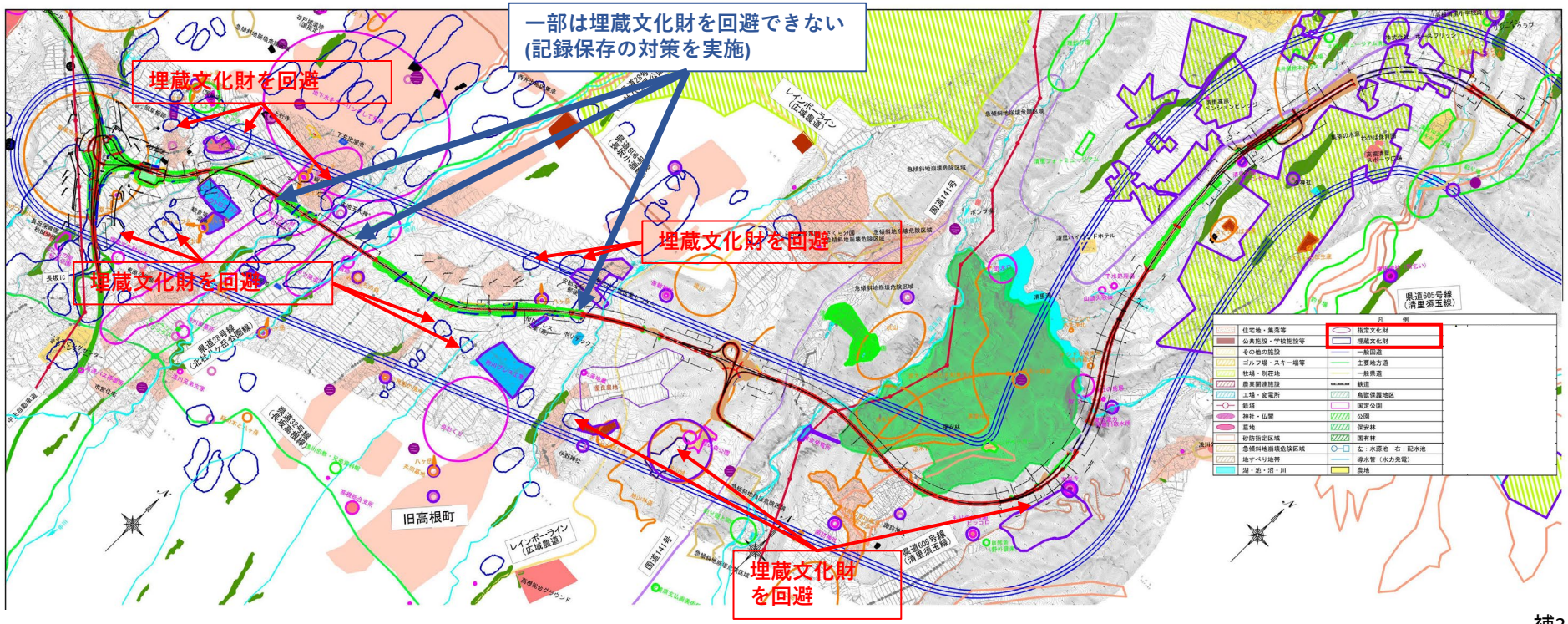
図 3.4-7　1kmルート帯及びIC概略位置（第3回計画調整会議）

3.4-8

- **猛禽類の営巣地との位置関係は、非公開補足資料1を参照ください。**

② ①の中で回避できると判断した悪影響とその方策（5/5）

- **工事施工ヤード及び工事用道路等の設置**については、**文化財(○)、埋蔵文化財(□)**を極力回避できる位置・構造となるよう検討することにより、**影響を一部回避**しています（準備書p.3.4-8参照）。



③　①の中で回避できないと判断した悪影響とその方策（1/3）

- 当初想定した環境影響評価項目は、環境要素と環境要因の区分に該当する●○印（前回審議会資料2 p.17～18 ）です。
- うち、影響を**回避できないと判断したもの**は、青四角印（□）および橙四角印（□）の環境影響評価項目です。※青四角印（□）は一部を回避できない項目

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

●本事業に係る環境影響評価項目について、国土交通省令、道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）、山梨県環境影響評価等技術指針を参考として、事業特性及び地域特性、専門家等による技術的助言及び方法書についての知事意見を踏

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施：建設機械の稼働	工事の実施：資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	工事の実施：切土工等又は既存の工作物の除去	工事の実施：工事施工ヤードの設置	工事の実施：工事用道路等の設置	工事の実施：トンネル工事の実施	工事の実施：水底の掘削等	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地表式又は掘割式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（高上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：自動車の走行	選定理
大気環境	大気質	二酸化窒素	○	○									●	
		浮遊粒子状物質	○	○									●	調査区域に住居等の保全対象が
		粉じん等	●	●										調査区域に住居等の保全対象が
	騒　音	騒　音	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
	低周波音	低周波音											○	調査区域に住居等の保全対象が
	振　動	振　動	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
水環境	水　質	水の濁り				○			○					都市計画対象道路事業実施区域て、濁水の影響が考えられる
		水の汚れ							○					都市計画対象道路事業実施区域て、アルカリ水の影響が考えられ
	水　象	河川及び湖沼			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、河川の流量等への影響が考
		地下水			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、地下水への影響が考えられる
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				●				●				調査区域に存在する重要な地形れる
	その他の環境要素	日照阻害									●			調査区域に住居等の保全対象が
		電波障害									○			調査区域に住居等の保全対象が

注1）●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目

17

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施：建設機械の稼働	工事の実施：資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	工事の実施：切土工等又は既存の工作物の除去	工事の実施：工事施工ヤードの設置	工事の実施：工事用道路等の設置	工事の実施：トンネル工事の実施	工事の実施：水底の掘削等	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地表式又は掘割式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（高上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：自動車の走行	選定理由
動　物	重要な種及び注目すべき生息地		○			●		○		●	○			調査区域に確認されている重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられる
植　物	重要な種及び群落					●		○		●	○			調査区域に確認されている重要な種及び群落への影響が考えられる
生態系	地域を特徴づける生態系					●		○		●	○			調査区域に確認されている地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
景　観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観									●				調査区域に存在する主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観への影響が考えられる
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場									●			○	調査区域に存在する主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられる
文化財	文化財及び埋蔵文化財包蔵地					○					○			調査区域に確認されている文化財への影響が考えられる
廃棄物等	建設工事に伴う副産物			●										工事に伴い発生し、都市計画対象道路事業実施区域外に搬出される建設副産物による影響が考えられる

注1）●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目
注2）黄色網掛け：環境影響評価方法書から増えた項目

注）■：影響が比較的大きかったもの、□：影響の**一部を回避できない**と判断したもの、□：影響を**回避できない**もの

③　①の中で回避できないと判断した悪影響とその理由（2/3）

回避できない地点・対象

環境要素の区分 / 影響要因の区分			工事の実施							土地又は工作物の存在及び供用				回避できないと判断した理由
			建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	トンネル工事の実施	水底の掘削等	道路（地表式又は掘割式）の存在	道路（高上式）の存在	道路（地上式）の存在	自動車の走行	
大気環境	大気質	二酸化窒素	－	－									－	
		浮遊粒子状物質	－	－									－	
		粉じん等	Y5、Y7、Y9	－										これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造により生じる工事に伴う影響や土地の改変または構造物等の存在による影響であるため。
	騒　音	騒　音	Y5、Y7	－									Y-2Y-4、Y-8Y-9、Y-10	
	低周波音	低周波音											－	
	振　動	振　動	－	－									－	
水環境	水　質	水の濁り			周辺河川				周辺河川					これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造により生じる工事に伴う影響であるため
		水の汚れ							周辺河川					
	水　象	河川及び湖沼			周辺河川			同左		同左		同左		これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造（トンネル構造）により生じる工事に伴う影響や土地の改変または構造物等の存在による影響であるため
		地下水			東念場湧水，稗田湧水			同左		同左		同左		
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				－				－				
	その他の環境要素	日照阻害									－			
		電波障害									住居等が存在将来立地が見込まれる地域			これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造（高架構造）により生じる構造物等の存在による影響であるため

注）－：影響が極めて小さいと予測された項目

③　①の中で回避できないと判断した悪影響とその理由（3/3）

回避できない地点・対象

影響要因の区分 / 環境要素の区分		工事の実施							土地又は工作物の存在及び供用			回避できないと判断した理由
		建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	トンネル工事の実施	水底の掘削等	道路（地表式又は掘割式）の存在	道路（高上式）の存在	道路（地上式）の存在	自動車の走行	
動物	重要な種及び注目すべき生息地	※①			※①		－		※①		－		※①：ヤマネ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、フクロウ これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、これらの種への影響は、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造により生じる工事に伴う影響や土地の改変または構造物等の存在による影響であるため
植物	重要な種及び群落				※②		－		※②		－		※②：ヘラオモダカ、ホソバノアマナ、ハンノキ、サクラソウ、バアソブ これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、これらの種への影響は、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造により生じる工事に伴う影響や土地の改変または構造物等の存在による影響であるため
生態系	地域を特徴づける生態系				※③		－		※③		－		※③:オオタカ、フクロウ これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、これらの種への影響は、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造により生じる工事に伴う影響や土地の改変または構造物等の存在による影響であるため
景　観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観								※④				※④：金生遺跡、長坂町大八田（長坂インター南側）、大泉町谷戸（長坂インター北側）、長坂町大八田、大泉町西井出、高根町五町田、共同墓地、おいしい学校駐車場、観音寺、玉川神社、丘の公園入口交差点 これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、これらの眺望への影響は、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造により生じる工事に伴う影響や土地の改変または構造物等の存在による影響であるため
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場								「清里中央オートキャンプ場」「金生遺跡」			「清里湖畔（大門ダム）」	これ以上のルート変更の検討は困難であるため回避できないと判断。 なぜなら、既に環境影響に配慮しながら回避できる集落は回避しつつ、事業の目的を達成できるように、かつ、道路の設計基準から逸脱しないように検討した、最適と考えるルート・構造により生じる影響について、道路設計基準を遵守しつつ検討をした結果、工事に伴う影響や土地の改変または構造物等の存在による影響であるため
文化財	文化財及び埋蔵文化財包蔵地				一部の埋蔵文化財包蔵地				－				
廃棄物等	建設工事に伴う副産物			実施区域									

注）－：影響が極めて小さいと予測された項目

④　③の回避できないと判断した悪影響の中で最小化できると判断した悪影響とその方策（1/3）

- 道路環境影響評価では最小化ではなく「低減」について検討しますが、**前回審議会資料2のp.23以降に環境保全措置を行うとしたほぼ全ての対象**（表中□印）については、影響が低減できると評価しています。

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

●本事業に係る環境影響評価項目について、国土交通省令、道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）、山梨県環境影響評価等技術指針を参考として、事業特性及び地域特性、専門家等による技術的助言及び方法書についての知事意見を踏

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施：建設機械の稼働	工事の実施：資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	工事の実施：切土工等又は既存の工作物の除去	工事の実施：工事施工ヤードの設置	工事の実施：工事用道路等の設置	工事の実施：トンネル工事の実施	工事の実施：水底の掘削等	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地表式又は掘割式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（高上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：自動車の走行	選定理由
大気環境	大気質	二酸化窒素	□										●	
		浮遊粒子状物質	○	○									●	調査区域に住居等の保全対象が
		粉じん等	●	●										調査区域に住居等の保全対象が
	騒　音	騒　音	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
	低周波音	低周波音											○	調査区域に住居等の保全対象が
	振　動	振　動	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
水環境	水　質	水の濁り				○			○					都市計画対象道路事業実施区域て、濁水の影響が考えられる
		水の汚れ							○					都市計画対象道路事業実施区域て、アルカリ水の影響が考えられ
	水　象	河川及び湖沼			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、河川の流量等への影響が考
		地下水			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、地下水への影響が考えられる
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				●				●				調査区域に存在する重要な地形れる
	その他の環境要素	日照阻害									●			調査区域に住居等の保全対象が
		電波障害									□			調査区域に住居等の保全対象が

注1）●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目

17

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

環境要素の区分	影響要因の区分	工事の実施：建設機械の稼働	工事の実施：資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	工事の実施：切土工等又は既存の工作物の除去	工事の実施：工事施工ヤードの設置	工事の実施：工事用道路等の設置	工事の実施：トンネル工事の実施	工事の実施：水底の掘削等	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地表式又は掘割式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（高上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：自動車の走行	選定理由
動　物	重要な種及び注目すべき生息地	○			●		○		●	○			調査区域に確認されている重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられる
植　物	重要な種及び群落				●		○		●	○			調査区域に確認されている重要な種及び群落への影響が考えられる
生態系	地域を特徴づける生態系				●		○		●	○			調査区域に確認されている地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
景　観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観								●				調査区域に存在する主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観への影響が考えられる
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場								●			○	調査区域に存在する主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられる
文化財	文化財及び埋蔵文化財包蔵地				○					○			調査区域に確認されている文化財への影響が考えられる
廃棄物等	建設工事に伴う副産物			●									工事に伴い発生し、都市計画対象道路事業実施区域外に搬出される建設副産物による影響が考えられる

注1）●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目
注2）黄色網掛け：環境影響評価方法書から増えた項目

注）■：影響が比較的大きかったもの、□：影響の一部を回避できないと判断したもの、□：影響を回避できないもの、□：**影響を低減できるもの**

④　③の回避できないと判断した悪影響の中で最小化できると判断した悪影響とその方策（2/3）

環境要素の区分 ＼ 影響要因の区分			環境保全措置
大気環境	大気質	二酸化窒素	◎排出ガス対策型建設機械の採用　◎仮囲いの設置　◎散水　◎作業方法の改善　◎工事用車両の分散
		浮遊粒子状物質	
		粉じん等	
	騒　音	騒　音	◎低騒音型建設機械の採用　◎仮囲い等の設置　◎作業方法の改善 ◎工事用車両の点検及び整備による性能維持　◎工事用車両の分散　◎環境負荷低減を意識した運転の徹底
	低周波音	低周波音	－
	振　動	振　動	◎低振動型建設機械の採用　◎作業方法の改善　◎工事用車両の分散
水環境	水　質	水の濁り	◎濁水処理施設の設置　◎速やかな転圧及び法面整形　◎シートによる被覆等の実施 ◎河川への影響に配慮した施工
		水の汚れ	◎河川への影響に配慮した施工
	水　象	河川及び湖沼	◎観測修正法による最適な構造及び工法の採用
		地下水	◎観測修正法による最適な構造及び工法の採用
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質	－
	その他の環境要素	日照阻害	－
		電波障害	◎高架構造物の上下部工の形式・配置等の工夫

④　③の回避できないと判断した悪影響の中で最小化できると判断した悪影響とその方策（3/3）

環境要素の区分 ＼ 影響要因の区分		環境保全措置
動　物	重要な種及び注目すべき生息地	◎工事施工ヤード及び工事用道路の計画路線区域内利用 ◎工事工程の検討及び段階的な工事の実施等（コンディショニング）　◎低騒音型建設機械の採用 ◎濁水処理施設の設置　◎河川への影響に配慮した施工　◎観測修正法による最適な工法の採用 ◎夜間工事照明の漏れ出しを防止するブラインド、扉の設置及び誘引性の低い照明の採用 ◎道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘引性の低い照明の採用　◎移動経路の確保 （代償措置として、「代替営巣地の創出」も行います）
植　物	重要な種及び群落	◎工事中・供用後の監視 ◎濁水処理施設の設置 ◎河川への影響に配慮した施工 （代償措置として「重要な植物種の移植又は播種」も行います）
生態系	地域を特徴づける生態系	◎工事施工ヤード及び工事用道路の計画路線区域内利用 ◎工事工程の検討及び段階的な工事の実施等（コンディショニング）　◎低騒音型建設機械の採用 ◎濁水処理施設の設置　◎河川への影響に配慮した施工　◎観測修正法による最適な工法の採用 ◎夜間工事照明の漏れ出しを防止するブラインド、扉の設置及び誘引性の低い照明の採用 ◎道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘引性の低い照明の採用　◎移動経路の確保 （代償措置として、「代替営巣地の創出」も行います）
景　観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	◎構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討　◎地形改変部（法面含む）の緑化
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	◎構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討　◎地形改変部（法面含む）の緑化 ◎光害に配慮した道路照明の検討　◎植栽等による道路の遮蔽
文化財	文化財及び埋蔵文化財包蔵地	◎計画道路が通過、近接または重複する周知の埋蔵文化財包蔵地における工事に先立ち、文化財保護法に基づき、必要な届出や協議を県教育委員会及び市教育委員会に行うなどの適切な措置を講じます。 ◎工事の施工中に未周知の埋蔵文化財等が確認された場合は、速やかに教育委員会等関係機関に報告し、関係法令に基づき適切な措置を講じます。
廃棄物等	建設工事に伴う副産物	◎工事間流用の促進　◎再資源化施設への搬入等による他事業等での利用

⑤　③の最小化できない（即ち回避も最小化もできない）と判断した悪影響とその理由(1/2)

- **「重要な動物・生態系の注目種2種（オオタカ、フクロウ）」、「重要な植物4種（ヘラオモダカ、ホソバノアマナ、サクラソウ、バアソブ）への影響」**が該当（表中△印）。

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

●本事業に係る環境影響評価項目について、国土交通省令、道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）、山梨県環境影響評価等技術指針を参考として、事業特性及び地域特性、専門家等による技術的助言及び方法書についての知事意見を踏

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施：建設機械の稼働	工事の実施：資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	工事の実施：切土工等又は既存の工作物の除去	工事の実施：工事施工ヤードの設置	工事の実施：工事用道路等の設置	工事の実施：トンネル工事の実施	工事の実施：水底の掘削等	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地表式又は掘割式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（高上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：自動車の走行	選定理
大気環境	大気質	二酸化窒素	◎	○									●	
		浮遊粒子状物質	○	○									●	調査区域に住居等の保全対象が
		粉じん等	●	●										調査区域に住居等の保全対象が
	騒　音	騒　音	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
	低周波音	低周波音											○	調査区域に住居等の保全対象が
	振　動	振　動	●	●									●	調査区域に住居等の保全対象が
水環境	水　質	水の濁り				○			○					都市計画対象道路事業実施区域て、濁水の影響が考えられる
		水の汚れ							○					都市計画対象道路事業実施区域て、アルカリ水の影響が考えられ
	水　象	河川及び湖沼			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、河川の流量等への影響が考
		地下水			○			○		○		○		都市計画対象道路事業実施区域て、地下水への影響が考えられる
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				●				●				調査区域に存在する重要な地形れる
	その他の環境要素	日照阻害									●			調査区域に住居等の保全対象が
		電波障害									◎			調査区域に住居等の保全対象が

注1)●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目

17

4．環境影響評価の結果／（1）環境影響評価項目（両県共通）

環境要素の区分	影響要因の区分	工事の実施：建設機械の稼働	工事の実施：資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	工事の実施：切土工等又は既存の工作物の除去	工事の実施：工事施工ヤードの設置	工事の実施：工事用道路等の設置	工事の実施：トンネル工事の実施	工事の実施：水底の掘削等	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地表式又は掘割式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（高上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：道路（地上式）の存在	土地又は工作物の存在及び供用：自動車の走行	選定理由
動　物	重要な種及び注目すべき生息地	△			△		△		△	△			調査区域に確認されている重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられる
植　物	重要な種及び群落				△		△		△	△			調査区域に確認されている重要な種及び群落への影響が考えられる
生態系	地域を特徴づける生態系				△		△		△	△			調査区域に確認されている地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
景　観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観								●				調査区域に存在する主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観への影響が考えられる
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場								●			○	調査区域に存在する主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられる
文化財	文化財及び埋蔵文化財包蔵地				○					○			調査区域に確認されている文化財への影響が考えられる
廃棄物等	建設工事に伴う副産物			●									工事に伴い発生し、都市計画対象道路事業実施区域外に搬出される建設副産物による影響が考えられる

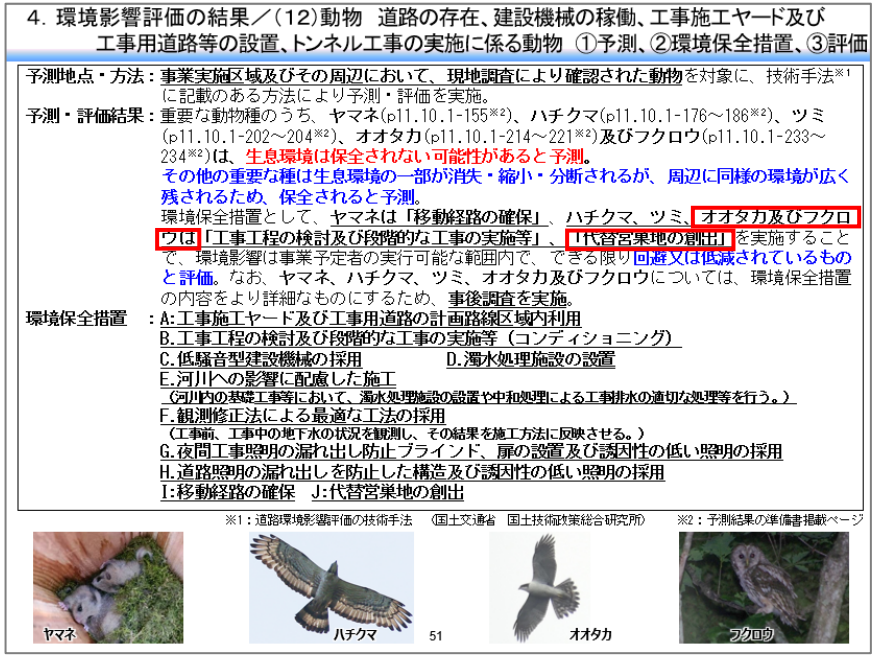
注1)●：国土交通省令の参考項目として選定する項目、○：事業特性又は地域特性及び県条例技術指針を勘案し選定する項目
注2)黄色網掛け：環境影響評価方法書から増えた項目

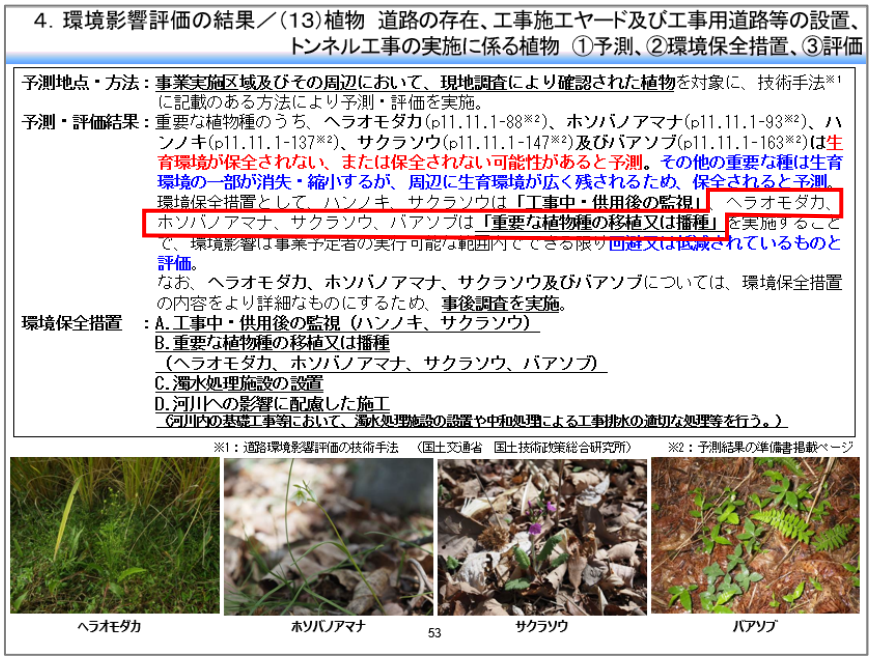
注）■：影響が比較的大きかったもの、□：影響の一部を回避できないと判断したもの、□：影響を回避できないもの、□：**影響を低減できるもの**

△：**低減措置だけでなく、代償措置も併用：**重要な動物・生態系の注目種2種（オオタカ、フクロウ）、重要な植物4種（ヘラオモダカ、ホソバノアマナ、サクラソウ、バアソブ）

⑤　③の最小化できない（即ち回避も最小化もできない）と判断した悪影響とその理由(2/2)

- **重要な動物・生態系の注目種2種（オオタカ、フクロウ）、「重要な植物4種（ヘラオモダカ、ホソバノアマナ、サクラソウ、バアソブ）への影響」**が該当（前回審議会資料2のp.51,53）。
- その理由は、**既に環境影響に配慮しながら事業の目的を達成できるように検討した最適と考えるルート**により生じる影響について、道路設計基準を遵守しつつ検討をした結果、**土地の改変に伴う直接的な営巣地・生育地への影響**は回避が困難であるため。





⑥　⑤の最小化できない（即ち回避も最小化もできない）と判断した悪影響を最後の手段として代償するための方策。また、その方策が代償ミティゲーションと判断できる理由　（1/2）

- 猛禽類2種については、「**代替営巣地の創出**」を実施（準備書p.11.10.1-382,p.11.12.1-198 ）。
- その理由は、「**繁殖への影響が懸念される猛禽類の営巣地を代償することができる**」**ため。**
- 「**道路環境影響評価の技術手法 事例集**」**で代償として例示**されている。

準備書　p.11.11.1-182

表 11.10.1-55(10)　環境保全措置の検討結果の整理（山梨県）

実施主体		国土交通省関東地方整備局
保全対象		オオタカ及びフクロウ
実施内容	種類	代替営巣地の創出
	位置	オオタカ営巣地周辺（NY 地区、OY 地区） フクロウ営巣地周辺（JY 地区）
環境保全措置の効果		代替営巣地の創出は、繁殖への影響が懸念される猛禽類の営巣地を代償することができる。
効果の不確実性		人工代替巣及び巣箱への誘導に係る猛禽類の生態はまだ解明されていない点も多く、効果に係る知見が不十分である。
他の環境への影響		生態系への影響が低減される。

※環境保全措置の具体化の検討時期は、工事の詳細な施工計画段階とし、専門家の意見や最新の技術指針等を踏まえて決定する。

技術手法　事例集　p.4.3-6



⑥　⑤の最小化できない（即ち回避も最小化もできない）と判断した悪影響を最後の手段として代償するための方策。また、その方策が代償ミティゲーションと判断できる理由　（2/2）

- 重要な植物4種については、「**重要な植物種の移植又は播種**」を実施（準備書p.11.11.1-182 ）。
- その理由は、「**対象種の生態及び対象個体の自生地の環境条件等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植又は播種を行うことにより、消失の代償が見込まれる**」**ため。**
- 「**道路環境影響評価の技術手法**」**で代償として例示**されている。

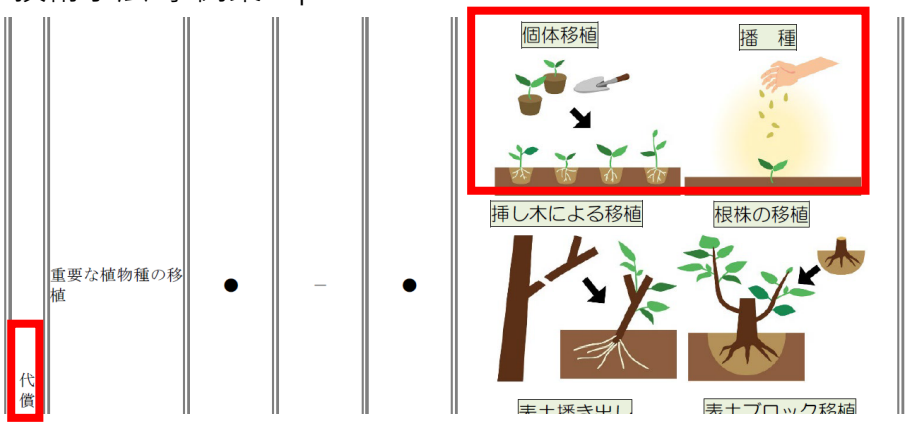
準備書　p.11.11.1-182

表 11.11.1-30(2)　環境保全措置の検討結果の整理（山梨県）

実施主体		国土交通省関東地方整備局
実施内容	種類	重要な植物種の移植又は播種
	位置	生育地近傍（専門家の意見を聞き決定）
保全対象		ヘラオモダカ、ホソバノアマナ、サクラソウ、バアソブ（計画路線区域及び周辺の生育環境の質的変化が及ぶ可能性のある範囲に生育する個体を対象とする。）
環境保全措置の効果		対象種の生態及び対象個体の自生地の環境条件等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植又は播種を行うことにより、消失の代償が見込まれる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		特になし

※環境保全措置の具体化の検討時期は、工事の詳細な施工計画段階とし、専門家の意見や最新の技術指針等を踏まえて決定する。

技術手法 事例集　p.4-10-61

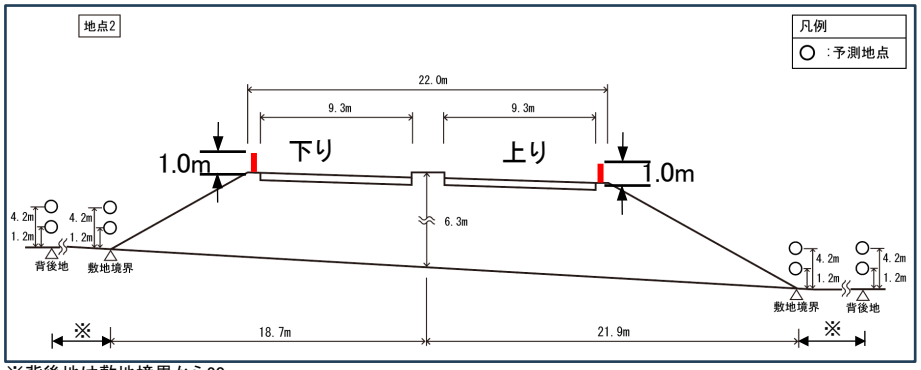


●環境保全措置後の予測結果詳細（断面予測地点：断面-Y2（大泉町西井出1））

番号	予測地点	予測位置		予測高さ	環境保全措置	予測結果(L_{Aeq}) 保全措置前 昼間	保全措置前 夜間	保全措置後 昼間	保全措置後 夜間	対策効果 昼間	対策効果 夜間	基準又は目標 昼間	基準又は目標 夜間
断面-Y2	大泉町西井出1	上り側	近接空間	1.2m	遮音壁の設置（1.0m）	61	60	57	55	-4	-5	70	65
				4.2m		64	62	58	56	-6	-6		
			背後地	1.2m		62	60	57	55	-5	-5	65	60
				4.2m		63	61	57	56	-6	-5		
		下り側	近接空間	1.2m	遮音壁の設置（1.0m）	61	59	56	54	-5	-5	70	65
				4.2m		66	64	59	57	-7	-7		
			背後地	1.2m		65	63	59	57	-6	-6	65	60
				4.2m		68	66	60	59	-8	-7		

※時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）である。
※遮音壁の設置高さは、高架部単独の箇所については高欄上の高さ、それ以外は路面からの高さである。

●地点番号：断面-Y2 （大泉町西井出1）

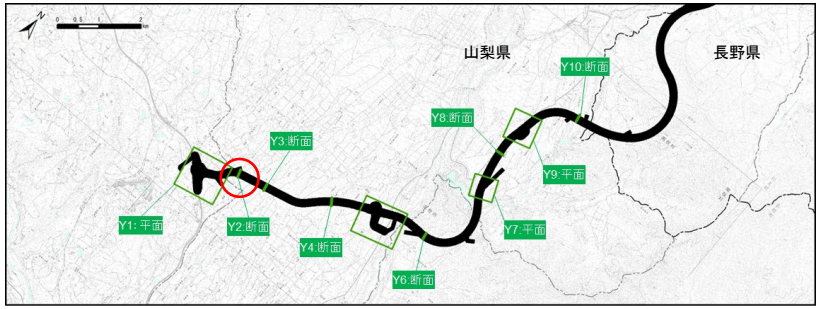


※背後地は敷地境界から20m

凡 例
：遮音壁設置位置

※地点番号：断面-Y2 （大泉町西井出1）
・環境保全措置を実施することにより、全ての地点において環境基準を下回る。

●予測検討箇所

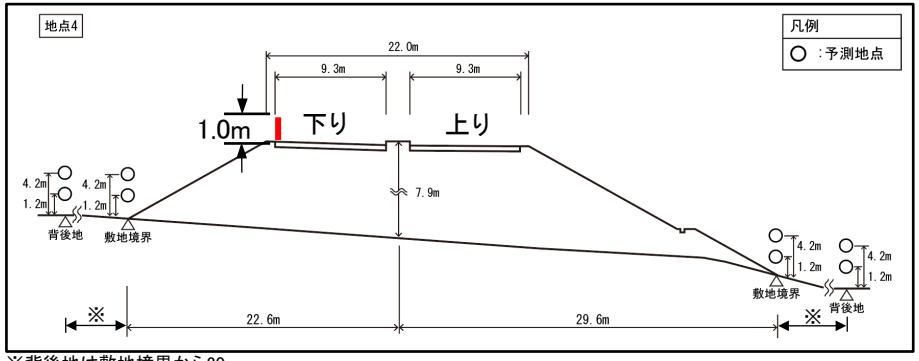


●環境保全措置後の予測結果詳細（断面予測地点：断面-Y4（高根町村山北割））

番号	予測地点	予測位置		予測高さ	環境保全措置	予測結果(L_{Aeq}) 保全措置前 昼間	保全措置前 夜間	保全措置後 昼間	保全措置後 夜間	対策効果 昼間	対策効果 夜間	基準又は目標 昼間	基準又は目標 夜間
断面-Y4	高根町村山北割	上り側	近接空間	1.2m		59	57	－	－	－	－	70	65
				4.2m		60	58	－	－	－	－		
			背後地	1.2m		59	57	－	－	－	－	65	60
				4.2m		60	58	－	－	－	－		
		下り側	近接空間	1.2m	遮音壁の設置（1.0m）	61	59	56	54	-5	-5	70	65
				4.2m		64	62	58	56	-6	-6		
			背後地	1.2m		63	61	58	56	-5	-5	65	60
				4.2m		64	63	59	57	-5	-6		

※時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）である。
※遮音壁の設置高さは、高架部単独の箇所については高欄上の高さ、それ以外は路面からの高さである。

●地点番号：断面-Y4 （高根町村山北割）

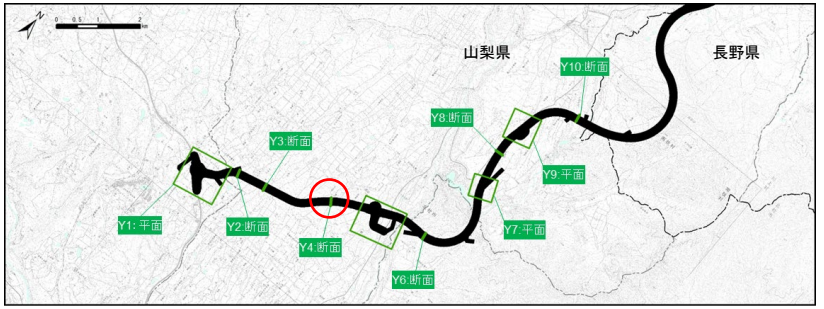


※背後地は敷地境界から20m

凡 例
—— ：遮音壁設置位置

※地点番号：断面-Y4 （高根町村山北割）
・環境保全措置を実施することにより、全ての地点において環境基準を下回る。

●予測検討箇所

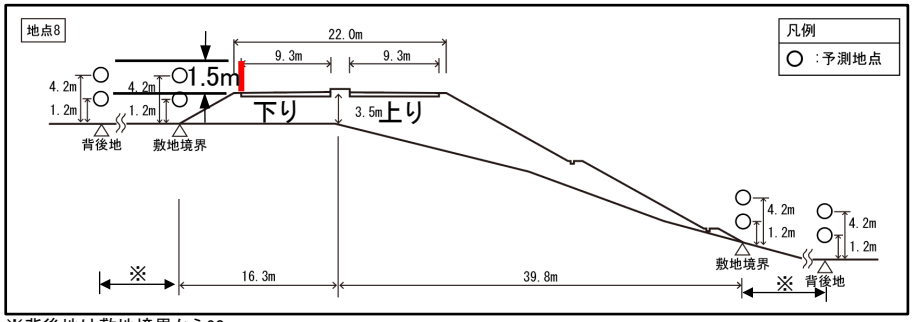


●環境保全措置後の予測結果詳細（断面予測地点：断面-Y8（高根町清里2））

番号	予測地点	予測位置		予測高さ	環境保全措置	予測結果(L_{Aeq}) 保全措置前 昼間	保全措置前 夜間	保全措置後 昼間	保全措置後 夜間	対策効果 昼間	対策効果 夜間	基準又は目標 昼間	基準又は目標 夜間
断面-Y8	高根町清里2	上り側	近接空間	1.2m		58	56	－	－	－	－	70	65
				4.2m		59	57	－	－	－	－		
			背後地	1.2m		56	54	－	－	－	－	65	60
				4.2m		57	55	－	－	－	－		
		下り側	近接空間	1.2m	遮音壁の設置（1.5m）	67	65	59	57	−8	−8	70	65
				4.2m		73	71	65	63	−8	−8		
			背後地	1.2m		66	64	59	57	−7	−7	65	60
				4.2m		69	67	60	58	−9	−9		

※時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）である。
※遮音壁の設置高さは、高架部単独の箇所については高欄上の高さ、それ以外は路面からの高さである。

●地点番号：断面-Y8 （高根町清里2）

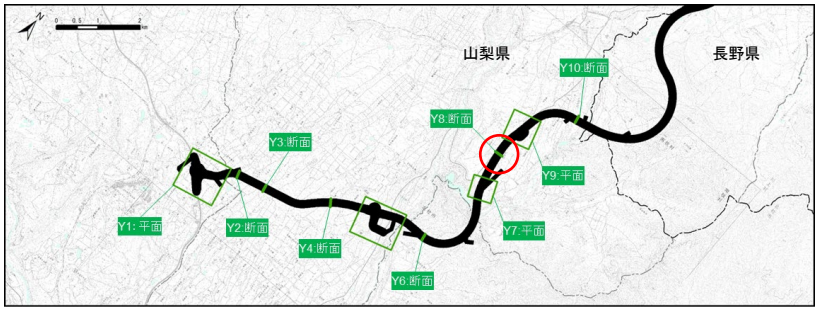


※背後地は敷地境界から20m

凡 例
——：遮音壁設置位置

※地点番号：断面-Y8 （高根町清里2）
・環境保全措置を実施することにより、全ての地点において環境基準を下回る。

●予測検討箇所

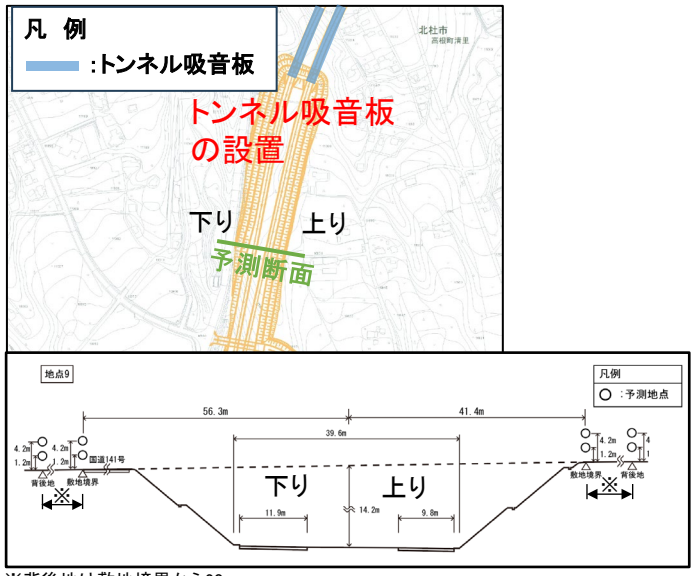


●環境保全措置後の予測結果詳細（平面予測地点：平面-Y9（高根町清里3））

番号	予測地点	予測位置		予測高さ	環境保全措置	予測結果(L_{Aeq}) 保全措置前 昼間	保全措置前 夜間	保全措置後 昼間	保全措置後 夜間	対策効果 昼間	対策効果 夜間	基準又は目標 昼間	基準又は目標 夜間
平面-Y9	高根町清里3	上り側	近接空間	1.2m	トンネル吸音板の設置	67	65	67	65	0	0	70	65
				4.2m		68	66	67	65	−1	−1		
			背後地	1.2m		54	52	53	51	−1	−1	65	60
				4.2m		56	54	55	53	−1	−1		
		下り側	近接空間	1.2m		66	62	66	62	0	0	70	65
				4.2m		65	61	65	61	0	0		
			背後地	1.2m		55	51	55	51	0	0	65	60
				4.2m		57	53	57	53	0	0		

※時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）である。

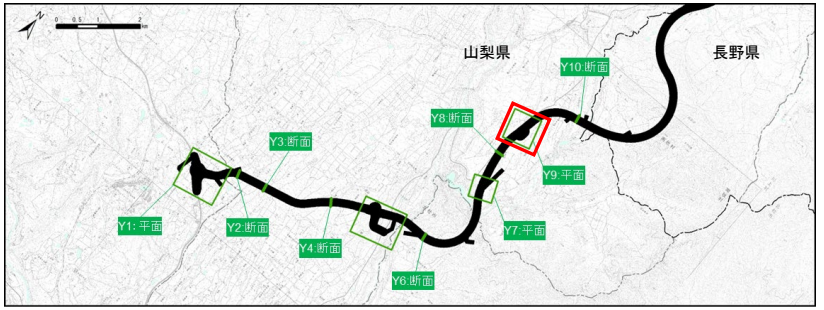
●地点番号：平面-Y9 （高根町清里3）



※背後地は敷地境界から20m

※地点番号：平面-Y9 （高根町清里3）
・環境保全措置を実施することにより、全ての地点において環境基準を下回る。

●予測検討箇所

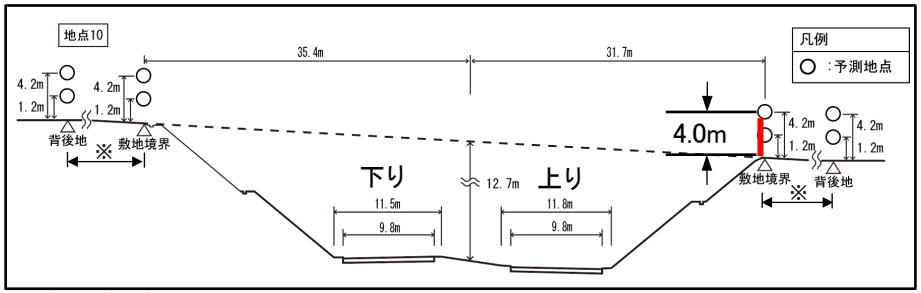


●環境保全措置後の予測結果詳細（断面予測地点：断面-Y10（高根町清里4））

番号	予測地点	予測位置		予測高さ	環境保全措置	予測結果(L_{Aeq}) 保全措置前 昼間	保全措置前 夜間	保全措置後 昼間	保全措置後 夜間	対策効果 昼間	対策効果 夜間	基準又は目標 昼間	基準又は目標 夜間
断面-Y10	高根町清里4	上り側	近接空間	1.2m	遮音壁の設置（4.0m）トンネル吸音板の設置	71	69	46	45	-25	-24	70	65
				4.2m		71	69	60	58	-11	-11		
			背後地	1.2m		67	65	52	50	-15	-15	65	60
				4.2m		67	65	52	50	-15	-15		
		下り側	近接空間	1.2m	トンネル吸音板の設置	69	68	66	64	-3	-4	70	65
				4.2m		69	67	66	64	-3	-3		
			背後地	1.2m		62	61	57	55	-5	-6	65	60
				4.2m		67	65	60	58	-7	-7		

※時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）である。
※遮音壁の設置高さは、高架部単独の箇所については高欄上の高さ、それ以外は路面からの高さである。

●地点番号：断面-Y10 （高根町清里4）

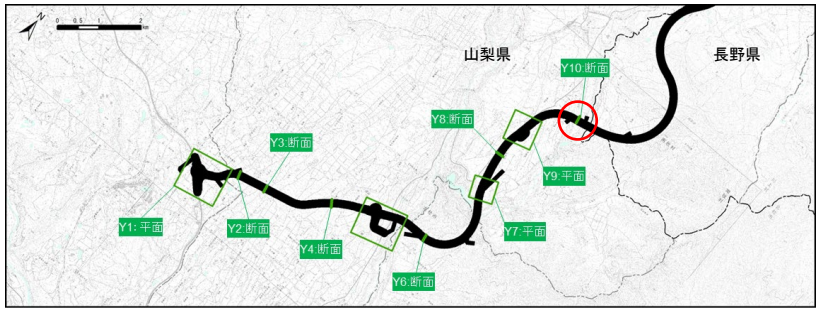


※背後地は敷地境界から20m

凡 例
——：遮音壁設置位置

※地点番号：断面-Y10 （高根町清里4）
・環境保全措置を実施することにより、全ての地点において環境基準を下回る。

●予測検討箇所



騒音現況値及び自動車の走行に係る騒音の予測値（無対策時・対策後）

［単位：dB］

調査番号・予測番号	予測地点	調査高さ	現況値（L_{Aeq}）		予測位置		予測高さ	評価値（L_{Aeq}） 環境保全措置前		評価値（L_{Aeq}） 環境保全措置後		環境基準	
			昼間	夜間				昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
SY-1・平面-1	長坂町大八田	1.2m	47	45	下り側	近接空間	1.2m	60	60	－	－	70	65
							4.2m	60	60	－	－		
						背後地	1.2m	59	58	－	－	65	60
							4.2m	59	58	－	－		
RY2・断面-2	大泉町西井出1	1.2m	62	53	上り側	近接空間	1.2m	61	60	57	55	70	65
							4.2m	64	62	58	56		
		4.2m	61	53		背後地	1.2m	62	60	57	55	65	60
							4.2m	63	61	57	56		
		1.2m	62	53	下り側	近接空間	1.2m	61	59	56	54	70	65
							4.2m	66	64	59	57		
		4.2m	61	53		背後地	1.2m	65	63	59	57	65	60
							4.2m	68	66	60	59		
RY-3・断面-3	大泉町西井出2	1.2m	66	56	上り側	近接空間	1.2m	57	56	－	－	70	65
							4.2m	57	56	－	－		
		4.2m	65	56		背後地	1.2m	57	55	－	－	65	60
							4.2m	57	56	－	－		
		1.2m	66	56	下り側	近接空間	1.2m	57	56	－	－	70	65
							4.2m	58	57	－	－		
		4.2m	65	56		背後地	1.2m	59	57	－	－	65	60
							4.2m	59	58	－	－		
RY-4・断面-4	高根町村山北割	1.2m	62	52	上り側	近接空間	1.2m	59	57	－	－	70	65
							4.2m	60	58	－	－		
		4.2m	60	51		背後地	1.2m	59	57	－	－	65	60
							4.2m	60	58	－	－		
		1.2m	62	52	下り側	近接空間	1.2m	61	59	56	54	70	65
							4.2m	64	62	58	56		
		4.2m	60	51		背後地	1.2m	63	61	58	56	65	60
							4.2m	64	63	59	57		
RY-5・平面-5	高根町堤	1.2m	69	64	上り側	近接空間	1.2m	55	54	－	－	70	65
							4.2m	56	54	－	－		
		4.2m	65	61		背後地	1.2m	53	52	－	－	65	60
							4.2m	53	52	－	－		
		1.2m	69	64	下り側	近接空間	1.2m	59	58	－	－	70	65
							4.2m	60	59	－	－		
		4.2m	65	61		背後地	1.2m	60	58	－	－	65	60
							4.2m	60	59	－	－		

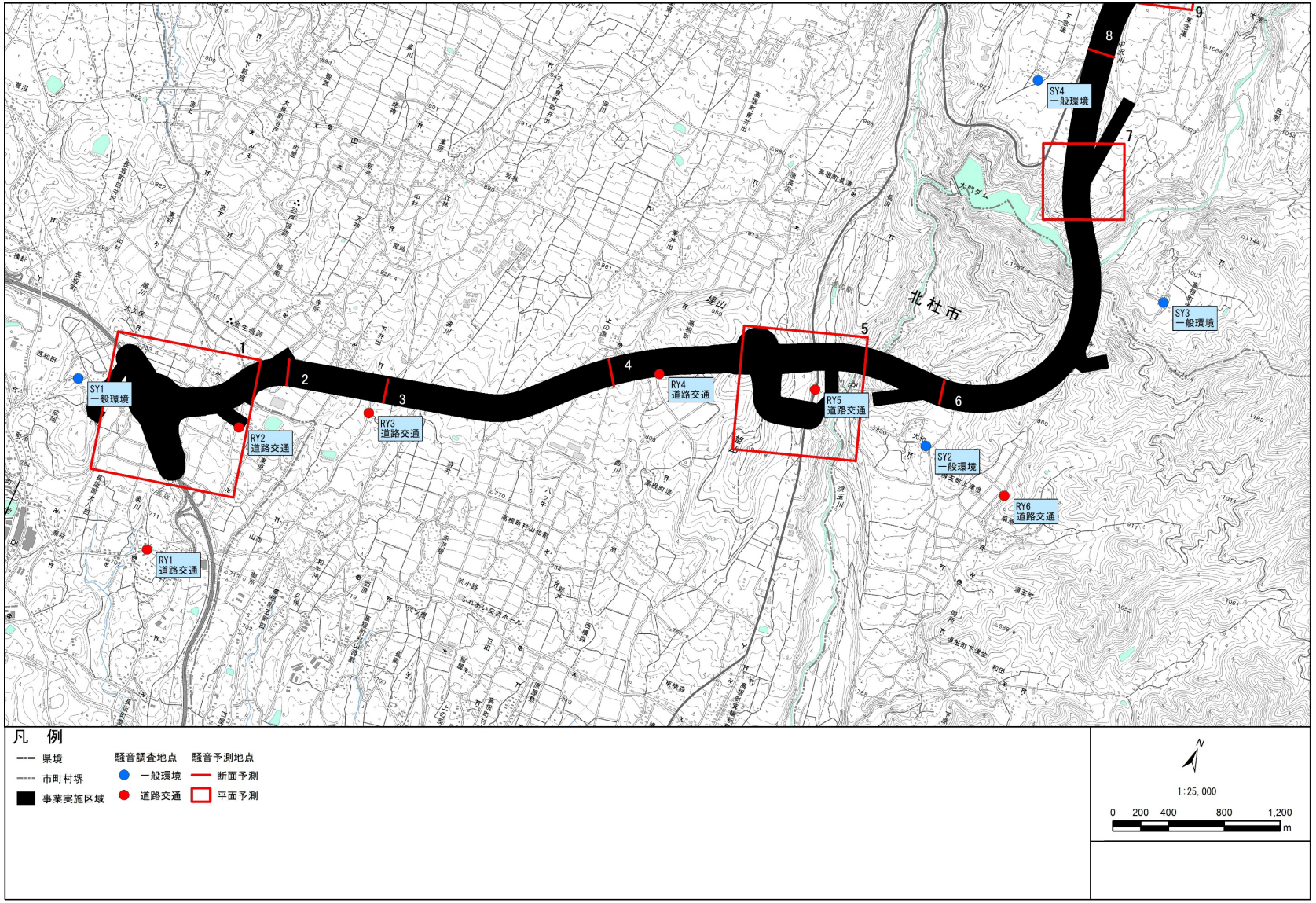
注1）時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）である。
注2）環境基準は、「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月30日環境庁告示第64号、最終改正：平成24年3月30日環境省告示第54号）の環境基準である。
注3）環境基準の値は「以下」を示す。
注4）騒音に係る環境基準の地域指定がなされていない地点については、現況の土地利用状況等を勘案して「地域の区分B」を想定した。
注5）現況値の値は一般環境騒音及び道路交通騒音の調査地点で、最も予測地点に近い調査地点の調査結果である。
注6）網掛け部分は、環境基準の超過を示す。
注7）環境保全措置の－は、環境保全措置を実施していないため、環境保全措置後の数値を記載していない。

［単位：dB］

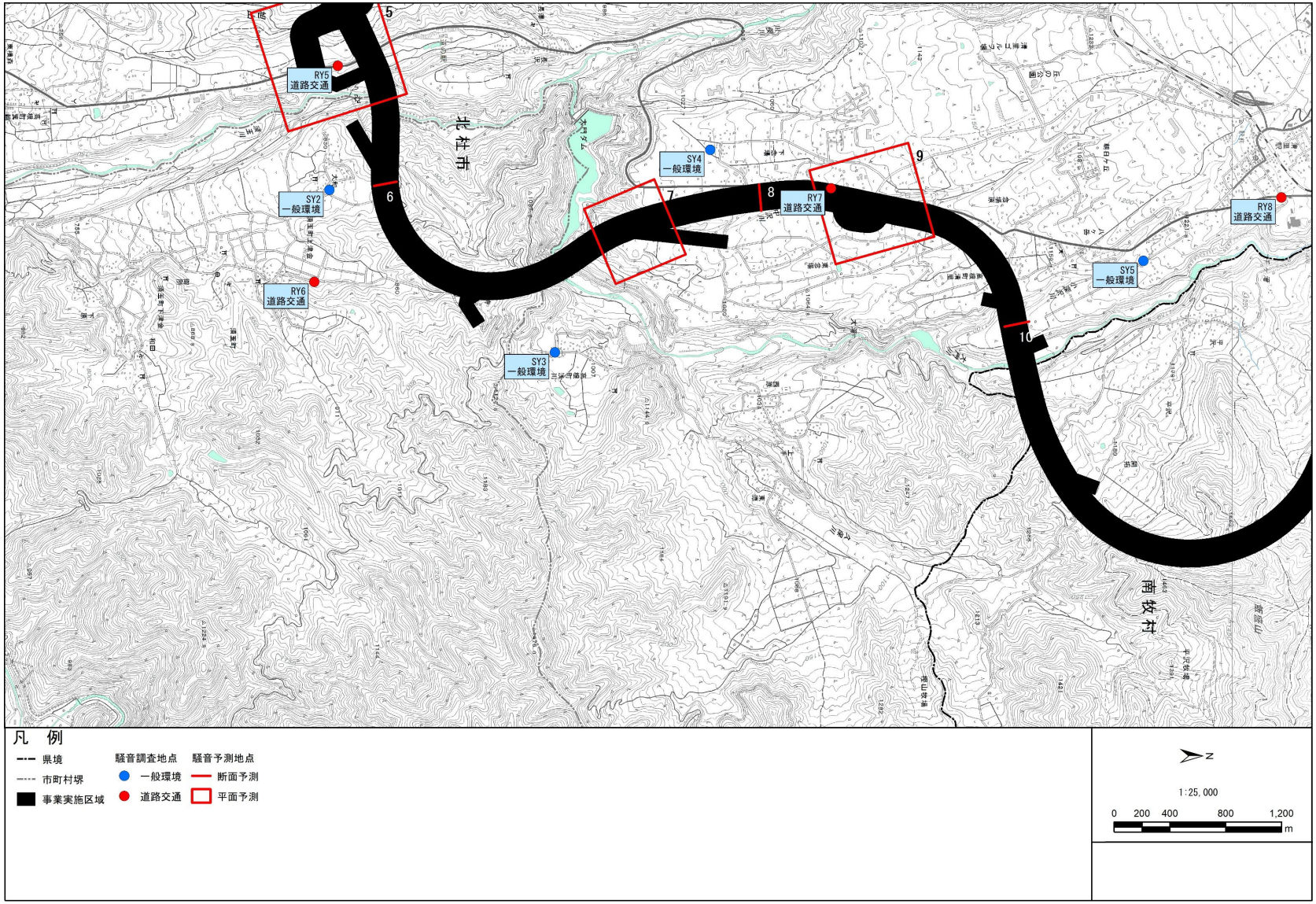
調査番号・予測番号	予測地点	調査高さ	現況値（L_{Aeq}）		予測位置		予測高さ	評価値（L_{Aeq}） 環境保全措置前		評価値（L_{Aeq}） 環境保全措置後		環境基準	
			昼間	夜間				昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
SY-2・断面-6	須玉町上津金	1.2m	44	43	上り側	近接空間	1.2m	48	47	－	－	70	65
							4.2m	48	47	－	－		
						背後地	1.2m	48	47	－	－	65	60
							4.2m	48	47	－	－		
		1.2m	44	43	下り側	近接空間	1.2m	48	47	－	－	70	65
							4.2m	48	47	－	－		
						背後地	1.2m	49	48	－	－	65	60
							4.2m	49	48	－	－		
SY-4・平面-7	高根町清里1	1.2m	44	44	上り側	近接空間	1.2m	53	51	－	－	70	65
							4.2m	53	51	－	－		
						背後地	1.2m	53	51	－	－	65	60
							4.2m	53	51	－	－		
		1.2m	44	44	下り側	近接空間	1.2m	55	53	－	－	70	65
							4.2m	55	53	－	－		
						背後地	1.2m	58	56	－	－	65	60
							4.2m	58	56	－	－		
RY-7・断面-8	高根町清里2	1.2m	68	63	上り側	近接空間	1.2m	58	56	－	－	70	65
							4.2m	59	57	－	－		
		4.2m	68	63		背後地	1.2m	56	54	－	－	65	60
							4.2m	57	55	－	－		
		1.2m	68	63	下り側	近接空間	1.2m	67	65	59	57	70	65
							4.2m	73	71	65	63		
		4.2m	68	63		背後地	1.2m	66	64	59	57	65	60
							4.2m	69	67	60	58		
RY-7・平面-9	高根町清里3	1.2m	68	63	上り側	近接空間	1.2m	67	65	67	65	70	65
							4.2m	68	66	67	65		
		4.2m	68	63		背後地	1.2m	54	52	53	51	65	60
							4.2m	56	54	55	53		
		1.2m	68	63	下り側	近接空間	1.2m	66	62	66	62	70	65
							4.2m	65	61	65	61		
		4.2m	68	63		背後地	1.2m	55	51	55	51	65	60
							4.2m	57	53	57	53		
SY-5・断面-10	高根町清里4	1.2m	46	44	上り側	近接空間	1.2m	71	69	46	45	70	65
							4.2m	71	69	60	58		
						背後地	1.2m	67	65	52	50	65	60
							4.2m	67	65	52	50		
		1.2m	46	44	下り側	近接空間	1.2m	69	68	66	64	70	65
							4.2m	69	67	66	64		
						背後地	1.2m	62	61	57	55	65	60
							4.2m	67	65	60	58		

注1）時間区分は、昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）である。
注2）環境基準は、「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月30日環境庁告示第64号、最終改正：平成24年3月30日環境省告示第54号）の環境基準である。
注3）環境基準の値は「以下」を示す。
注4）騒音に係る環境基準の地域指定がなされていない地点については、現況の土地利用状況等を勘案して「地域の区分B」を想定した。
注5）現況値の値は一般環境騒音及び道路交通騒音の調査地点で、最も予測地点に近い調査地点の調査結果である。
注6）網掛け部分は、環境基準の超過を示す。
注7）環境保全措置の－は、環境保全措置を実施していないため、環境保全措置後の数値を記載していない。

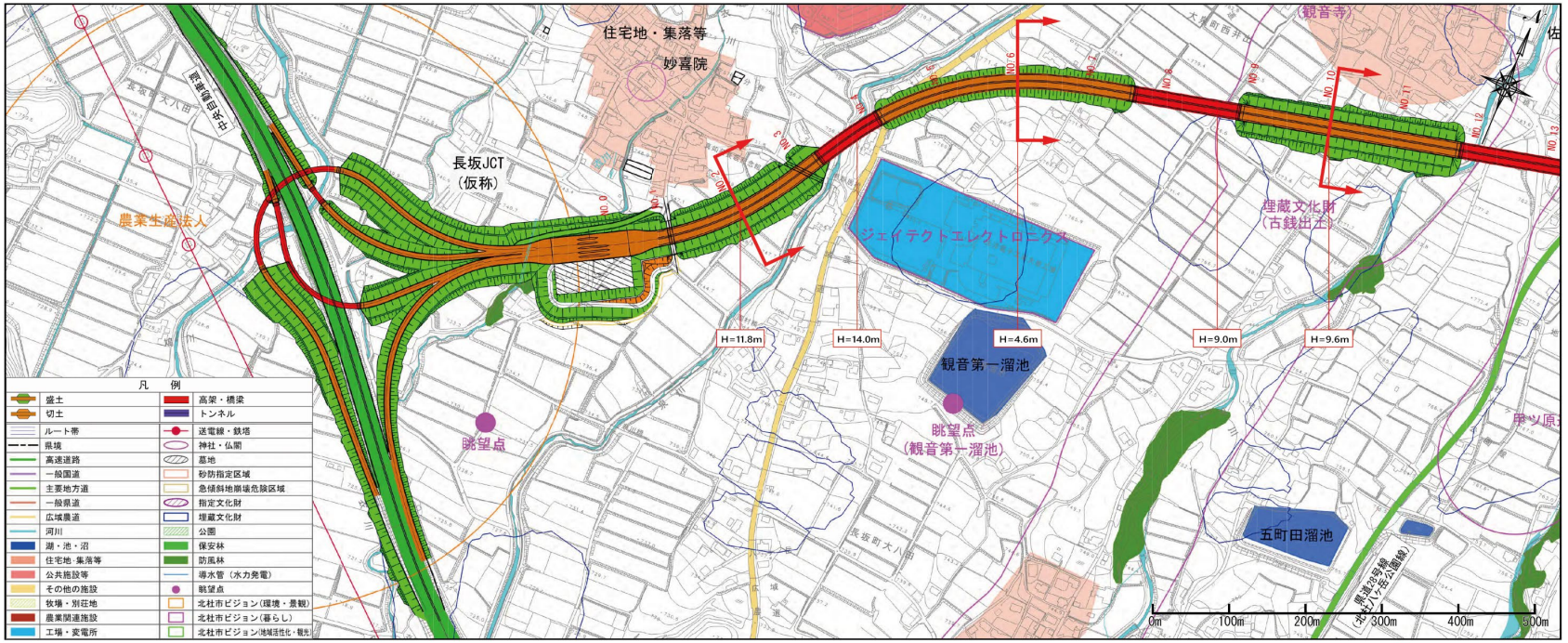
現況騒音調査地点及び騒音予測地点（1／2）



現況騒音調査地点及び騒音予測地点（2／2）



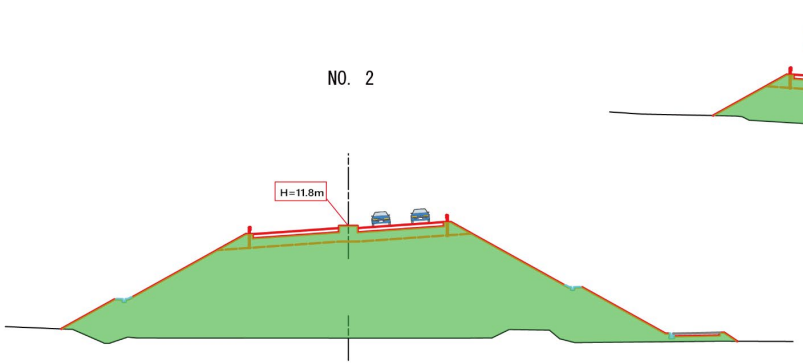
補足説明資料5（意見No.20：参考設計と地上高さ図）

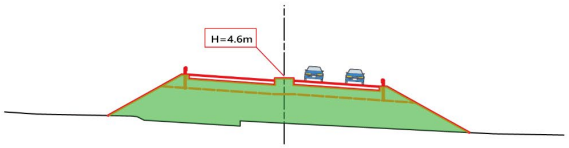


：横断図の表示箇所

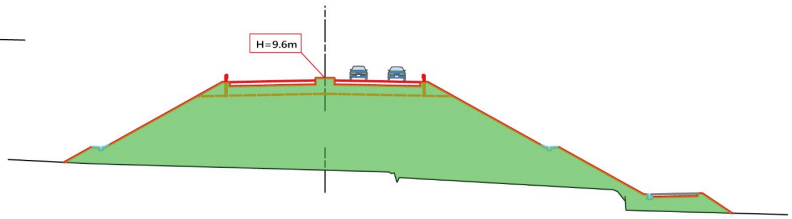
NO. 6

NO. 2



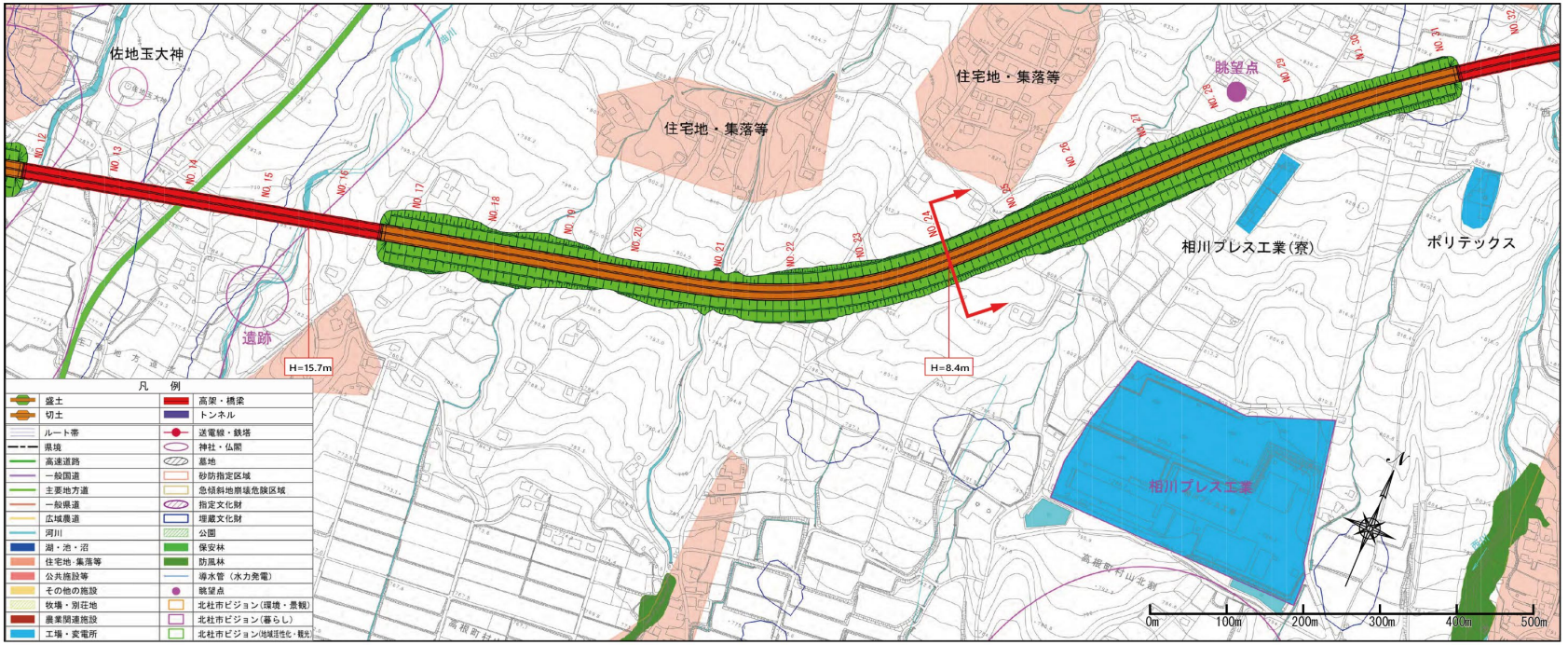


NO. 10



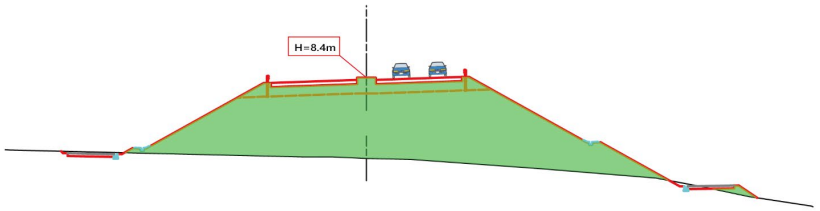
高さ 1.5m

補足説明資料5（意見No.20：参考設計と地上高さ図）



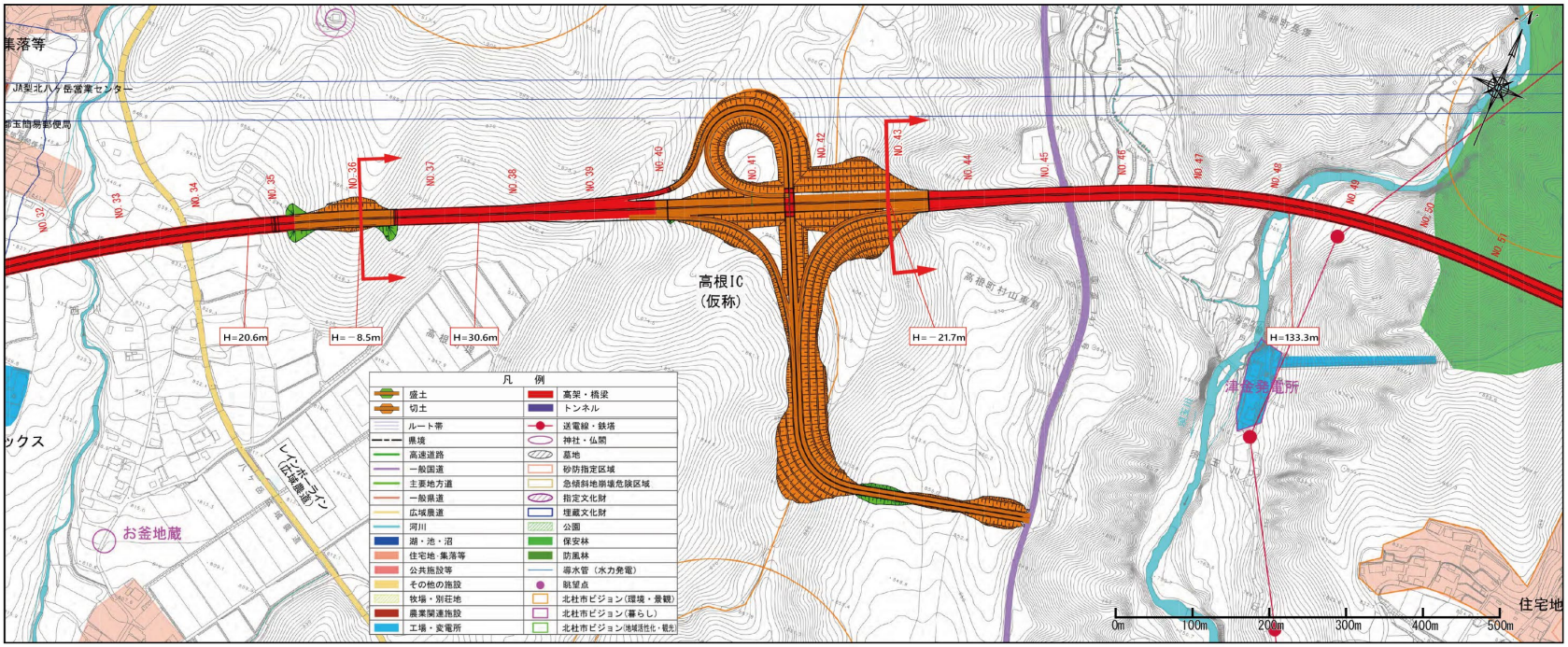
：横断図の表示箇所

NO. 24

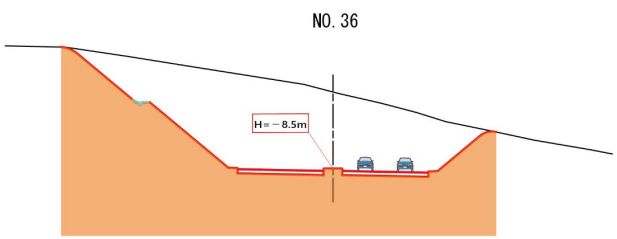


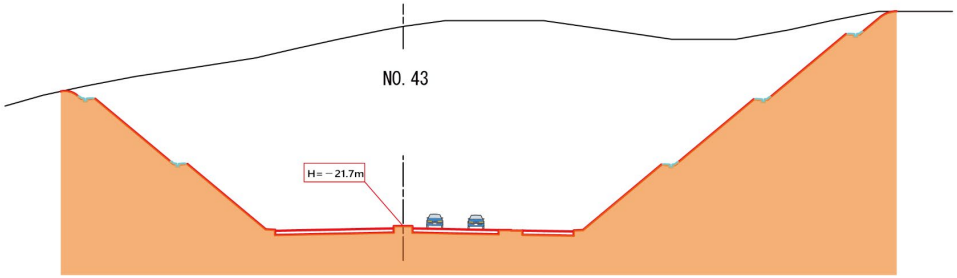
高さ 1.5m

補足説明資料5（意見No.20：参考設計と地上高さ図）



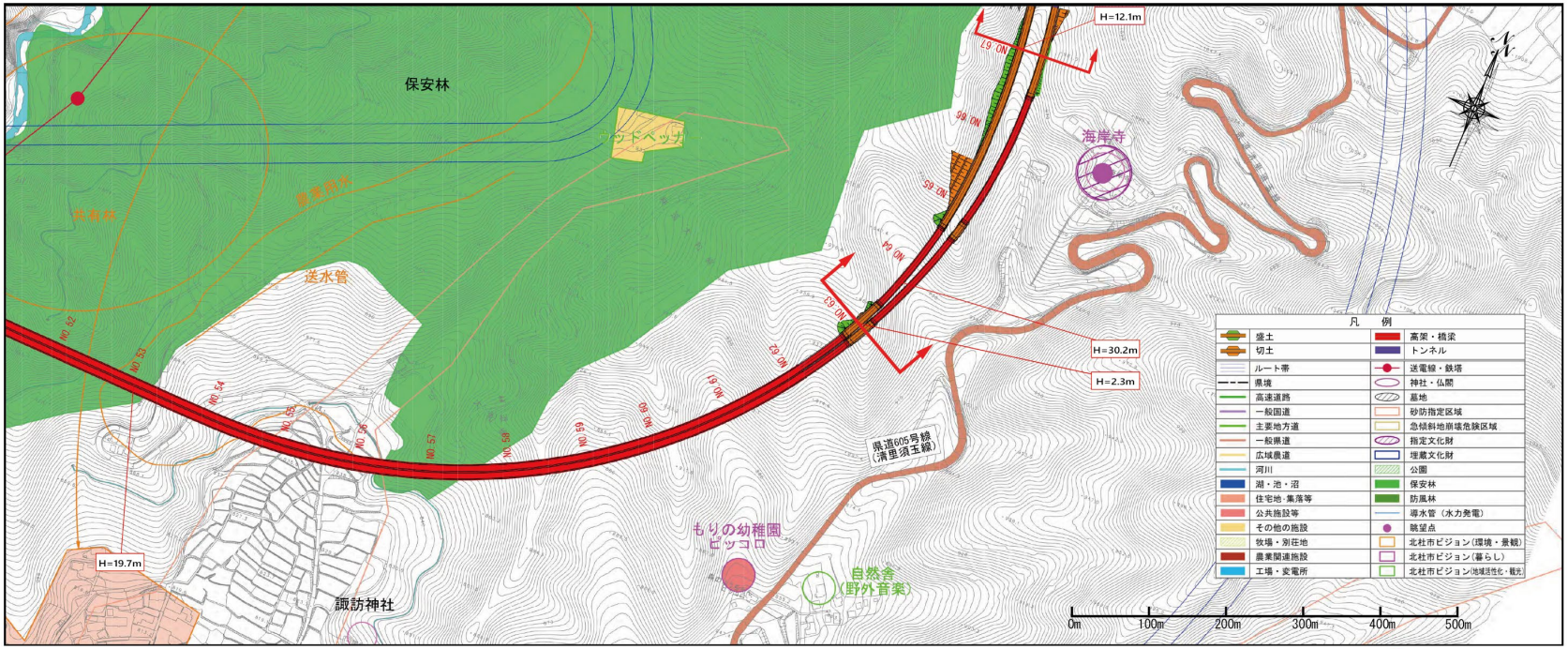
：横断図の表示箇所





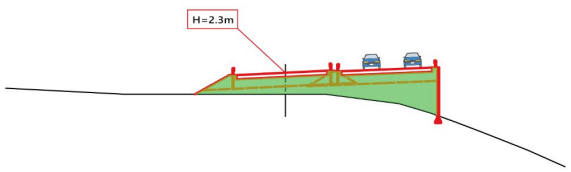
高さ 1.5m

補足説明資料5（意見No.20：参考設計と地上高さ図）

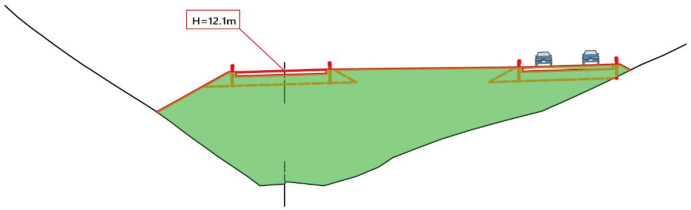


：横断図の表示箇所

NO. 63

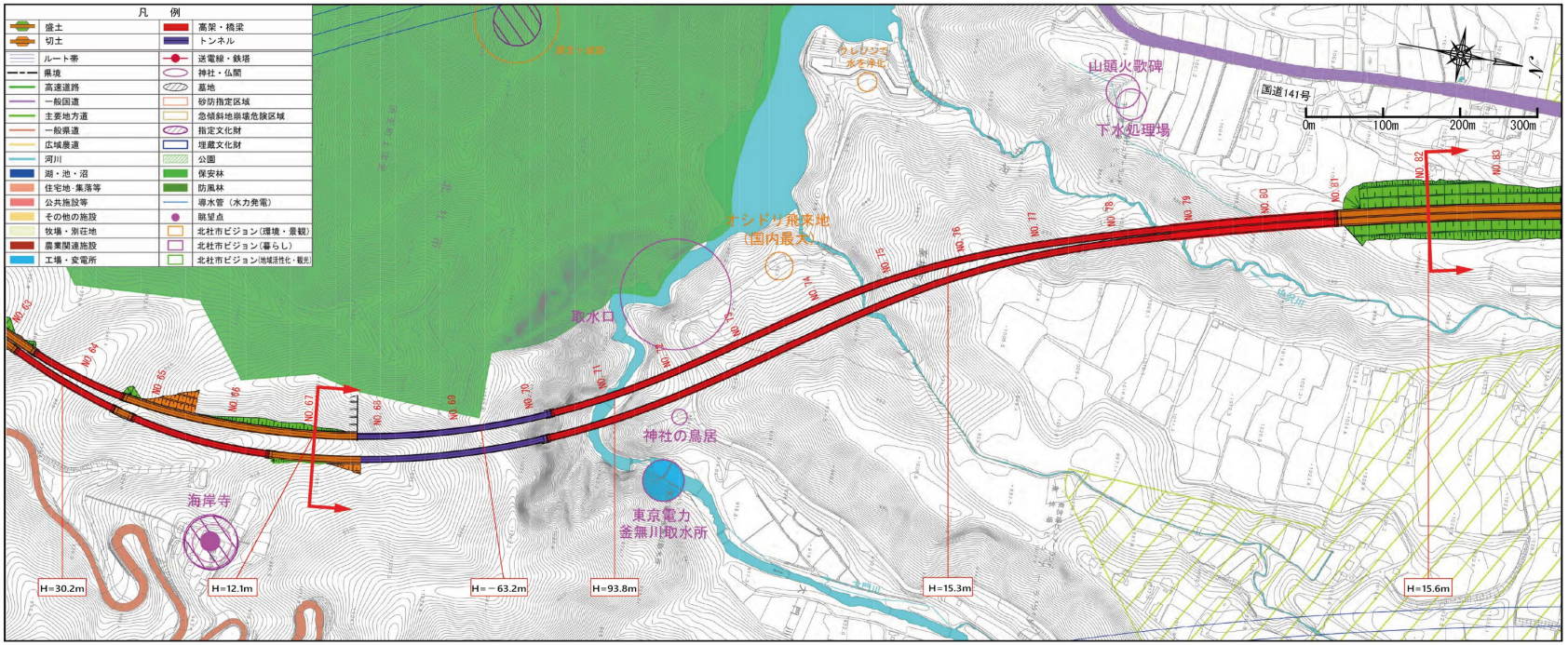


NO. 67



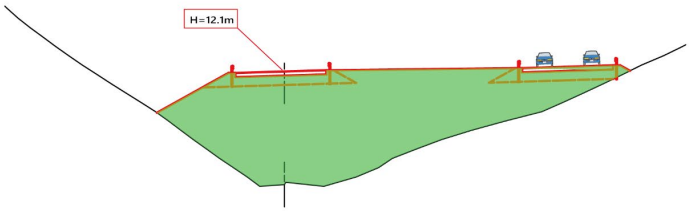
高さ 1.5m

補足説明資料5（意見No.20：参考設計と地上高さ図）



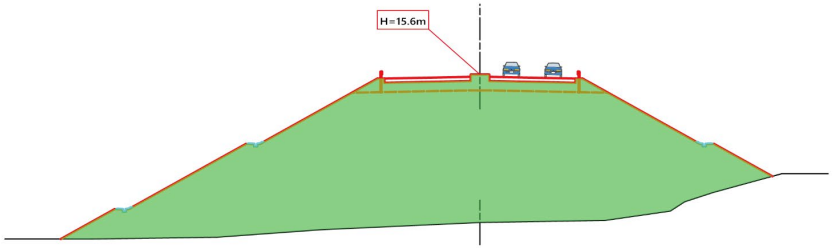
：横断図の表示箇所

NO. 67



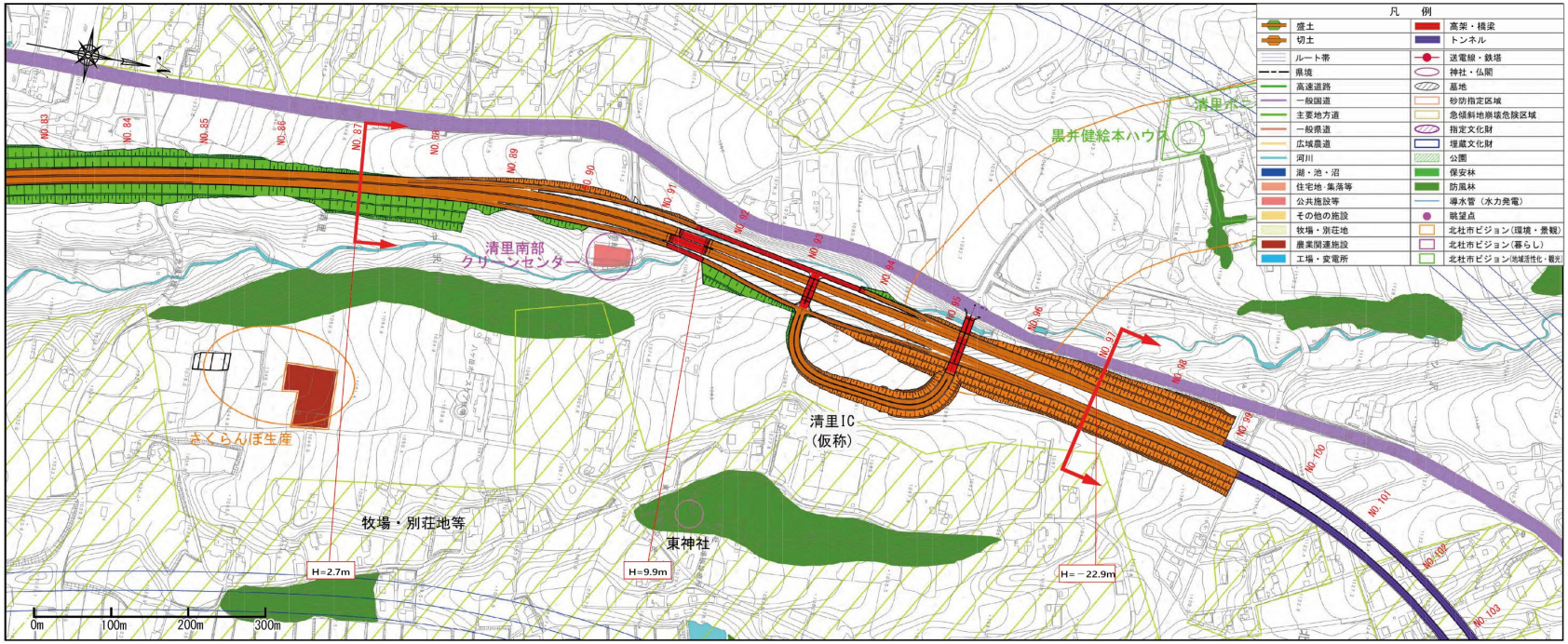
（再掲）

NO. 82

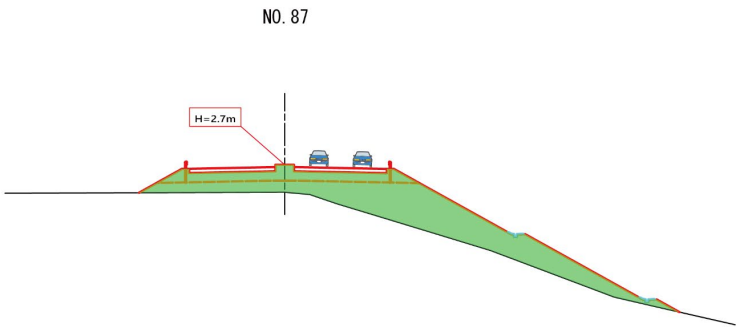


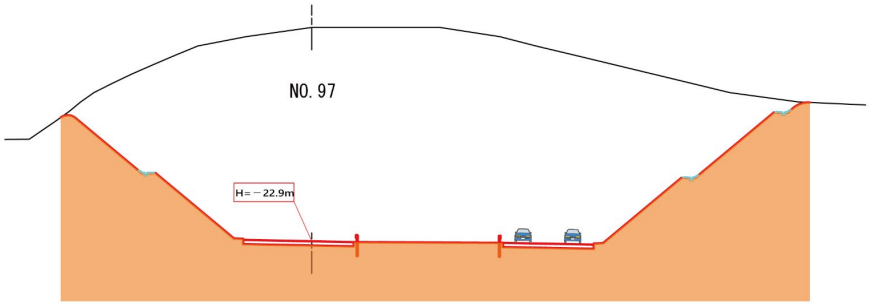
高さ 1.5m

補足説明資料5（意見No.20：参考設計と地上高さ図）



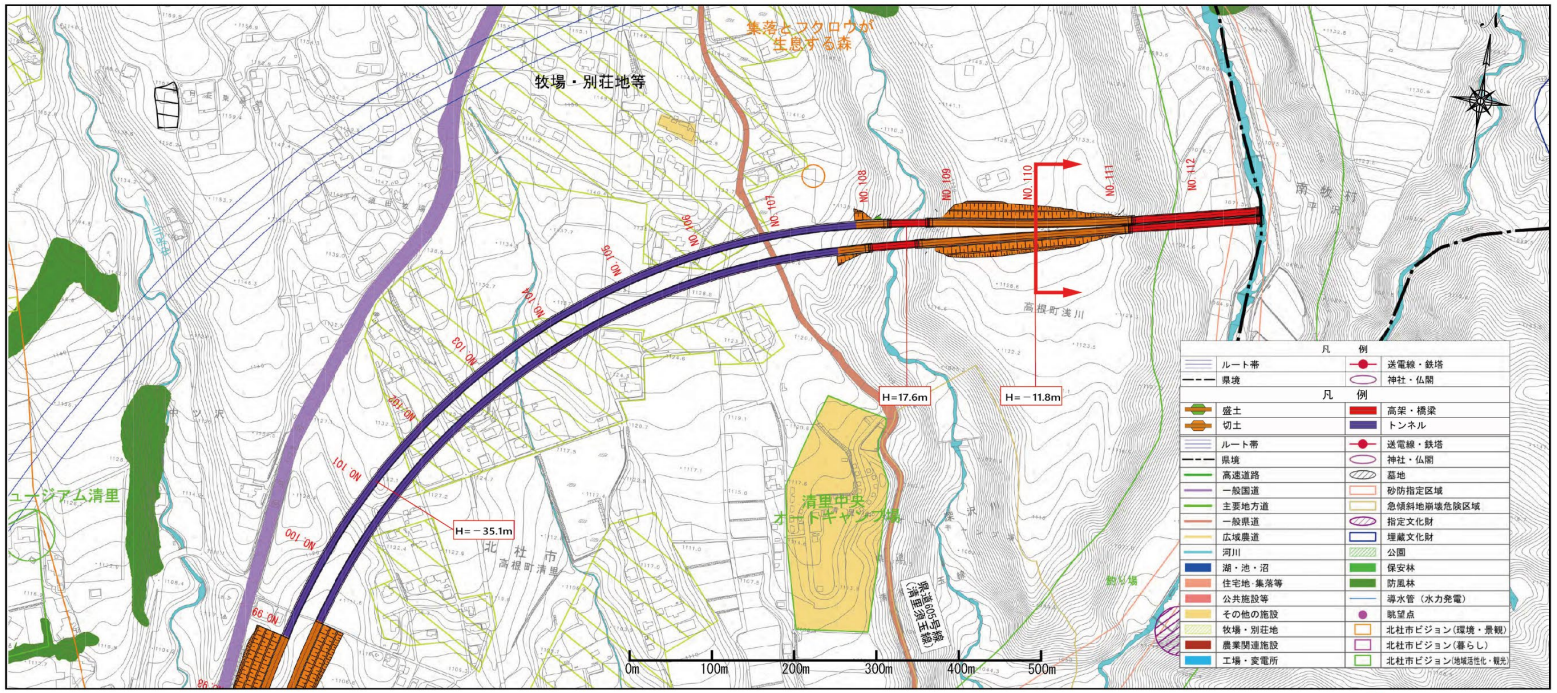
：横断図の表示箇所



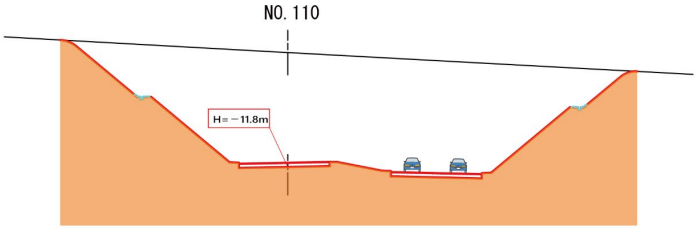


高さ 1.5m

補足説明資料5（意見No.20：参考設計と地上高さ図）



：横断図の表示箇所



高さ1.5m

補足説明資料6（意見No.27：準備書資料編の調査結果一覧表に調査時期を記載した資料）

- 資料編の項目別の確認種一覧の調査時期については、表の下に季別の具体的な調査日を記載しました。
- さらに具体的な調査方法別の調査日については、準備書本編での掲載ページを記載しました。
- ここでは爬虫類を例示し、他の分類群については、【別冊1】にまとめました。

表7.1-4 爬虫類 確認種一覧

番号	目名	科名	種名	学名	確認状況(季別)※3			
					冬季	春季	夏季	秋季
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	*Plestiodon finitimus*		●	●	●
2		カナヘビ	ニホンカナヘビ	*Takydromus tachydromoides*		●	●	●
3		ナミヘビ	アオダイショウ	*Elaphe climacophora*		●	●	●
4			シマヘビ	*Elaphe quadrivirgata*		●	●	●
5			ジムグリ	*Euprepiophis conspicillatus*		●	●	●
6			シロマダラ	*Lycodon orientalis*			●	●
7			ヒバカリ	*Hebius vibakari vibakari*		●	●	●
8			ヤマカガシ	*Rhabdophis tigrinus*		●	●	●
9		クサリヘビ	ニホンマムシ	*Gloydius blomhoffii*			●	●
1目4科9種					0	7	9	9

※1：種名、配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査（(公)リバーフロント研究所　令和6年）」に準拠した。

※2：冬季：令和3年1月25日～29日
春季：令和3年5月24日～28日
夏季：令和3年7月19日～21日、8月3日～4日
秋季：令和3年9月13日～17日

※3：調査方法別の詳細な調査時期一覧表は、準備書p11.10.1-57に掲載

補足説明資料7（意見No.29：改変割合一覧表）

主な生息環境に対する改変面積の割合（動物）

- 準備書では、種別の各ページの予測結果に生息環境等の改変率を記載していましたが、1箇所にまとめました。
- 【別冊2】には、主な生息環境等の情報を加えたものを示します。

哺乳類

	種名	改変割合	生息環境への影響
1	カワネズミ	2.38%	C
2	コキクガシラコウモリ（ニホンコキクガシラコウモリ）	3.82%	C
3	キクガシラコウモリ	3.82%	C
4	ヒメホオヒゲコウモリ	3.82%	C
5	モモジロコウモリ	3.82%	C
6	ノレンコウモリ	3.82%	C
7	ヒナコウモリ	3.82%	C
8	ニホンウサギコウモリ	3.82%	C
9	コテングコウモリ	3.82%	C
10	テングコウモリ	3.82%	C
11	ヒナコウモリ科②	3.82%	C
12	ノウサギ	3.59%	C
13	ニホンリス	3.82%	C
14	ムササビ	3.82%	C
15	ヤマネ	3.82%	B
16	ハタネズミ	3.19%	C
17	カヤネズミ	4.46%	C
18	ツキノワグマ	3.82%	C
19	ニホンイタチ	2.38%	C
20	カモシカ	3.82%	C

両生類・爬虫類

	種名	改変割合	生息環境への影響
1	ナガレタゴガエル	2.88%	C
2	トノサマガエル	4.28%	C
3	シマヘビ	3.97%	C
4	シロマダラ	3.12%	C

鳥類

	種名	改変割合	生息環境への影響
1	オシドリ	0.28% 2.38%	C
2	トモエガモ	0.28%	C
3	ミゾゴイ	3.82%	C
4	チュウサギ	4.34%	C
5	ハリオアマツバメ	3.82%	C
6	ケリ	4.59%	C
7	アオシギ	2.85% 2.38%	C
8	ミサゴ	0.28%	C
9	ハチクマ	3.82%	B
10	ツミ	3.82%	B
11	ハイタカ	3.82%	C
12	オオタカ	3.82%	B
13	サシバ	3.97%	C
14	イヌワシ	3.82%	C
15	クマタカ	3.82%	C
16	オオコノハズク	3.82%	C
17	フクロウ	3.42%	B
18	ハヤブサ	3.82%	C
19	サンショウクイ	3.82%	C
20	サンコウチョウ	3.82%	C
21	オオムシクイ	3.82%	C
22	キレンジャク	3.53%	C
23	ヒレンジャク	3.53%	C
24	キバシリ	3.82%	C
25	トラツグミ	3.82%	C
26	イスカ	5.25%	C
27	ミヤマホオジロ	3.42%	C
28	ノジコ	2.85%	C
29	クロジ	3.82%	C

昆虫類

	種名	改変割合	生息環境への影響
1	アオハダトンボ	2.38%	C
2	オジロサナエ	2.38%	C
3	オオトラフトンボ	4.28%	C
4	チョウトンボ	0.28%	C
5	ホッケミズムシ	0.28%	C
6	コオイムシ	4.34%	C
7	ギンボシツツトビケラ	2.38%	C
8	ヤホシホソマダラ	4.46%	C
9	オオチャバネセセリ	4.77%	C
10	スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種	4.77%	C
11	カラスシジミ	2.85%	C
12	ウラギンスジヒョウモン	4.77%	C
13	オオムラサキ	2.85%	C
14	ヒメギフチョウ本州亜種	2.85%	C
15	オナガミズアオ本土亜種	2.85%	C
16	ヒメシロシタバ	2.85%	C
17	チョウセンゴモクムシ	4.77%	C
18	ゲンゴロウ	4.34%	C
19	シマゲンゴロウ	4.34%	C
20	ケシゲンゴロウ	4.34%	C
21	カワラゴミムシ	2.38%	C
22	コガムシ	4.34%	C
23	ガムシ	4.34%	C
24	コガタガムシ	4.34%	C
25	ヤマトモンシデムシ	2.49%	C
26	ゴホンダイコクコガネ	2.36%	C
27	ケスジドロムシ	2.38%	C
28	アカアシオオアオカミキリ	2.85%	C
29	ミズバチ	2.38%	C
31	トゲアリ	2.85%	C
32	クロマルハナバチ	3.48%	C
33	ナミルリモンハナバチ	4.77%	C

魚類

	種名	改変割合	生息環境への影響
1	ドジョウ	4.34% 2.38%	C
2	ニッコウイワナ	2.38%	C
3	アメマス類	2.38%	C
4	サツキマス（アマゴ）	2.38%	C
5	カジカ	2.38%	C

底生動物

	種名	改変割合	生息環境への影響
1	マルタニシ	4.34%	C
2	ヒラマキガイモドキ	4.34%	C

注）陸域と河川域の両方に主な生息環境を持つ種については、改変割合を2段で示した
注）生息環境への影響の記号が示す意味は以下のとおり
A：生育環境は保全されない　B：生育環境は保全されない可能性がある
C：生育環境は保全される　D：生育環境に変化は生じない

主な生育環境に対する改変面積の割合（植物）

- 準備書では、種別の各ページの予測結果に生息環境等の改変率を記載していましたが、1箇所にまとめました。
- 【別冊2】には、主な生息環境等の情報を加えたものを示します。

植物				
	種名	改変・変化の割合		予測結果
		改変される生育環境	質的変化を受ける生育環境	
1	ヒロハハナヤスリ	0%	0%	D
2	サンショウモ	0%	0%	D
3	コガネシダ	0%	1.5%	C
4	コモチシダ	0%	0%	D
5	カラクサシダ	0%	0%	D
6	オシャグジデンダ	0%	0%	D
7	ヘラオモダカ	29.5%	5.3%	B
8	ホソバノアマナ	0%	100%	A
9	ギンラン	8.7%	0%	C
10	オニノヤガラ	0%	0%	D
11	シロテンマ	0%	0%	D
12	ノビネチドリ	0%	0%	D
13	オオヤマサギソウ	0%	0%	D
14	ヒトツボクロ	0%	25.7%	C
15	アサツキ	0%	0%	D
16	ナガミノツルケマン	0%	0.5%	C
17	アズマイチゲ	0%	5.9%	C
18	ヤマシャクヤク	0%	0%	D
19	ボタン属	0%	13.3%	C
20	コガネネコノメソウ	0%	0%	D

植物				
	種名	改変・変化の割合		予測結果
		改変される生育環境	質的変化を受ける生育環境	
21	アリノトウグサ	0%	0%	D
22	アオナシ	0%	0%	D
23	サナギイチゴ	0.3%	0%	C
24	ハンノキ	0%	50%	A
25	ヤエガワカンバ	0.9%	0%	C
26	ハシバミ	0%	2.3%	C
27	ミズマツバ	0%	0%	D
28	ヒシ	0%	0%	D
29	ウスゲチョウジタデ	0%	0%	D
30	カラコギカエデ	0%	0%	D
31	クリンソウ	0%	0.1%	C
32	サクラソウ	23.5%	39.2%	A
33	センブリ	9.6%	20.2%	C
34	ヒキヨモギ	0%	0%	D
35	バアソブ	0%	100%	A
36	キキョウ	0%	0%	D
37	タウコギ	1.4%	18.2%	C
38	タカアザミ	0%	0%	D
39	清里のザゼンソウ群落	0%	0%	D
40	清里のカラコギカエデ	0%	0%	D

注）予測結果の記号が示す意味は以下のとおり
A：生育環境は保全されない　B：生育環境は保全されない可能性がある
C：生育環境は保全される　　D：生育環境に変化は生じない

補足説明資料7（意見No.29：改変割合一覧表）

主な生育・生息基盤に対する改変面積の割合（生態系）

- 準備書では、種別の各ページの予測結果に生息環境等の改変率を記載していましたが、1箇所にまとめました。
- 【別冊2】には、主な生息環境等の情報を加えたものを示します。

水田耕作地生態系

	種名・名称	改変割合	予測結果
1	キツネ	4.47%	C
2	オオタカ	0.88%	C
3	大型哺乳類(ニホンジカ)	2.50%	C
4	雑食性中型哺乳類(タヌキ)	2.50%	C
5	山地・山里の鳥類群集(ホオジロ)	2.92%	C
6	山地・山里の鳥類群集(エナガ)	0.88%	C
7	山地・山里の鳥類(アオゲラ、アカゲラ)	0.88%	C
8	水田のカエル類(トノサマガエル)	5.83%	C
9	地域を代表する昆虫類(ゲンジボタル、ヘイケボタル)	5.88%	C
10	耕作地・里山を代表する昆虫類(止水性トンボ類)	5.88%	C
11	訪花性ハチ類（ニホンミツバチ、トラマルハナバチ本土亜種）	4.56%	C
12	自然布の素材 (アカソ、クズ、カラムシ)	0.00%	C
13	かごづくりの素材(アオツヅラフジ、ヤマブドウ、アケビ)	40.00%	C
14	染色の色材(アカネ、ヤシャブシ、ヌルデ、ヨモギ、キハダ)	22.22%	C
15	水生甲虫類が生息するため池群(ゲンゴロウ、ガムシ)	0.00%	C

須玉川里山生態系

	種名・名称	改変割合	予測結果
1	キツネ	3.54%	C
2	オオタカ	4.05%	C
3	大型哺乳類(ニホンジカ)	3.95%	C
4	アメマス類(ヤマトイワナ、ニッコウイワナ)	0.39%	C
5	大型哺乳類(ニホンジカ)	3.84%	C
6	雑食性中型哺乳類(タヌキ)	3.84%	C
7	樹上性小型哺乳類(ニホンリス)	3.92%	C
8	山地・山里の鳥類群集(ホオジロ)	2.90%	C
9	山地・山里の鳥類群集(エナガ)	4.05%	C
10	山地・山里の鳥類 (アオゲラ、アカゲラ)	4.05%	C
11	水田のカエル類(トノサマガエル)	0.75%	C
12	地域を代表する昆虫類 (ゲンジボタルヘイケボタル)	0.06%	C
13	耕作地・里山を代表する昆虫類 (止水性トンボ類)	0.06%	C
14	訪花性ハチ類（ニホンミツバチ、トラマルハナバチ本土亜種）	2.32%	C
15	自然布の素材(ヤママユ本土亜種、ウスタビガ本土亜種)	2.58%	C
16	自然布の素材 (アカソ、クズ、カラムシ)	5.90%	C
17	かごづくりの素材(アオツヅラフジ、ヤマブドウ、アケビ)	10.00%	C
18	染色の色材(アカネ、ヤシャブシ、ヌルデ、ヨモギ、キハダ)	3.80%	C

清里高原生態系

	種名・名称	改変割合	予測結果
1	キツネ	4.28%	C
2	フクロウ	4.46%	B
3	大型哺乳類(ニホンジカ)	4.28%	C
4	雑食性中型哺乳類(タヌキ)	4.28%	C
5	山地・山里の鳥類群集(ホオジロ)	1.65%	C
6	山地・山里の鳥類群集(エナガ)	6.00%	C
7	山地・山里の鳥類(アオゲラ、アカゲラ)	6.00%	C
8	訪花性ハチ類（ニホンミツバチ、トラマルハナバチ本土亜種）	3.42%	C
9	自然布の素材(ヤママユ本土亜種、ウスタビガ本土亜種)	5.13%	C
10	自然布の素材 (アカソ、クズ、カラムシ)	0.00%	D
11	かごづくりの素材(アオツヅラフジ、ヤマブドウ、アケビ)	0.00%	C
12	染色の色材(アカネ、ヤシャブシ、ヌルデ、ヨモギ、キハダ)	0.00%	D
13	水生甲虫類が生息するため池群(ゲンゴロウ、ガムシ)	0.00%	C

飯盛山生態系

	種名・名称	改変割合	予測結果
1	キツネ	0.47%	C
2	フクロウ	0.52%	C
3	アメマス類(ヤマトイワナ、ニッコウイワナ)	0.00%	C
4	大型哺乳類(ニホンジカ)	0.47%	C
5	雑食性中型哺乳類(タヌキ)	0.47%	C
6	樹上性小型哺乳類(ニホンリス)	0.21%	C
7	山地・山里の鳥類群集(ホオジロ)	1.64%	C
8	山地・山里の鳥類群集(エナガ)	0.24%	C
9	山地・山里の鳥類 (アオゲラ、アカゲラ)	0.24%	C
10	耕作地・里山を代表する昆虫類（止水性トンボ類：コノシメトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、ホソミオツネントンボ）	0.00%	C
11	訪花性ハチ類（ニホンミツバチ、トラマルハナバチ本土亜種）	0.69%	C
12	自然布の素材(ヤママユ本土亜種、 ウスタビガ本土亜種)	0.31%	C
13	自然布の素材 (アカソ、クズ、カラムシ)	0.00%	D
14	かごづくりの素材（アオツヅラフジ、ヤマブドウ、アケビ）	0.00%	D
15	染色の色材（アカネ、ヤシャブシ、ヌルデ、ヨモギ、キハダ）	0.00%	D
16	湿地性植物	0.00%	C
17	湿地性植物(ハンノキ群落)	0.00%	C
18	湧水地の大型紅藻類(カワモズク類)	0.00%	C
19	洞窟性コウモリ類のねぐらとなる 洞穴・水路	0.00%	C
20	ハコネサンショウウオ	0.00%	C

注）予測結果の記号が示す意味は以下のとおり
A：生育環境は保全されない　B：生育環境は保全されない可能性がある
C：生育環境は保全される　　D：生育環境に変化は生じない